

Endeavor

AT971/971E

ユーザーズマニュアル

ご使用
の前に

設置
・
準備

1

基本
操作

2

装置の
増設

3

BIOS
設定

4

再
インス
トール

5

困った
ときに

6

付録


ご使用前に


- ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために


このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。




 **警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 **注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。









障害や事故の発生を防止するための禁止事項の内容を表しています。

	製品の取り扱いにおいて、してはいけない行為（禁止行為）を示しています。
--	-------------------------------------

障害や事故の発生を防止するための指示事項の内容を表しています。

	必ず行う事項（指示、行為）を示しています。
	電源プラグをコンセントから必ず抜くことを示しています。
	アース端子を接地（アース）することを示しています。

⚠ 警告

	<p>交流100V以外の電源は、使用しないでください。 交流100V以外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。</p>
	<p>ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。</p>
	<p>雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。 感電の原因となります。</p>
	<p>電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。 取り扱いを誤ると、火災の原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。 ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。 ・電源プラグを長期間コンセントに差したままにしない。 <p>電源プラグは、定期的にコンセントから抜いて、刃の根元や刃と刃の間を清掃してください。</p>
	<p>電源コードのたこ足配線はしないでください。 発熱し、火災の原因となります。 家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。</p>
	<p>破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。 電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源コードを加工しない。 ・無理に曲げたり、ねじったり、引っばったりしない。 ・電源コードの上に重いものを載せない。 ・発熱器具の近くに配線しない。 <p>電源コードが破損したら、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。</p>
	<p>本機から異臭や異音がする、発煙するなど、異常状態のまま使用しないでください。 感電・火災のおそれがあります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。 お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。</p>
	<p>通風孔など開口部から、本機内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。 感電・火災の原因となります。</p>

警告

 	水などの液体や異物が本機内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。感電・火災の原因となります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。
 	光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアを使用しないでください。飛び散って、けがをする危険があります。
 	本機の分解・改造や、マニュアルで指示されている以外の増設・交換はしないでください。 けが・感電・火災の原因となります。
	装置の増設・交換などをするときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。 電源プラグを抜かないで作業すると、感電や火傷の原因となります。
 	小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。 飲み込むと化学物質による被害の原因となります。 万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
	アルコール、シンナー、ガソリンなど揮発性可燃物質または可燃性ガスのある場所では使用しないでください。 また、本機の内部や周囲で可燃性ガス含有のスプレーを使用しないでください。 火災の原因となります。
	電源プラグのアース端子を接地（アース）してください。 接地しないで使用すると、感電の危険性があります。 アースは必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に行ってください。また、アースを外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。
	アース端子は、絶対にガス管に接続しないでください。 火災の原因となります。
	アース端子は、コンセントに挿入または接触させないでください。 感電の危険があります。

⚠ 注意

 	小さなお子様の手の届く所に設置、保管しないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
 	不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
 	湿気やホコリの多い場所に置かないでください。 感電・火災の危険があります。
 	本機の通風孔をふさがないでください。 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。 設置する際は、次の点を守ってください。 <ul style="list-style-type: none">・押し入れや本箱など風通しの悪いところに設置しない。・じゅうたんや布団の上などに設置しない。・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。
 	各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。 配線を誤ると、火災の危険があります。
 	装置の増設・交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。 本機の電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから作業を行ってください。
 	マウス底面にある光学式センサーの光を直接見つめないでください。 強い光により、視覚障害の原因となります。
 	ヘッドホンやスピーカーは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。 ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。
 	光ディスクドライブのディスクトレイに手を入れ、挟まれないようにしてください。 けがの原因になります。
 	長時間または不自然な姿勢でのコンピューター操作は避けてください。 肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。
	本機を移動する場合は、電源を切り、本機からすべての配線を取り外してください。

注意



連休や旅行などで本機を長期間使用しないときは、安全のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。

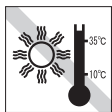


本機を廃棄する場合は、法律に従って正しく処理してください。

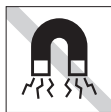
製品保護上の注意

▶使用・保管時の注意

コンピューター（本機）は精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。



温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。故障、誤動作の原因となります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。誤動作やデータ破損の原因となることがあります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。また、直射日光などの紫外線は、変色の原因となります。



電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎざぎざの所など）に本機を置かないでください。電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリー上から消えてしまいます。



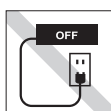
本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



本機の上には重い物を載せないでください（本機を横置きで使用する場合は、18kgまでのディスプレイを載せることができます）。重圧により、故障や誤動作の原因となります。



本機を梱包しない状態で、遠隔地への輸送や保管をしないでください。衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。



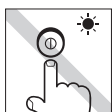
コンセントに電源プラグを接続したまま、本体カバーを外して作業しないでください。電源を切っても、本機内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。配線ケーブルはすべて取り外し、光ディスクメディアなどは取り出してください。



移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。内蔵の周辺機器（HDD、光ディスクドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



アクセスランプ点灯・点滅中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。



ホコリの多い所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。

▶記録メディア

記録メディアは、次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、記録メディアに収録されているデータが破損するおそれがあります。

<記録メディアの種類>

CD 光ディスクメディア

FD FD

MC メモリーカード

記録メディアの種類を指定していない注意事項は、すべての記録メディアに適用されます。



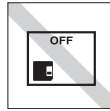
直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



アクセスランプ点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



上に物を載せないでください。



使用後は、本機にセットしたままにしたり、ケースに入れずに放置したりしないでください。



キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多い所では、使用したり保管したりしないでください。



クリップで挟む、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。



レコードのように回転させて拭かないでください。内側から外側に向かって拭いてください。



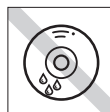
光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。



シールを貼らないでください。



信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。



温度差の激しい場所に置かないでください。結露する可能性があります。



何度も読み書きしたFDは使わないでください。
摩耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。

FD



アクセスカバーを開けたり、磁性面あるいは金属端子に触れたりしないでください。

FD MC



磁性面や金属端子にホコリや水を付けないでください。
シンナーやアルコールなどの溶剤を近づけないでください。

FD MC



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

FD MC

▶マウス

マウスは精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。



落としたり、ぶついたりして強い衝撃を与えないでください。



持ち運びの際は、マウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



レンズ部分に触れないでください。



ゴミやホコリの多い所で使用したり、保管したりしないでください。レンズにゴミやホコリが付いたまま使用すると、誤動作の原因となります。

目次

製品保護上の注意	7
使用・保管時の注意	7
記録メディア	8
マウス	9

はじめに

マニュアル中の表記	14
本製品の仕様とカスタマイズ	18

使い始めるまでの準備

ご使用の前に	20
本機を使い始めるまでの手順	20
ご使用前の確認事項	21
添付されているソフトウェア	22
本機でできること	25
各部の名称と働き	26
本体前面	26
本体背面	27
FDD (オプション)	29
マルチカードリーダー (オプション) ...	30
コンピューターの設定	31
電源の入れ方とWindowsのセットアップ	41
Windowsが使用できるようになるまでの作業 ...	41
電源を入れる前に	42
電源の入れ方とWindowsの起動	43
Windowsのセットアップ	44
初期設定ツール	46
セットアップ完了後の作業	47
Windows使用時の確認事項	48
Windows 7の使用方法	48
音量の調節	49
Windowsの修復	49
セキュリティー対策を行う	49
画面表示が消えたときは (省電力機能) ...	49
コントロールパネルの表示	50
フォルダーメニューの表示	50
ユーザーアカウントを作る	51
ユーザーアカウント制御画面	52
Windows Live Suite	53
PCお役立ちナビを使う	54
本機の終了方法	56
電源を切る (シャットダウン)	56
スリープにする	57
再起動	58

ハングアップしたときは	58
-------------------	----

コンピューターの基本操作

キーボードを使う	60
キーの種類と役割	60
文字を入力するには	61
日本語を入力するには	61
キーロック表示ランプ	62
マウスを使う	63
マウスの操作	63
マウスの設定変更	63
HDDを使う	64
データのバックアップ	64
購入時のHDD領域	64
HDDを分割して使用する	65
HDDを増設・交換したら	66
光ディスクドライブを使う	67
使用可能な光ディスクメディア	67
光ディスクメディアのセットと取り出し ...	68
強制的な光ディスクメディアの取り出し ...	71
CDメディアの読み込み・再生	71
DVDメディアの読み込み・再生	72
光ディスクメディアへの書き込み	74
Nero 9 Essentialsの使い方	75
FDDを使う (オプション)	76
FDのセットと取り出し	76
FDのフォーマット	78
ライトプロテクト (書き込み禁止)	79
マルチカードリーダーを使う (オプション)	80
使用可能なメモリーカード	80
マルチカードリーダー使用時の注意	82
メモリーカードのセットと取り出し	83
USB機器を使う	85
USB機器の接続と取り外し	85
画面表示機能を使う	87
使用できるディスプレイ	87
表示に関する各種設定	88
表示できる解像度と表示色	89
2台のディスプレイに表示する	90
サウンド機能を使う	93
外部オーディオ機器などの接続	93
音量の調節	95
サウンドユーティリティを使う	96
ネットワーク機能を使う	98
ネットワークの構築	98

インターネットへの接続	98
そのほかの機能	99
インターネットに接続する	102
インターネットや電子メールを利用する ...	102
インターネットを使用する際のセキュリティ対策 ...	105
Windows Update	105
セキュリティソフトウェア	106
Webフィルタリングソフトウェア	108
省電力機能	111
本機を省電力状態にする	111
省電力状態に移行する方法	114
そのほかの機能	116
パラレルコネクタ	116
シリアルコネクタ	116
セキュリティロックスロット	117

システムの拡張

拡張できる装置	120
作業時の注意	122
拡張時の準備作業	123
本体カバーの取り外し・取り付け	123
メモリーの装着	126
メモリーの仕様	126
メモリー装着の組み合わせ	127
メモリーの取り付け・取り外し	127
メモリーの増設・交換後の作業	130
拡張ボードの装着	131
拡張スロットの仕様	131
拡張ボードの取り付け・取り外し	132
拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業 ...	135
HDDの装着	136
HDDの取り付け・取り外し	136
HDDの取り付け後の作業	141

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に	144
BIOS Setupユーティリティの操作	145
BIOS Setupユーティリティの起動 ...	145
BIOS Setupユーティリティの操作 ...	146
BIOS Setupユーティリティの終了 ...	149
設定値を元に戻す	150
パスワードを設定する	151
HDDアクセス制限	154
起動 (Boot) デバイスの順番を変更する ...	155

BIOS Setupユーティリティの設定項目	157
Mainメニュー画面	157
Advancedメニュー画面	159
Power メニュー画面	161
Bootメニュー画面	163
Exitメニュー画面	165
BIOSの設定値	166

ソフトウェアの再インストール

再インストールする前に必ずお読みください ...	170
重要事項	171
ソフトウェアの再インストールを行う	172
必要なメディア	172
再インストールの概要	172
インストールの順番	173
インストール作業における確認事項	175
Windowsのインストール	176
Windows 7をインストールする	177
リカバリーツールのインストール	181
本体ドライバーのインストール	181
拡張ボードのドライバーのインストール ...	183
Adobe Readerのインストール	183
Windows Live Suiteのインストール ...	184
セキュリティソフトウェアのインストール ...	185
WinDVDのインストール	186
Nero 9 Essentialsのインストール ...	186
WDLCフォトガジェットのインストール ...	187
Webフィルタリングソフトウェアのインストール ...	188
JWord Pluginのインストール	189
gooスティックのインストール	189
そのほかのインストール	190
再インストール後の作業	190

困ったときは

トラブルが発生したら	194
起動・画面表示できる場合…	
PCお役立ちナビで調べる	194
起動・画面表示できない場合	195
起動・画面表示できないときは	196
診断をする	196
対処をする	197
エラーメッセージ一覧	202
トラブル時に効果的な対処方法	203
セーフモードでの起動	204

常駐ソフトの停止	204
システムの復元	204
前回正常起動時の構成で起動する	205
CMOS RAMの初期化	206
Windows回復環境 (Windows RE) を使う ...	209
システム診断ツールを使う	212

付録

お手入れ	216
本機のお手入れ	216
データのバックアップ	217
PCお役立ちナビのデータをバックアップする ...	217
データのバックアップ方法	218

バックアップCDの作成	219
バックアップCDの作成方法	219
バックアップCDからインストールを行うには ...	220
セキュリティチップ (TPM) によるデータの暗号化 ...	221
HDD領域 (ドライブ) の分割・変更・作成	222
HDD領域を分割して使用する (概要) ...	222
Cドライブを分割・変更する	223
Cドライブ以外のドライブを作成・変更する ...	226
Cドライブ以外のドライブを削除する ...	229
リチウム電池の交換	231
コンピューターを廃棄するときは	234
HDDのデータを消去する	234
機能仕様一覧	236
索引	237

はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

「マニュアル中の表記」	14
「本製品の仕様とカスタマイズ」	18

マニュアル中の表記

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載しています。



参考事項です。
覚えておくと便利なことを記載しています。



本書とは別のマニュアルを示します。
例) 『梱包品の確認』: 本機に添付の『梱包品の確認』を示します。




参照先を示します。



1 2




操作手順です。
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。



 で困んだマークはキーボード上のキーを表します。



この例では、 を押したまま  を押します。

 はEnterキーを表します。また、 は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CDメディア、DVDメディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称
メモリーカード	メモリースティック、マルチメディアカード、SDメモリーカード、スマートメディア、コンパクトフラッシュの総称

オペレーティングシステム（OS）に関する記述

本書では、オペレーティングシステム（OS）の名称を次のように略して表記します。

Windows 7	Windows 7 [®] Professional Windows 7 [®] Home Premium
-----------	--

HDD 容量の記述

本書では、HDD 容量を1GB（ギガバイト）=1000MBとして記載しています。

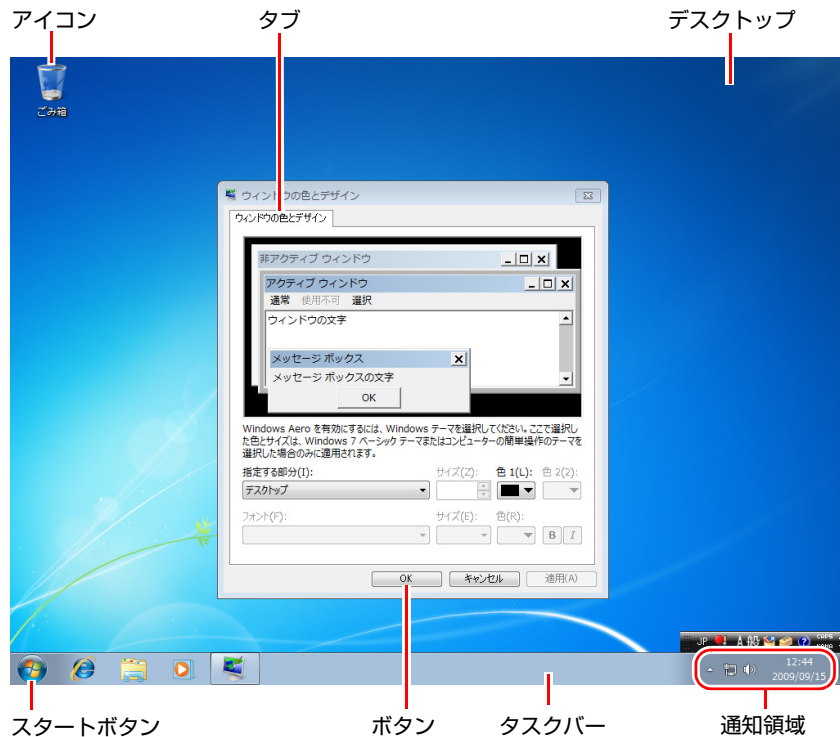
メモリー容量の記述

本書では、メモリー容量を1GB（ギガバイト）=1024MBとして記載しています。

Windowsの画面表示に関する記載方法

デスクトップ画面

本書では、Windowsの画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



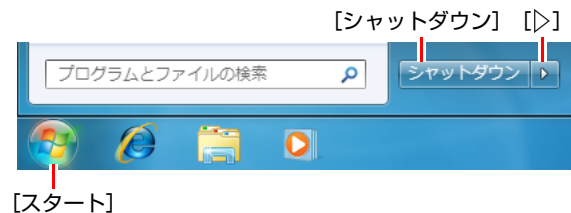
ボタン

ボタンは [] で囲んで記載します。

例)  : [OK]

スタートメニュー

スタートメニューのボタン類は、次のように記載します。



画面操作

本書では、Windowsの画面上で行う操作手順を次のように記載します。

- 記載例

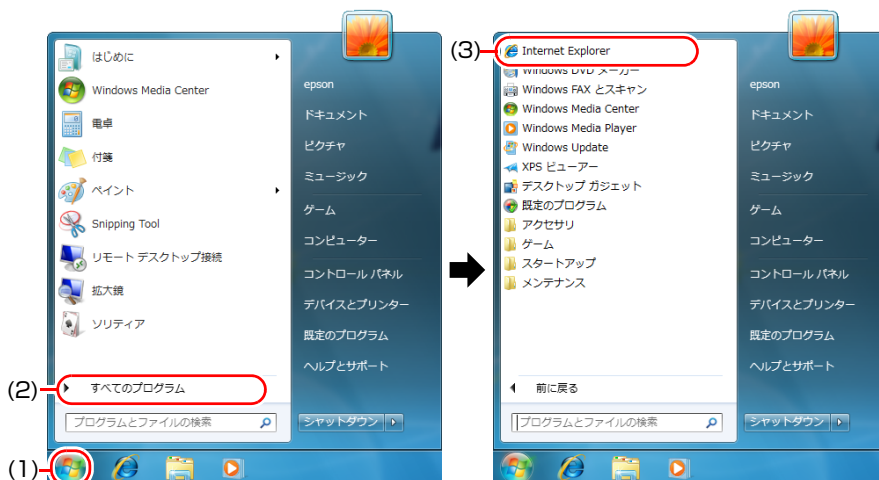
[スタート] – 「すべてのプログラム」 – 「Internet Explorer」をクリックします。

- 実際の操作

(1) [スタート] をクリックします。

(2) 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

(3) 表示されたメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



※表示される項目は、システム構成によって異なります。

本製品の仕様とカスタマイズ

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様をカスタマイズしています。CPUの種類・メモリー容量・光ディスクドライブなど、選択された仕様に合わせて、お客様 オリジナルのコンピューターとして組み立て、納品しています。

本書で記載しているコンピューターの製品仕様

本書では特に記載がない限り、下記の製品仕様で説明を行っています。お客様が購入された製品の仕様が下記と異なる場合、それらの使用方法やドライバーのインストール方法などは、購入時に選択された各装置のマニュアルを参照してください。

メモリー	: 2枚
HDD	: 1台
光ディスクドライブ	: 1台
FDD/マルチカードリーダー	: 選択しない（使用方法は本書に記載）
ディスプレイ機能	: マザーボードの機能を使用
ネットワーク機能	: マザーボードの機能を使用
サウンド機能	: マザーボードの機能を使用

仕様によって必要なマニュアル

本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、『ユーザーズマニュアル』（本書）とは別に提供されます。

お使いになる仕様によって必要となるマニュアルは、下記のとおり別冊や電子マニュアルなどの形式で提供しています。ご確認ください。

- 本製品に同梱されている別冊マニュアル
- CD-ROMなどに収録されている電子マニュアル（PDFファイルなど）
- コンピューターに収録されている電子マニュアル（「PCお役立ちナビ」－[マニュアルびゅーわ] から閲覧）

第1章 使い始めるまでの準備

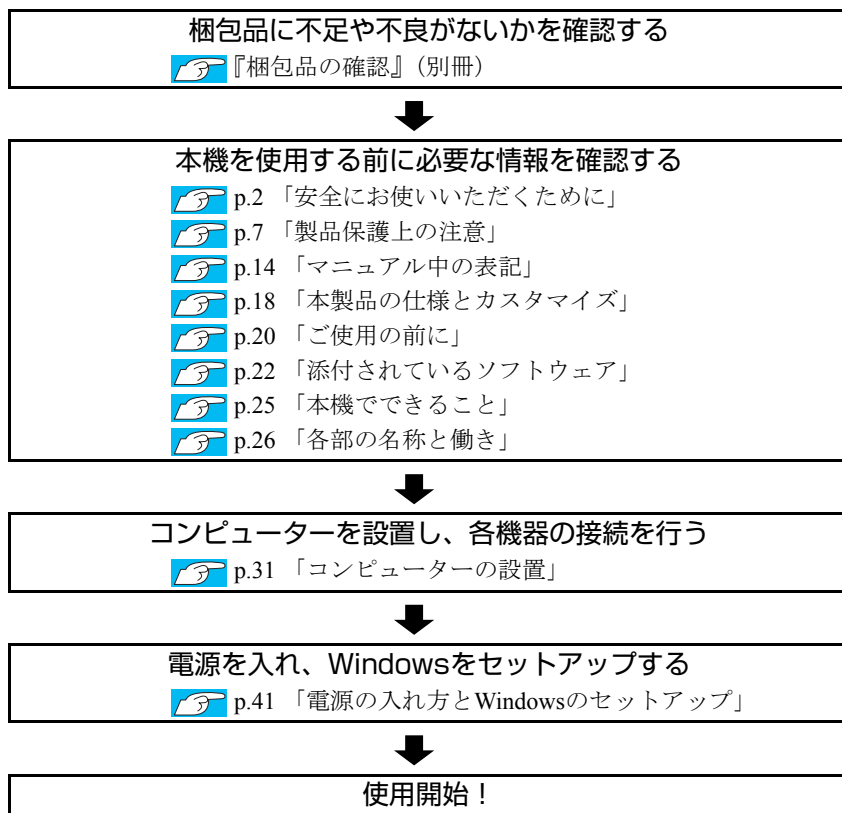
本機の接続方法、電源の入れ方や切り方、Windowsのセットアップについて説明します。

「ご使用前に」	20
「添付されているソフトウェア」	22
「本機でできること」	25
「各部の名称と働き」	26
「コンピューターの設置」	31
「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」	41
「Windows使用時の確認事項」	48
「PCお役立ちナビを使う」	54
「本機の終了方法」	56

ご使用前に

▶本機を使い始めるまでの手順

購入後にはじめて本機を使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。



▶ご使用前の確認事項

貼付ラベルの確認

本機には、製品情報などが記載された次のラベルが貼られています。本機をご使用前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは絶対にはがさないでください。

- お問い合わせ情報シール

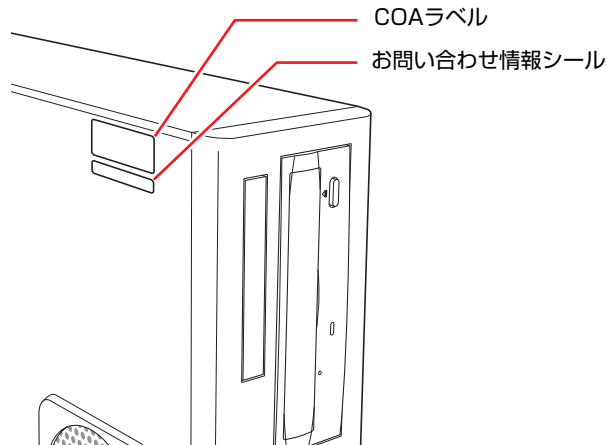
お問い合わせ情報シールには、型番や製造番号が記載されています。当社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

お問い合わせ情報シールに記載されている製造番号は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）の表紙に書き写しておいてください。

- COAラベル

COAラベル（Certificate of Authenticityラベル）は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。

万一、COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



サポート・サービスのご案内




『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや、万一の場合に備えてお読みいただくことをおすすめします。

添付されているソフトウェア




購入時、本機にインストールされているソフトウェアと、購入後、必要に応じてインストールするソフトウェアは次のとおりです。


表中記号の見方

	ソフトウェアは添付のDVDまたはCDに収録されています。
	ソフトウェアはHDDの「消去禁止領域」に収録されています。この領域を削除すると再インストールができなくなります。「消去禁止領域」は、絶対に削除しないでください。  p.65 「消去禁止領域とは」

本機にインストールされているソフトウェア


次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされています。

本機にインストールされているソフトウェア	インストール用データの収録場所
● Windows 7 本機のオペレーティングシステム (OS) です。	 Windows 7リカバリー DVD
● リカバリーツール HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアを再インストールするためのプログラムです。	 リカバリーツールCD
● チップセットドライバー マザーボード上のデバイスを使用するためのドライバーです。	
● ビデオドライバー マザーボード上のディスプレイ機能を使用するためのドライバーです。	
● サウンドドライバー マザーボード上のサウンド機能を使用するためのドライバーです。	
● ネットワークドライバー マザーボード上のネットワーク機能を使用するためのドライバーです。	
● Java2 Runtime Environment Javaアプリケーションを実行するためのソフトウェアです。	
● PCお役立ちナビ コンピューターの情報を簡単に検索できるサポートツールです。システム診断ツールも含まれています。	
● Adobe Reader PDF (Portable Document Format) 形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。	
● マカフィー・PCセキュリティセンター 90日期間限定版 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能などを備えたセキュリティソフトウェアです。危険なサイトへのアクセスを防ぐWebセーフティーツール「マカフィー・サイトアダプティブプラス」も含まれています。 購入時の選択によっては、インストールされていません。	 消去禁止領域

本機にインストールされているソフトウェア	インストール用データの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ● Windows Live Suite 「Windows Liveメール」など、複数のソフトウェアを含むパッケージです。 ● WinDVD DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。 ● Nero 9 Essentials (書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時) 光ディスクメディアに書き込みを行うためのソフトウェアです。 	 消去禁止領域

必要に応じてインストールするソフトウェア

次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされていません。Windowsのセットアップ後に必要に応じてインストールしてください。

必要に応じてインストールするソフトウェア	インストール用データの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ● i-フィルター 5 30日版 インターネット上の有害なWebページへのアクセスを制限するWebフィルタリングソフトウェアです。 ● JWord Plugin Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索するためのソフトウェアです。 ● gooスティック Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するためのソフトウェアです。 ● WDLFCフォトガジェット デスクトップ上で写真を閲覧・管理するためのソフトウェアです。Windows 7 Home Premiumの場合は、購入時にインストールされています。 ● セキュリティーチップユーティリティ セキュリティーチップ (TPM) の設定を行うためのユーティリティです。 	 消去禁止領域

参考

消去禁止領域に収録されているソフトウェアのバックアップ


書き込み機能のある光ディスクドライブを搭載している場合、HDDの「消去禁止領域」に収録されているソフトウェアを、CDにバックアップすることができます。

 p.219 「バックアップCDの作成」

その他のソフトウェア

次のソフトウェアは、CDから起動して実行します。インストールは必要ありません。

 p.212 「システム診断ツールを使う」

その他のソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none">● システム診断ツール 本機の調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。HDD内のデータを消去することもできます。	 リカバリーツールCD

本機でできること

本機は、主にオフィス向けの基本機能を備えたデスクトップ型コンピューターです。
本機では、次のような操作ができます。



インターネットやメールを利用する

 p.102

光ディスクを再生する
光ディスクにデータを保存する（オプション）

 p.67

ネットワークに接続する

 p.98

USB機器を使う

 p.85

パラレル接続の機器を使う

 p.116

省電力機能を使う

 p.111

シリアル接続の機能を使う

 p.116

ディスプレイを2台接続する

 p.90

装置（メモリー・拡張ボード・HDD）を増設・交換する

 p.119

FDを使う（オプション）

 p.76

音声の入力/出力をする

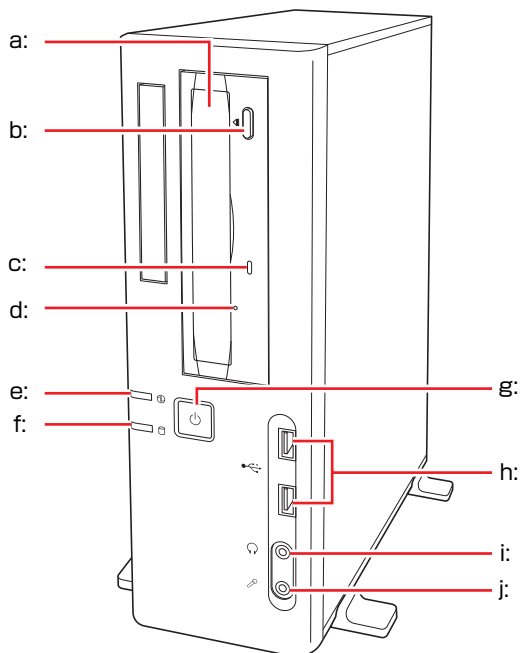
 p.93

メモリーカードを使う（オプション）

 p.80

各部の名称と働き

▶ 本体前面



a: 光ディスクドライブ

光ディスクメディアの読み込みや書き込みなどを行います（光ディスクドライブにより、使用できるメディアや機能は異なります）。

b: 光ディスクドライブイジェクトボタン

ディスクトレイの開閉を行います。

c: 光ディスクドライブアクセスランプ

光ディスクメディアへのアクセス中に点灯・点滅します。

d: 光ディスクドライブイジェクトホール

ディスクトレイが開閉しなくなったときに使用します。

e: 電源ランプ

電源を入れると緑色に点灯し、スリープ状態ではオレンジ色に点灯します（購入時の設定）。

f: HDDアクセスランプ

HDDへのアクセス中に、点灯・点滅します。

g: 電源スイッチ

本機の電源の入切を行います。また、スリープ状態や休止状態からの復帰にも使用します。

h: USBコネクタ

USB対応の機器を接続します。

i: ヘッドホン出力コネクタ

ヘッドホンと接続して音声を出力します。

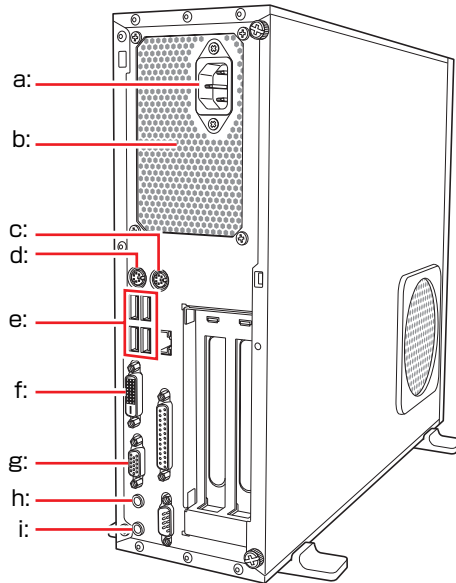
j: マイク入力コネクタ

マイクを接続して音声を入力します。



アクセスランプが点灯・点滅しているときに本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。データが破損するおそれがあります。

▶ 本体背面

**a: 電源コネクタ**

添付の電源コードを接続して電気を供給します。

b: 通風孔

本機内部で発生する熱を逃がします。

c: マウスコネクタ (PS/2)

PS/2対応のマウスを接続します。

d: キーボードコネクタ (PS/2)

キーボードを接続します。

e: USBコネクタ

USB対応の機器を接続します。

f: DVI-Dコネクタ (LCD)

デジタル方式のディスプレイとDVI-D (デジタル) ケーブルで接続します。

DVI-I (アナログ・デジタル両用) ケーブルは接続できません。

g: VGAコネクタ

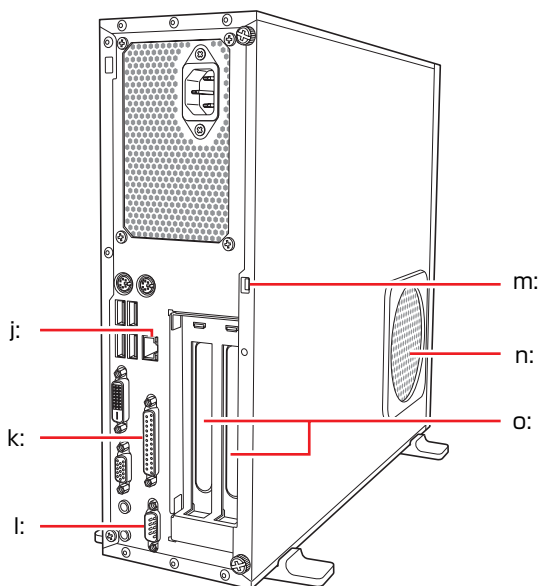
アナログ方式のディスプレイとVGA (アナログ) ケーブルで接続します。

h: ライン入力コネクタ

オーディオ機器と接続して音声を入力します。

i: ライン出力コネクタ

アンプ内蔵スピーカーやヘッドホンなどと接続して音声を出力します。



j: LANコネクタ

LANケーブルを接続します。

k: パラレルコネクタ

プリンターやスキャナーなど、パラレルコネクタに対応した装置を接続します。

l: シリアルコネクタ

モデムなど、RS-232Cインタフェースに対応した装置を接続します。

m: セキュリティーロックスロット

市販の盗難抑止用ケーブル（ワイヤー）を取り付けます。

n: 通風孔

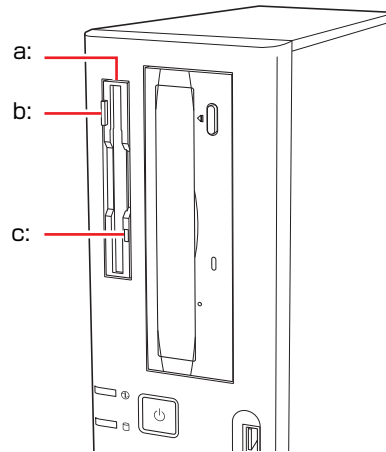
本機内部に外気を取り入れます。

o: 拡張スロット

拡張ボードを装着します。購入時のシステム構成によっては、あらかじめ拡張ボードが装着されています。

▶FDD (オプション)

本機購入時にFDDをオプション選択された場合、本機にはFDDが装着されています。



a: 3.5型FDD

3.5型FDのデータの読み込み、書き込みを行います。

b: FDDイジェクトボタン

FDDにセットしたFDを取り出すときに押します。

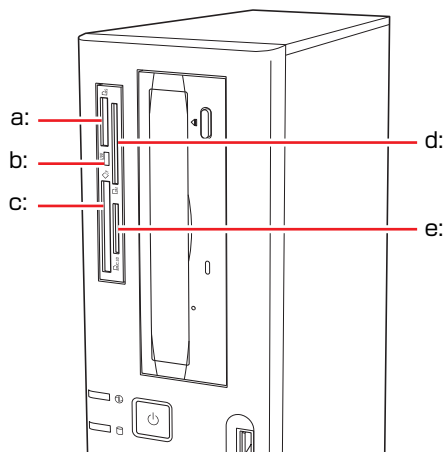
c: FDDアクセスランプ

FDに読み書きを行っているときに点灯します。

外付けUSB FDDをオプション選択された場合は、USB FDDのマニュアルをご覧ください。

▶マルチカードリーダー（オプション）

本機購入時にマルチカードリーダーをオプション選択された場合、本機にはマルチカードリーダーが装着されています。



a: メモリースティックスロット \square_{MS}
メモリースティックをセットします。

b: マルチカードリーダーアクセスランプ $\square_{R/W}$
ランプの点灯・点滅で、状態を表示します。
点灯：メモリーカードセット時
点滅：メモリーカードアクセス時

c: コンパクトフラッシュスロット \triangle_{CF}
コンパクトフラッシュをセットします。

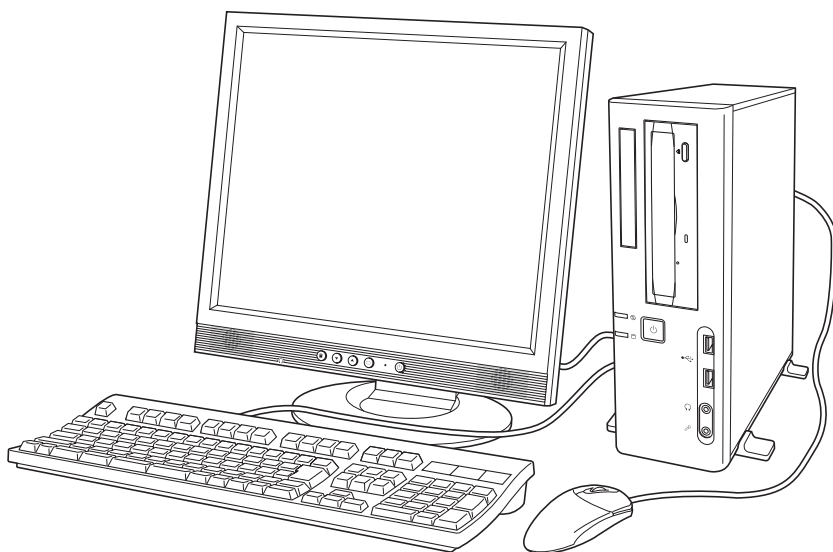
d: スマートメディアスロット \square_{SM}
スマートメディアをセットします。

e: SDカードスロット $\square_{MMC,SD}$
SDメモリーカード、またはマルチメディアカードをセットします。

コンピューターの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は標準的なシステム構成で行っています。プリンターなどの周辺機器を接続する場合は、Windowsのセットアップ完了後に、周辺機器のマニュアルを参照して行ってください。




1

設置における注意



注意

- 不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置する際は、次の点を守ってください。
 - ・ 押し入れや本箱などの風通しの悪いところに設置しない。
 - ・ じゅうたんや布団の上に設置しない。
 - ・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、 p.7「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード（ケーブル）接続時の注意



- めれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 本機の電源コードは、たこ足配線をしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



- 各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。
- ヘッドホンやスピーカーを使用するときは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。ボリュームの調節が大きくなっていると思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

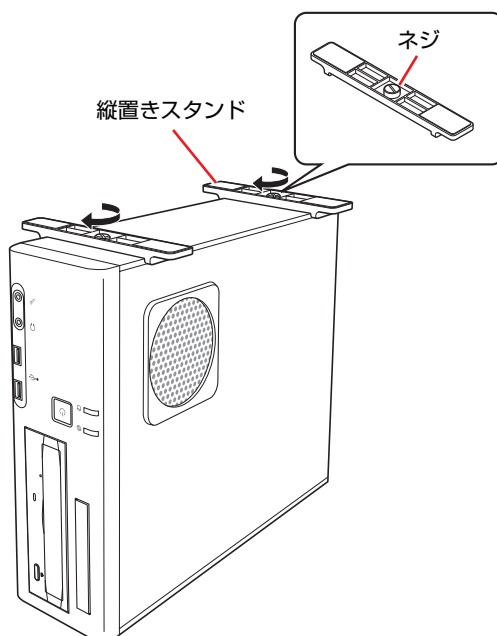
設置する

- 1 設置場所に応じて、本機を縦置きまたは横置きどちらにするか決め、設置準備を行います。

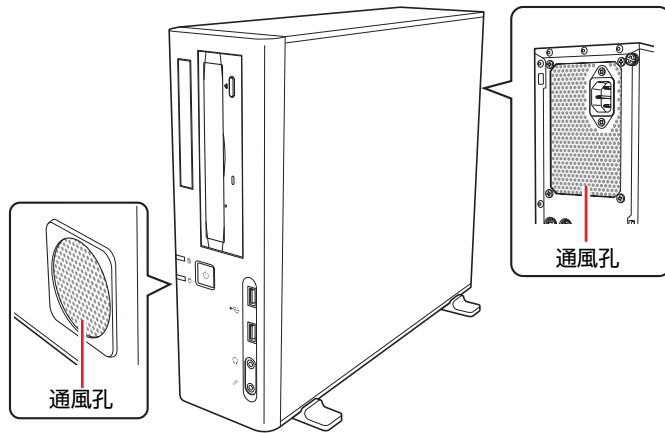
<縦置きにする場合>

転倒防止のため、必ず縦置きスタンドをセットしてください。

- (1) 光ディスクドライブ側を下にして置き、2個の縦置きスタンドを、スタンドに装着されているネジで留めます。

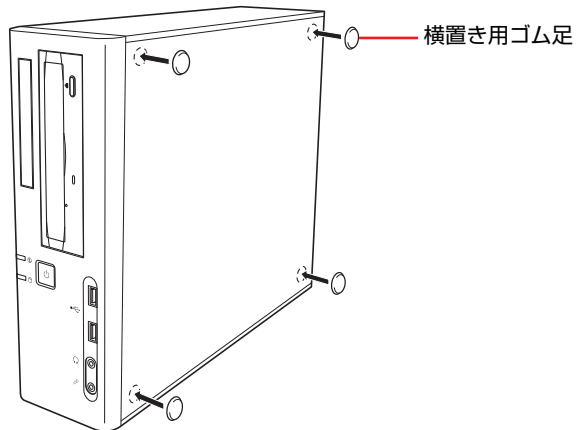


- (2) 縦置きスタンドを下にして置きます。
設置した際に、通風孔をふさがないようにしてください。



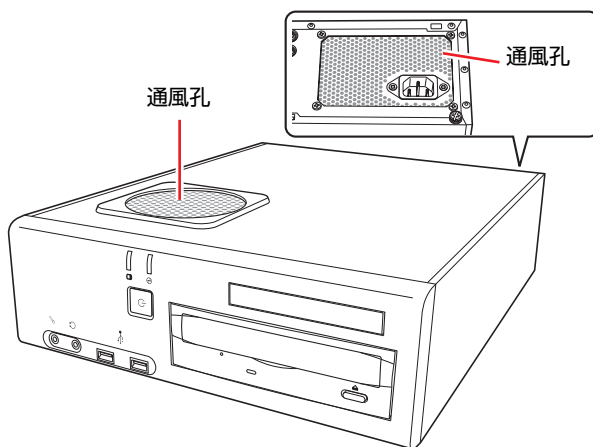
<横置きにする場合>

- (1) 添付の横置き用ゴム足（4個）を通風孔のない面の4隅に付けます。



(2) ゴム足を付けた面を下にして置きます。

設置した際に、通風孔をふさがないようにしてください。

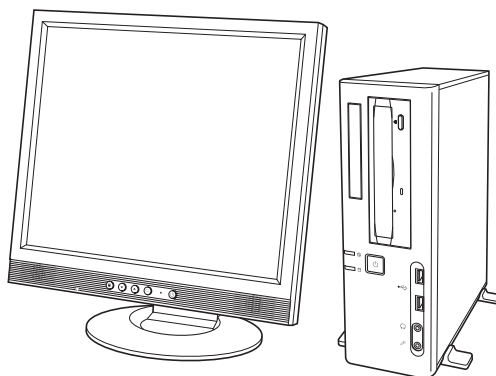


制限

- 本機の上に載せられるディスプレイの重さは、18kgまでです。18kgより重いディスプレイは載せないでください。
- 本機の上にディスプレイを載せるときは、通風孔をふさがないようにしてください。

2 本機とディスプレイを設置場所（丈夫で水平な台の上など）に置きます。

以降の手順は、本機を縦置きにした状態で説明しています。本機を横置きにして使用する場合も、手順は同様です。



ディスプレイを接続する

本機には、デジタル出力とアナログ出力の2つのコネクタが搭載されています。

ディスプレイ側の接続方法や注意事項などの詳細は、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

3 使用するディスプレイがデジタル接続かアナログ接続かを確認し、ディスプレイのケーブルを本機背面の該当するコネクタに接続します。

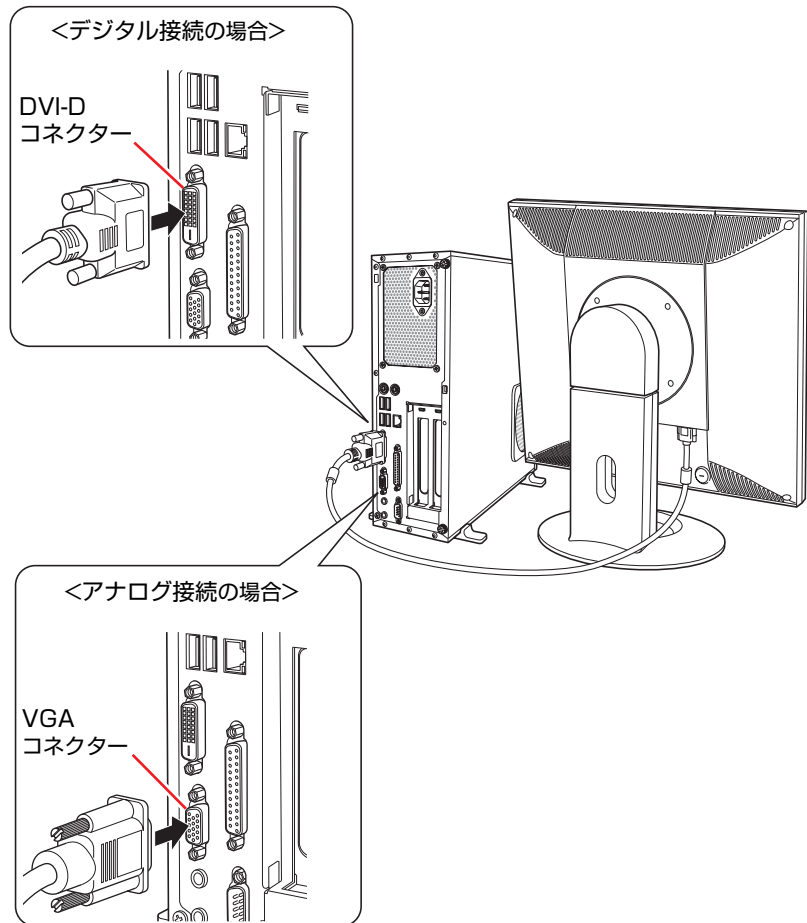
<アナログ接続の場合>

VGAケーブルをVGAコネクタに接続します。

<デジタル接続の場合>

DVI-DケーブルをDVI-Dコネクタに接続します。

ディスプレイがデジタル/アナログ両用の場合は、デジタル接続で使用します。



キーボードを接続する


ここでは一般的な接続方法を説明しています。

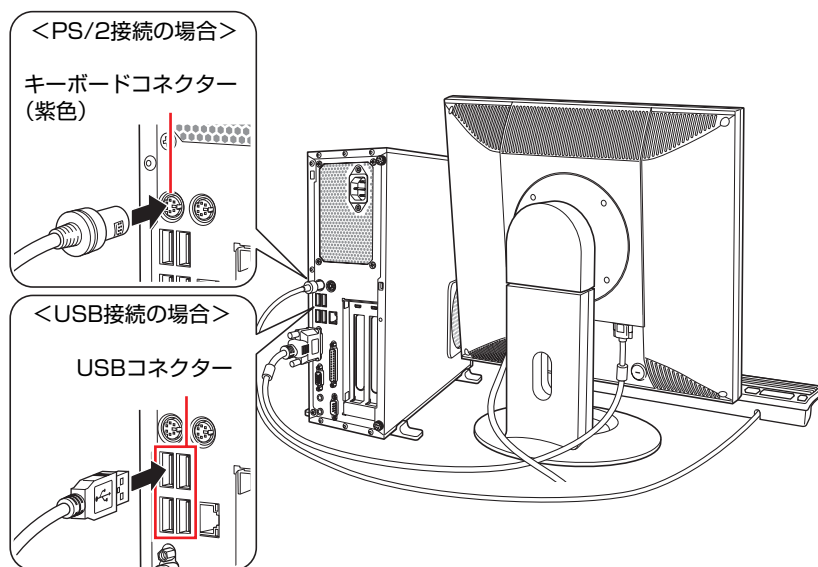
4 キーボードを接続します。

<PS/2接続の場合>

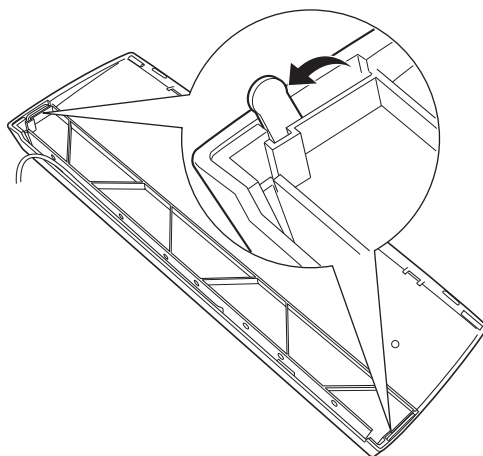
キーボードケーブルのコネクターを本機背面のキーボードコネクター（紫色）に接続します。

<USB接続の場合>

キーボードケーブルのコネクターを本体背面のUSBコネクター（)に接続します。4つのUSBコネクターは同じ機能ですので、どのコネクターを使用しても構いません。



キーボードは操作しやすい位置に置き、傾斜させるときはキーボード底面の両端の脚を起こします。



マウスを接続する

ここでは一般的な接続方法を説明しています。

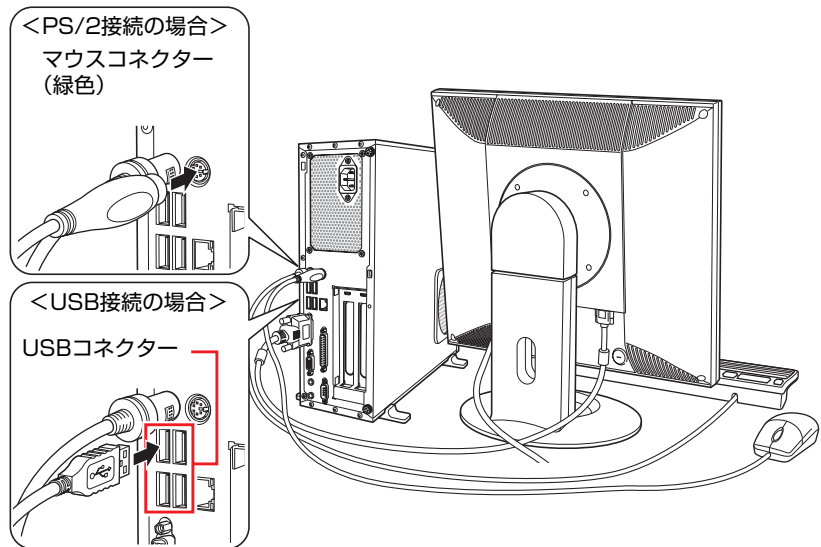
5 マウスを接続します。

<PS/2接続の場合>


マウスケーブルのコネクターを本機背面のマウスコネクター（緑色）に接続します。

<USB接続の場合>

マウスケーブルのコネクターを本機のUSBコネクター（)に接続します。



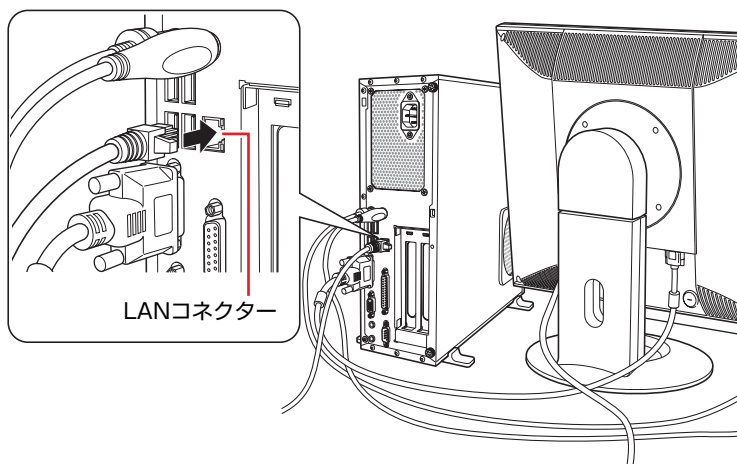
マウスを左利き用で使う場合は、Windowsのセットアップ後に設定します。

 p.63 「マウスの設定変更」

ネットワークへ接続する

- 6** ネットワークを使用する場合は、市販のLANケーブルを本機背面のLANコネクタ（品）に接続します。

インターネットへの接続作業はWindowsのセットアップ後に行います。接続方法は、通信サービス会社やプロバイダーから提供されたマニュアルをご覧ください。



LANコネクタ

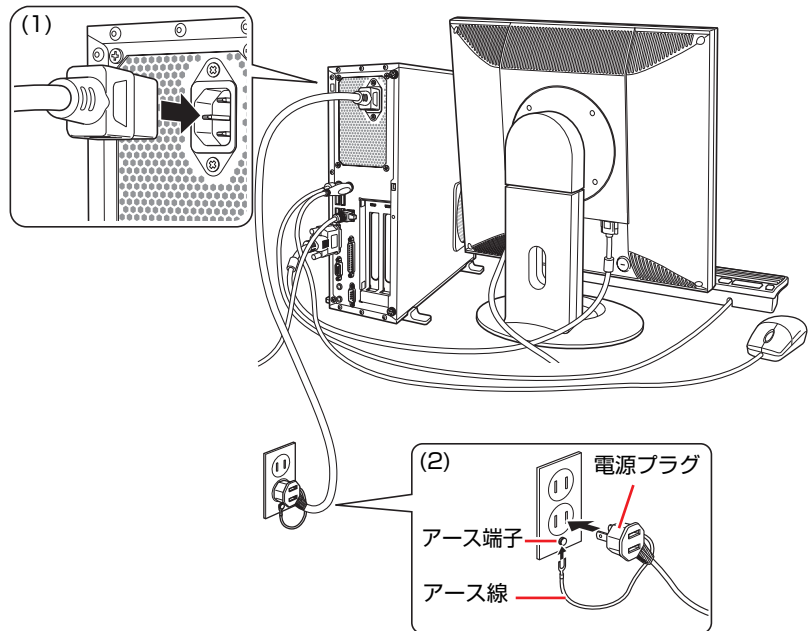
電源コードを接続する

7 本機の電源コードを接続します。

(1) 電源コードを本機背面の電源コネクタに接続します。

(2) 電源プラグを家庭用電源コンセントに接続します。

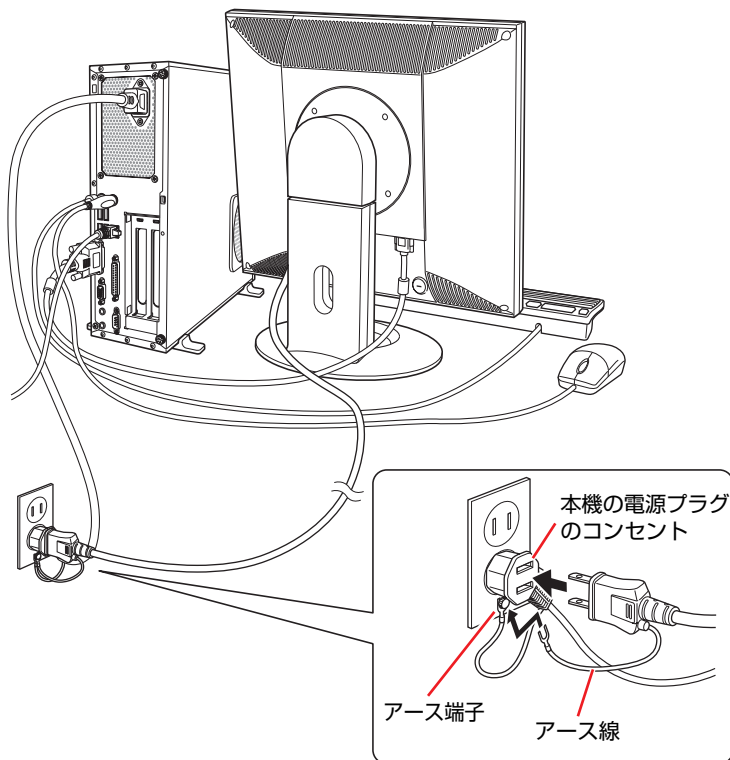
アース線は、必ずコンセントのアース端子に接続してください。



- 8** ディスプレイの電源プラグを、手順7で接続した本機の電源プラグのコンセントに接続します。



本機の電源プラグのコンセント（定格 8A）には、コンピューター用ディスプレイ以外の機器を接続しないでください。
発熱し、火災の危険があります。



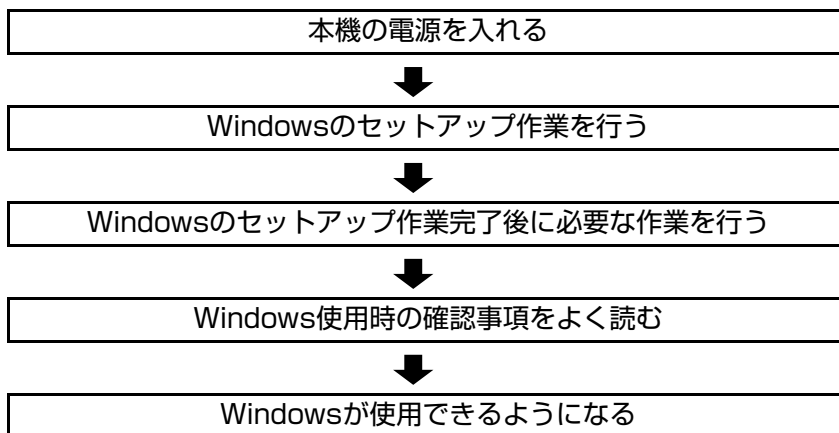
これで本機の設置は完了です。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

ここでは、本機にはじめて電源を入れて、Windowsを使用できる状態にするまでの作業について説明します。

▶Windowsが使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。



▶電源を入れる前に

Windowsのセットアップとは

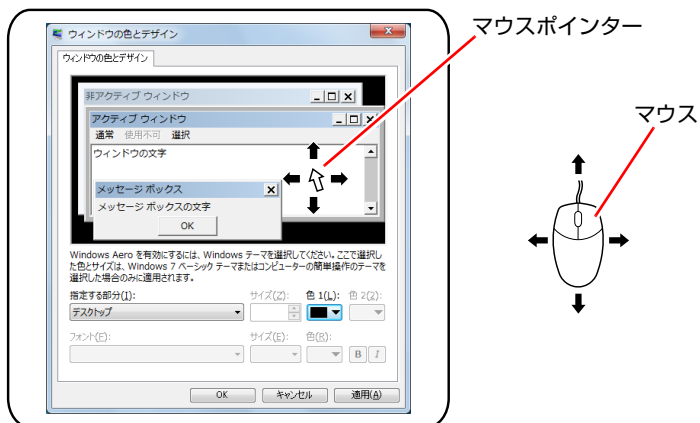
「Windowsのセットアップ」は、コンピューターが届いてから、はじめて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って、セットアップを簡単に行うことができます。

マウスの使い方

Windowsのセットアップは、マウスを使用して行います。セットアップで必要なマウスの基本操作は、次のとおりです。

- マウスポインターを動かす

マウスを前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているマウスポインターもマウスを動かした方向に動きます。



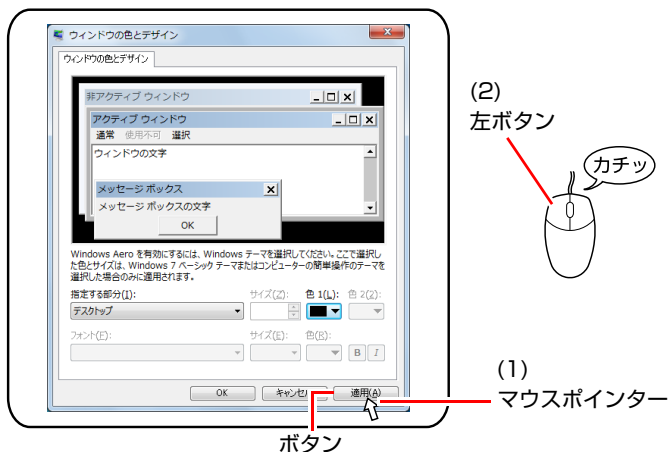
- ボタンをクリックする

(1) マウスを動かして、マウスポインターを画面のボタンの上に重ねます。

(2) マウスの左ボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

この動作を「クリック」と言います。

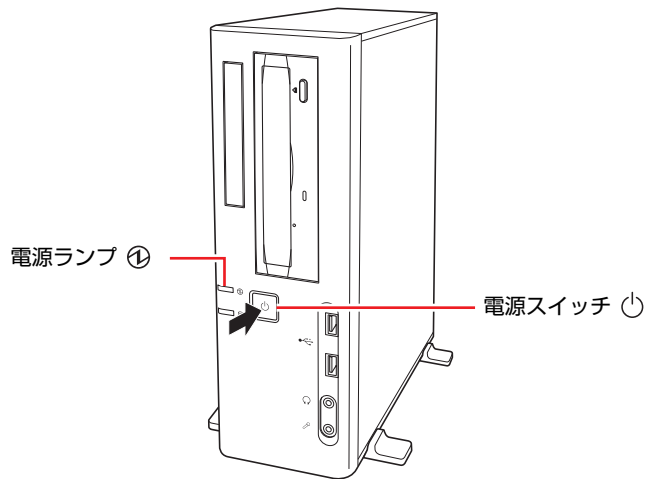
画面のボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。



▶電源の入れ方とWindowsの起動


本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

- 1 ディスプレイの電源を入れます。**
- 2 本機の電源スイッチ (⏻) を押して、本機の電源を入れます。**
電源ランプ (①) が緑色に点灯します。
電源を入れたときに電源ランプが点灯しない場合は、電源コードが正しく接続されているか確認してください。



- 3 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。**
画面に何も表示されない場合は、ディスプレイが正しく接続されているか、ディスプレイの電源が入っているか確認してください。

続いて、Windowsのセットアップを行います。

 p.44 「Windowsのセットアップ」

▶Windowsのセットアップ

電源を入れたあと、しばらくすると自動的にWindowsのセットアップ画面が表示されます。画面の指示に従ってセットアップを行ってください。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。

Windowsのセットアップ

「国または地域」、「時刻と通貨の形式」、「キーボードレイアウト」を確認し、[次へ] をクリックします。



新しいアカウントのユーザー名とコンピューター名を入力してください

ユーザー名、コンピューター名を入力し、[次へ] をクリックします。

※ コンピューター名は、本機をネットワーク（家庭内LANや社内LAN）に接続して使用する場合などに必要です。

- ネットワークに接続しない場合は、セットアップ時にコンピューター名を変更する必要はありません。
- ネットワークに接続する場合は、ネットワーク上にあるほかのコンピューター名と重複しないように、コンピューター名を変更してください。



ユーザーアカウントのパスワードを設定します

パスワード（任意）を入力し、[次へ] をクリックします。

※ パスワードは必要に応じて入力してください。パスワードを設定すると、設定したユーザー名（アカウント）でログオン時にパスワードの入力が要求されます。パスワードを設定した場合は、絶対に忘れないようにしてください。



ライセンス条項をお読みください

画面に表示された条項を確認し、「ライセンス条項に同意します」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。




コンピューターの保護とWindowsの機能の向上

更新の設定をクリックして選択します。

「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。

※ 「推奨設定を使用します」を選択すると、Windows Updateが自動で行われるようになります。

 p.105 「Windows Update」



日付と時刻の設定を確認します

「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定して、[次へ] をクリックします。



お使いのコンピューターの現在の場所を選択してください

ネットワークに接続している場合、表示されます。
使用する場所を選択します。


**デスクトップ画面の表示**

Windowsのデスクトップ画面が表示されます。



<イメージ>

これでWindowsのセットアップは完了です。
続いて、初期設定ツールでソフトウェアのインストールなどを行います。

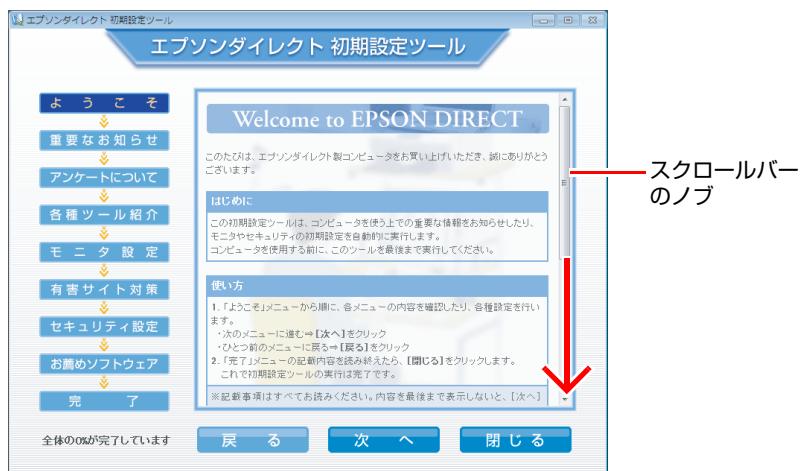
 p.46 「初期設定ツール」

参考**ライセンス認証**

購入時に本機にインストールされているWindowsや、「Windows 7リカバリーDVD」から再インストールを行ったWindowsは、ライセンス認証を行う必要はありません。

▶初期設定ツール

Windowsのセットアップが完了すると、「初期設定ツール」が自動的に起動します。初期設定ツールは、本機を使用する前に必要な設定を行ったり、ソフトウェアをインストールしたりするためのツールです。画面の指示に従って設定を行ってください。



<イメージ>

画面の記載項目はすべてお読みください。スクロールバーのノブを一番下まで移動させて、すべての内容を表示させないと、[次へ] はクリックできません。

参考

初期設定ツールの起動方法

初期設定ツールが自動的に起動しない場合や、初期設定ツールを再実行したい場合などは、次の方法で起動することができます。


[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「初期設定ツール」

▶セットアップ完了後の作業

Windows のセットアップと初期設定ツールでの作業が完了したら、次の作業を行います。


ネットワークに接続する

ネットワーク機能（有線LAN）を使用する場合は、ネットワークに関する情報が必要です。お使いになるネットワーク機器のマニュアルなどをご覧ください。

 p.98 「ネットワーク機能を使う」

PCお役立ちナビのバックアップ

サポートツール「PCお役立ちナビ」に収録されているコンテンツ類やマニュアルデータ（PDF）は、Windowsを再インストールすると消去されます。あらかじめバックアップを行ってください。

 p.217 「PCお役立ちナビのデータをバックアップする」

システムイメージを保存する

事前にシステムイメージを保存しておく、と、なんらかの原因でWindowsが起動しなくなった場合、Windowsやソフトウェアを、システムイメージ保存時の状態まで一度にリカバリーすることができます。

不具合発生時に回復できるように、システムイメージを保存しておくことをおすすめします。

保存方法は、次の場所をご覧ください。

「PCお役立ちナビ」－「トラブル解決」－「Windowsの操作」－「バックアップ」－「システムイメージの作成を使ってバックアップを行う方法」

Windows使用時の確認事項


「セットアップ完了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用の前に次の事項を確認してください。

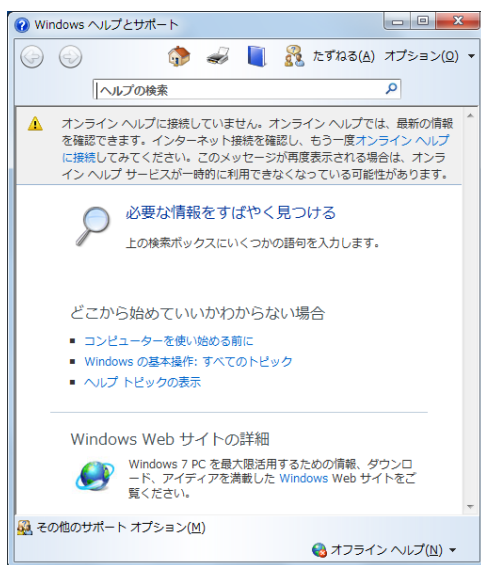
▶ Windows 7の使用方法

Windows 7の使用方法は、次をご覧ください。


● ヘルプとサポート

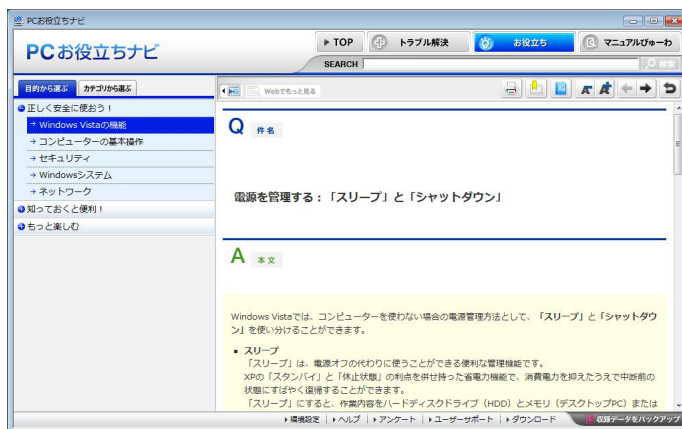
「ヘルプとサポート」は次の場所から開きます。

[スタート] () - 「ヘルプとサポート」



● PCお役立ちナビ

 p.54 「PCお役立ちナビを使う」



▶音量の調節


Windows起動時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合には、音量を調節します。

 p.95 「音量の調節」

▶Windowsの修復

本機のHDDには「Windows回復環境」が設定されています。これは、「Windowsが起動できない」などの不具合を修復する機能です。


Windowsが起動できないときなどに実行してみてください。

 p.209 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

▶セキュリティー対策を行う


本機には、外部と接続することで高まる危険から、本機を守るためのセキュリティー機能が搭載されています。

インターネットに接続する場合は、セキュリティー対策を行ってください。

 p.105 「インターネットを使用する際のセキュリティー対策」

▶画面表示が消えたときは（省電力機能）

本機は、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えるように設定されています。画面表示が消えて、本機の電源ランプがオレンジ色に点灯している場合は、スリープ状態になっています（購入時の設定）。この場合は、電源スイッチを押すと元に戻ります。

 p.115 「省電力状態からの復帰方法」

▶コントロールパネルの表示

本書では、コントロールパネルの表示が「カテゴリ」であることを前提に記載しています。



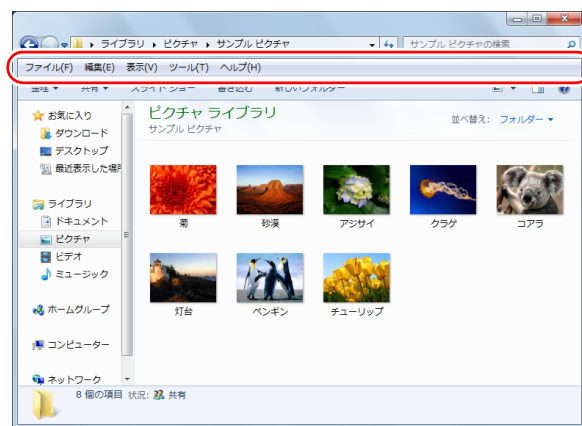
表示の切り替え

<表示方法：カテゴリ>

▶フォルダーメニューの表示

Windows 7では、「ファイル」や「ツール」などのフォルダーメニューが標準では表示されません。

フォルダーメニューを表示したい場合は、**[Alt]**を押します。もう一度**[Alt]**を押すと、フォルダーメニューは表示されなくなります。



フォルダーメニュー

常にフォルダーメニューを表示する

常にフォルダーメニューを表示したい場合は、次の設定を行ってください。

- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「デスクトップのカスタマイズ」 - 「フォルダーオプション」 - 「表示」タブ - 「常にメニューを表示する」にチェックを付けます。

▶ユーザーアカウントを作る

本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザーアカウントを作成します。ユーザーアカウントをいくつか作成すると、Windowsをユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で本機を使用することができます。

ユーザーアカウントの作成

ユーザーアカウントの作成は、次の場所で行います。

【スタート】－【コントロールパネル】－【ユーザーアカウントと家族のための安全設定】－【ユーザーアカウント】－【別のアカウントの管理】－【新しいアカウントの作成】

ユーザーアカウントの種類（権限）は、ユーザーに応じて設定してください。

ユーザーアカウントの種類

ユーザーアカウントの種類（権限）には、次の2つがあります。

- **管理者**


すべてのシステム項目にアクセスし、設定を変更したり、ドライバー、ソフトウェアのインストールをすることができます。

購入時やリカバリー時のWindowsのセットアップで入力したユーザー名（アカウント）は、「管理者」になります。

- **標準ユーザー**

一部のシステム項目の変更や、ドライバー、ソフトウェアのインストールは行うことができません。管理者のパスワードを入力すれば、変更やインストールが可能になります。

▶ユーザーアカウント制御画面

コントロールパネルなどで  が表示されているシステム項目にアクセスしようとしたり、ドライバーやソフトウェアのインストールをしようとする、と、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。これは、項目にアクセス制限がかけられているためです。



表示される「ユーザーアカウント制御」画面は、ユーザーアカウント（管理者または標準ユーザー）により異なります。本書の手順は、管理者アカウントでWindowsにログオンした状態を前提に記載しています。

▶ Windows Live Suite

本機には、Windows Liveの以下のソフトウェアがインストールされています。

- Windows Live メール
- Windows Live Messenger
- Windows Live フォトギャラリー
- Windows Live Writer
- Windows Live ムービーメーカー
- Microsoft Silverlight

起動方法

Windows Live Suiteの各ソフトウェアは、次の場所から起動します。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Windows Live」

使用方法

各ソフトウェアの使用方法は、次の場所をご覧ください。

- 各ソフトウェアのヘルプ
- 「PCお役立ちナビ」-画面下「ユーザーサポート」-「FAQ 番号：29148」
- Windows Liveのヘルプページ
<http://help.live.com>

Windows Live IDを作成する

Windows Liveを使用するには、Windows Live IDが必要になります。Windows Live IDは無償で作成することができます。

次のいずれかのサービスをご利用の場合は、そのアカウントをWindows Live IDとして使うことができます。

- MSN Hotmail
- MSN Messenger
- Microsoft Passport

サポートについて

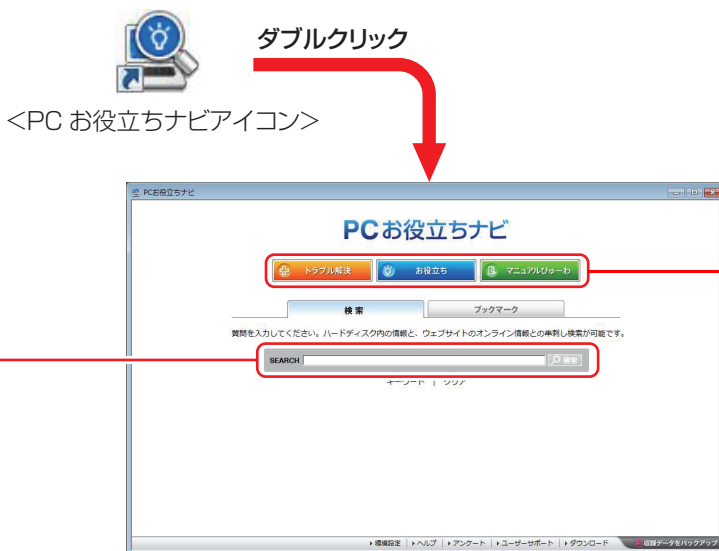
Windows Live Suiteのサポートは、マイクロソフト社で行っています。無償サポートは、電子メールのみです。

サポートの詳細は、次のWebページをご覧ください。

<http://support.live.com>

PCお役立ちナビを使う

本機には、知りたい情報を簡単に検索できるサポートツール「PC お役立ちナビ」が搭載されています。困ったときや、役立ち情報を知りたいときなどにお使いください。



① 検索をする

TOPページから
検索実行

本機に収録されている情報+ユーザーサポート
ページのオンライン情報を一度に検索

※本機に収録されている情報 = サポートコンテンツ・マニュアル (PDF)・ヘルプなど
※インターネットに接続していない場合は、本機に収録されている情報のみを検索します。



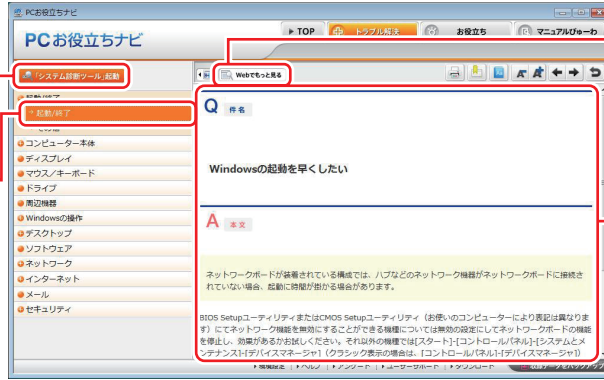
② おすすめコンテンツ・マニュアルを見る

トラブル解決

トラブルを解決するのに役立つ情報を収録しています。

システム診断
を実行

①トラブルの種類
を選択



もっと情報が見たいとき
→Webへ

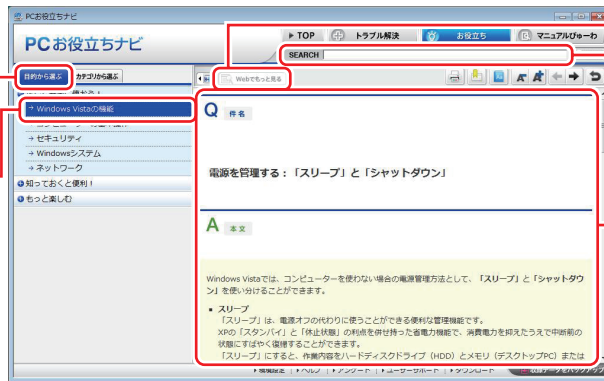
②内容が表示される

お役立ち

コンピューターの便利な使い方や、役立つ情報を収録しています。

①情報の分類を
選択

②見たい項目を
選択



もっと情報が見たいとき
→Webへ

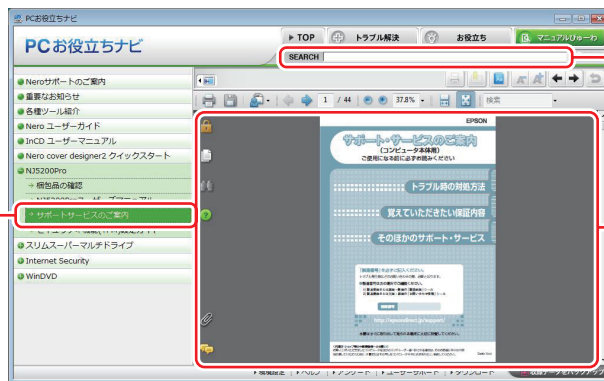
「お役立ち」内の情報
を検索

③内容が表示される

マニュアルびゅーわ

本機に添付されているマニュアルのPDFデータを収録しています。

①見たいマニュアル
を選択



「マニュアルびゅーわ」
内の情報を検索

②マニュアル (PDF)
が表示される

<画面はイメージです>

本機の終了方法

ここでは、本機の終了方法や再起動方法について説明します。

▶電源を切る（シャットダウン）


本機の電源の切り方、入れ方について説明します。

電源の切り方

本機の電源を切る（シャットダウンする）方法は、次のとおりです。



- 電源を切って、もう一度入れる場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電氣的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を空けてください。
- HDDなどのアクセスランプ点灯中に本機の電源を切ると、収録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

- 1 [スタート] () - [シャットダウン] をクリックします。
Windowsが終了し、自動的に本機の電源が切れます。
- 2 ディスプレイなど、接続している周辺機器の電源を切ります。

シャットダウン時の注意

Windowsを複数のユーザーが使用している状態で電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピューターにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は [いいえ] をクリックし、ログオンしているすべてのユーザーの画面に切り替えて、それぞれログオフを行ってからシャットダウンをしてください。

電源の入れ方

シャットダウン状態から本機の電源を入れる方法は、次のとおりです。



- 周辺機器の電源をいつ入れるかは、周辺機器のマニュアルで確認してください。電源を入れるタイミングがコンピューターより先か後かは、周辺機器により決まっています。
- USBフラッシュメモリーなどを接続していたり、FDDにFDがセットされている状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。USBフラッシュメモリーの接続やFDのセットは、Windows起動後に行ってください。
- 電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

1 電源スイッチ (⏻) を押します。

本機の電源が入り、Windowsが起動します。

▶スリープにする

本機をスリープ状態にして終了する方法、スリープ状態から復帰させる方法について説明します。

終了方法

本機をスリープ状態にして終了する方法は、次のとおりです。

1 [スタート] - [D] - 「スリープ」をクリックします。

本機が「スリープ状態」になります。画面表示が消え、電源ランプが消灯します。

復帰方法

本機をスリープ状態から復帰させる方法は、次のとおりです。



復帰の際、周辺機器はスリープ状態に入る前と同じ状態にしてください。スリープ中に周辺機器を取り外すなどして状態が異なると、正常に復帰できない場合があります。

1 電源スイッチ (⏻) を押します。

本機が通常状態に復帰します。

そのほかの復帰方法については、 p.115 「省電力状態からの復帰方法」をご覧ください。

▶再起動

電源が入っている状態で、本機を起動しなおすことを「再起動」といいます。

再起動方法

本機の再起動方法は、次のとおりです。

1 [スタート] - [D] - 「再起動」をクリックします。

次のような場合には、本機を再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

再起動しても状態が改善されない場合は本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れてみてください。

▶ハングアップしたときは

ソフトウェアやWindowsがキーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態を「ハングアップ」といいます。

ハングアップした場合は、ソフトウェアの強制終了を行います。ソフトウェアの強制終了をしても状態が改善されない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

ソフトウェアの強制終了

ソフトウェアの強制終了方法は、次のとおりです。

- 1 **Ctrl + Alt + Delete** を押します。
- 2 表示された項目から「タスクマネージャーの起動」をクリックします。
「Windowsタスクマネージャー」が起動します。
- 3 「アプリケーション」タブからハングアップしているソフトウェアを選択して【タスクの終了】をクリックします。

強制的に電源を切る

Ctrl + Alt + Delete を押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

強制的に電源を切る方法は、次のとおりです。

- 1 本機の電源スイッチ (⏻) を5秒以上押し続けます。
本機の電源が切れます。


第2章 コンピューターの基本操作

キーボードやマウス、光ディスクドライブの使い方など、本機の基本
的な操作方法について説明します。

「キーボードを使う」	60
「マウスを使う」	63
「HDDを使う」	64
「光ディスクドライブを使う」	67
「FDDを使う（オプション）」	76
「マルチカードリーダーを使う（オプション）」	80
「USB機器を使う」	85
「画面表示機能を使う」	87
「サウンド機能を使う」	93
「ネットワーク機能を使う」	98
「インターネットに接続する」	102
「インターネットを使用する際のセキュリティー対策」	105
「省電力機能」	111
「その他の機能」	116

キーボードを使う

ここでは、一般的なキーボードについて説明します。

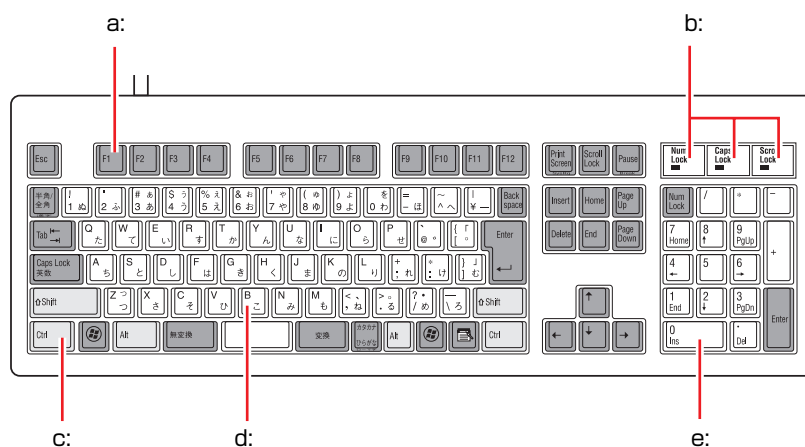
キーボードの接続方法は、 p.31「コンピューターの設置」をご覧ください。

キーボードのマニュアル（PDF）が添付されている場合は、本書とあわせてご確認ください。

▶キーの種類と役割

キーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。


入力キー



a: 機能キー

文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。

b: キーロック表示ランプ

 p.62「キーロック表示ランプ」


c: 制御キー

文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

d: 文字キー

英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して漢字やひらがななどの日本語を入力します。

e: 数値キー


数字、演算子などを入力します。 の状態によりキーの機能が変わります。

▶文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字された文字が入力されます。入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え

 を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。

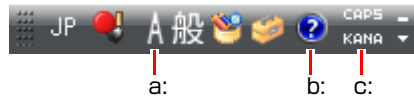
日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

▶日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは、次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。



a: 入力モード

入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

b: ヘルプ

MS-IMEの詳しい説明を見ることができます。

c: かなキーロック

日本語入力モードの切り替えを行います。








ボタンが押されていない状態：ローマ字入力

ボタンが押されている状態：かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムのマニュアルをご覧ください。


▶キーロック表示ランプ

キーボード右上の3つのランプは、キーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割	数値キーの状態を切り替え
	切り替え	 を押します。
	点灯時	数値を入力
	消灯時	カーソルの位置を制御 数値キーの    などが使えます。
Caps Lock	役割	アルファベットの大文字/小文字の切り替え
	切り替え	 +  を押します。
	点灯時	大文字を入力
	消灯時	小文字を入力
Scroll Lock	役割	ソフトウェアによって異なります。
	切り替え	 を押します。

マウスを使う

ここでは、一般的なマウスについて説明します。

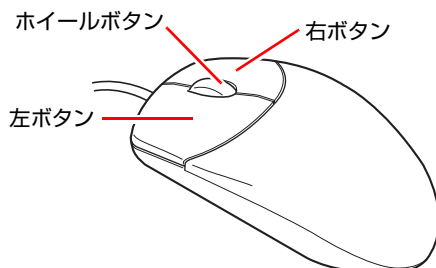
マウスの接続方法は、 p.31 「コンピューターの設置」をご覧ください。

マウスにマニュアル（PDF）が添付されている場合は、本書と合わせてご確認ください。

▶マウスの操作



- 表面が反射する場所やざらざらした場所、複雑なイラスト入りのマウスパッドの上で使用しないでください。マウスの動きがコンピューターに伝わりません。
- アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを1回カチッと押します。
ダブルクリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
右クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、右ボタンを1回カチッと押します。
ドラッグアンドドロップ	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。
スクロール	ホイールボタンを指先で前後に動かすと、縦スクロール操作を行うことができます。ホイールボタンをクリックすると、マウスを動かしてオートスクロールを行うこともできます。

▶マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境の変更は、次の場所で行います。

【スタート】－「コントロールパネル」－「ハードウェアとサウンド」－「マウス」

詳しくは、ヘルプをご覧ください。

HDDを使う


本機にはシリアルATA300MB/s対応のHDD（ハードディスクドライブ）が搭載されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。



- HDDのアクセスランプ点灯・点滅中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点灯・点滅中は、コンピューターがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが故障するおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

▶データのバックアップ

HDDに記録されている重要なデータは、CDメディアや外付けHDDなどにバックアップしておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。

バックアップ方法は、 p.217 「データのバックアップ」をご覧ください。

▶購入時のHDD領域

購入時のHDDは、お客様の選択により次のように設定されています。

<通常>

HDD	ドライブ（領域）	容量
1台目	消去禁止領域	約2.7GB
	Cドライブ	残り
2台目 (装着されている場合)	Dドライブ	2台目のすべて

<HDD設定変更サービスを選択された場合>

HDD	ドライブ（領域）	容量
1台目	消去禁止領域	約2.7GB
	Cドライブ	購入時に選択された容量
	Dドライブ	残り
2台目 (装着されている場合)	Eドライブ	2台目のすべて

* 消去禁止領域の容量は、コンピューターの製品仕様により異なります。

すべてのドライブは、NTFSファイルシステムでフォーマットされています。

参考

HDD設定変更サービス

HDD設定変更サービスとは、購入時にあらかじめ1台目のHDDの領域をCドライブ、Dドライブに分割した状態でコンピューターをお届けするサービスの事です。

消去禁止領域とは


「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアのインストール用データや、「Windows回復環境（Windows RE）」が設定されています。

この領域は、絶対に削除しないでください。

削除してしまうと、本体ドライバやソフトウェアのインストールができなくなります。

「消去禁止領域」内の本体ドライバやソフトウェアのインストール用データは、CDにコピー（バックアップ）することもできます。

 p.219 「バックアップCDの作成方法」

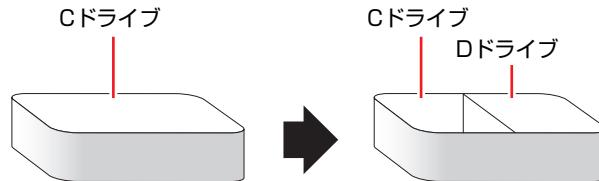
Windows REの詳細は、 p.209 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」をご覧ください。


▶HDDを分割して使用する

1台のHDDをいくつかの領域に分割して、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。


<1台のHDDを分割する>

例：1つのHDD領域（Cドライブ）を2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割することができます。



Cドライブを分割する場合はWindowsの再インストールが必要です。詳しくは、 p.223 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

▶HDDを増設・交換したら

HDDを増設・交換した場合は、 p.226 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。

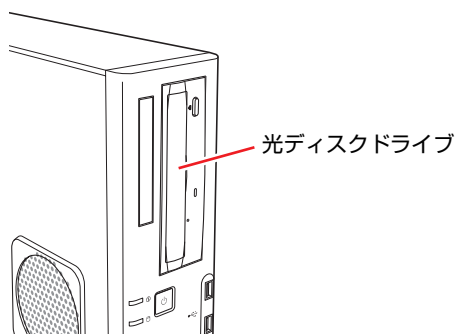


すでにデータが収録されている HDD にドライブを作成すると、その HDD に保存されていたすべてのデータが消失します。ドライブを作成する前に、重要なデータが保存されていないことを確認してください。

光ディスクドライブを使う

本機には、購入時に選択されたシリアルATA仕様の光ディスクドライブが搭載されています(光ディスクドライブなしを選択された場合は、搭載されません)。光ディスクドライブは、CD-ROMなどの光ディスクメディアを使用するための機器です。

ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。



2



警告

光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアを使用しないでください。飛び散って、けがをする危険があります。



注意

光ディスクドライブのディスクトレイに手を入れないでください。はさまれると、けがの原因になります。



制限

本機では、CD (コンパクトディスク) の規格に準拠しない「コピーコントロールCD」などの特殊ディスクは、動作保証していません。本機で動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

▶使用可能な光ディスクメディア

光ディスクドライブの種類によって、メディアへの書き込みやDVDの再生など、使える機能が異なります。

お使いの光ディスクドライブで使える機能とメディアの種類は、光ディスクドライブのマニュアル (PDF) をご覧ください。

「PCお役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅーわ」

光ディスクメディアの違いについての簡単な説明は、次をご覧ください。

「PCお役立ちナビ」 - 「お役立ち」

▶光ディスクメディアのセットと取り出し

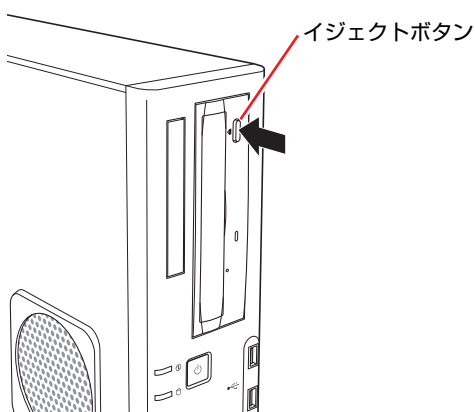
光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。



- 光ディスクドライブアクセス中にメディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。
- メディアの出し入れのとき以外は、ディスクトレイの開閉をしないでください。
- 開いているディスクトレイの上に物を置かないでください。また、上から強く押さないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機を縦置きで使用している場合、8cmのメディアは使用できません。また、縦置き横置きに関係なく、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。

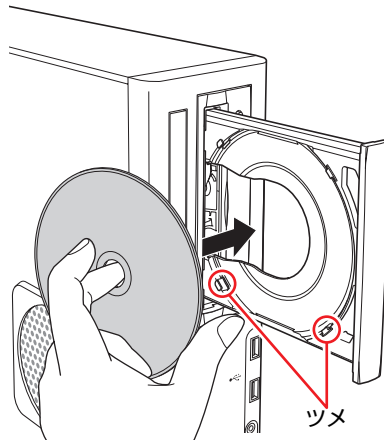
セット方法

- 1 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



- 2** メディアの印刷面を本体の左側に向け、ディスクトレイにある落下防止用のツメ（下側2箇所）にセットします。

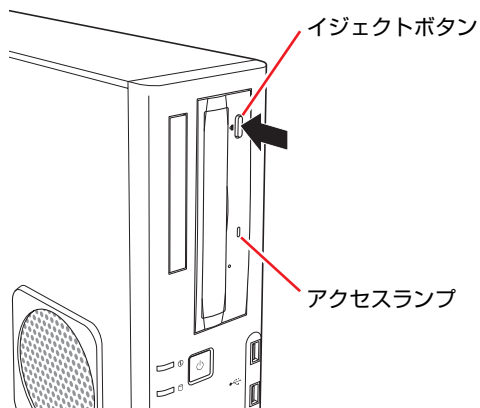
本機が横置きの場合は、メディアの印刷面を上側に向けてセットします。



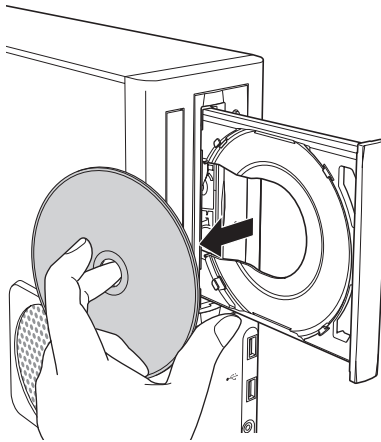
- 3** イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

取り出し方法

- 1** アクセスランプが点灯・点滅していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



2 光ディスクメディアをディスクトレイから取り出します。



3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。



イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合

ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくはお使いのソフトウェアのマニュアルをご覧ください。


▶強制的な光ディスクメディアの取り出し

次のような場合には、強制的に光ディスクメディアを取り出すことができます。

- 光ディスクドライブの動作が不安定になったり、故障したりして、光ディスクメディアが取り出せない場合
- 光ディスクメディアをセットしたまま、本機の電源を切ってしまった場合

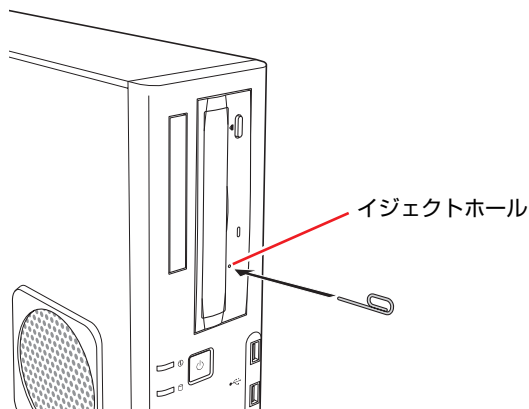
強制的な光ディスクメディアの取り出し方法は次のとおりです。

- 1 本機の電源が入っている場合は、電源を切ります。

 p.56 「電源を切る（シャットダウン）」

- 2 イジェクトホールに先の細い丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたものなど）を差し込みます。

お使いの光ディスクドライブによりイジェクトホールの位置は異なります。



- 3 ディスクトレイが少し飛び出したら、ディスクトレイを引き出し、光ディスクメディアを取り出します。

▶CDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データCDを読み込めるほかに、音楽CDやビデオCD、フォトCDなどの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

▶DVDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データが収録されたDVDメディアを読み込めるほかに、DVD VIDEOなどの再生ができます。DVD VIDEOの再生には、専用のソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO再生ソフト

DVD VIDEOの再生には、「WinDVD」を使用します。

WinDVDは、次の場所から起動します。

[スタート] – [すべてのプログラム] – [Inter Video WinDVD] – [Inter Video WinDVD for EPSON]


WinDVDの詳しい使用方法は、WinDVDのヘルプをご覧ください。

DVD VIDEO再生時の不具合


WinDVDでDVD VIDEOの再生をすると、次のような不具合が発生する場合があります。

- 解像度や色数、リフレッシュレートの設定により、DVD VIDEOの再生ができないことがあります。

DVD VIDEOの再生ができない場合は、解像度や色数、リフレッシュレートを調節してみてください。

 p.88 「表示に関する各種設定」

- 本機にディスプレイを2台接続して、クローンモードで表示していると、「使用しているディスプレイ環境は保護されているコンテンツの再生をサポートしていません。」というメッセージが表示され、DVD VIDEOの再生が中断されます。このような場合は、クローンモードでの表示を無効にしてください。

 p.90 「2台のディスプレイに表示する」

CPRM で著作権保護されたメディアを再生するには

本製品はCPRMで著作権保護されたメディア再生に対応していますが、再生時に必要な「CPRM Pack」がインストールされていません。

インターネットに接続した状態で、「CPRM Pack」のダウンロードおよびインストールを行ってください。

「CPRM Pack」のダウンロードとインストール

インストールには、CPRMで著作権保護されたメディアが必要になります。
「CPRM Pack」のダウンロードおよびインストール手順は次のとおりです。

- 1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「InterVideo WinDVD」-「InterVideo WinDVD for EPSON」をクリックし、WinDVDを起動します。
- 2 CPRMで著作権保護されたメディアを光ディスクドライブにセットします。
- 3 「CPRMのサポートが有効になっていないため、CPRMコンテンツを再生できません。・・・」と表示されたら、[OK] をクリックします。
- 4 「InterVideoオンライン登録ページへようこそ」と表示されたら、メンバー登録を行います。
メンバー登録が終了すると、ダウンロードページが表示されます。
- 5 ダウンロードページが表示されたら、画面の指示に従って、「CPRM Pack」のダウンロードとインストールを実行します。

CPRMで著作権保護されたメディア再生時の制限事項

CPRMで著作権保護されたメディアの再生には、次の制限事項があります。

- 管理者 (Administrator) のアカウントでログオンしてください。
- DVIでデジタル出力する場合は、HDCP規格に対応したディスプレイをご使用ください。
- 2台のディスプレイに同じ画面を表示するクローンモードでの表示はできません。

WinDVDユーザーサポート情報

WinDVDに関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。
※下記のサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

ホームページ : <http://www.corel.jp/>
サポートホームページ : <http://www.corel.jp/support/>
電話 : 045-226-3899
サポート時間 平日10:00~12:00 13:30~17:30
(土・日・祝日・夏季・年末年始・特定休業日を除く)

メールでのお問い合わせは、サポートホームページに掲載されているメールフォームからご利用いただけます。

WinDVDのよくある問い合わせ (FAQ) もサポートホームページに掲載しております。

コーレル株式会社

▶光ディスクメディアへの書き込み

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

書き込み機能のある光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。

書き込み可能なメディアは、お使いの光ディスクドライブにより異なります。書き込み可能なメディアについては、光ディスクドライブのマニュアル (PDF) をご覧ください。


「PCお役立ちナビ」－「マニュアルびゅうわ」



作成した DVD VIDEO は、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機にはライティングソフト「Nero 9 Essentials」がインストールされています。

 p.75 「Nero 9 Essentialsの使い方」

書き込み時の注意

書き込みを行う場合は、次の点に注意してください。

- **省電力機能を無効にする**

メディアへの書き込み時に、Windowsが省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗して、メディアに記録したデータが失われたり、メディアが使用できなくなる可能性があります。

書き込みを始める前に、省電力状態に移行しないように設定してください。

 p.114 「省電力状態に移行する方法」

省電力状態に移行する場合は、必ず光ディスクドライブからメディアを取り出してから行ってください。

- **速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ**

書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

光ディスクドライブの書き込み速度は、光ディスクドライブのマニュアル (PDF) をご覧ください。

「PCお役立ちナビ」－「マニュアルびゅうわ」

▶ Nero 9 Essentialsの使い方

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

ライティングソフト「Nero 9 Essentials」を使用すると、CDメディアやDVDメディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。



Nero 9 Essentials と Windows 7 標準の書き込み機能を同時に使用しないでください。

使い方

Nero 9 Essentialsを起動するには、デスクトップ上の「Nero」アイコンをダブルクリックします。



<Neroアイコン>

Nero 9 Essentialsの詳しい使用方法は、次をご覧ください。

「PCお役立ちナビ」－「マニュアルびゅーわ」－「Neroヘルプ」
「PCお役立ちナビ」－「お役立ち」

Nero 9 Essentials ユーザーサポート情報

Nero 9 Essentials のサポートについて説明します。

サポートセンターに連絡する前に

Nero 9 Essentials の操作などでお困りの場合は、サポートセンターに連絡する前に、まずNero 9 Essentials のヘルプやホームページのサポート情報をご覧ください。

<http://www.nero.com/jpn/support.html>

サポートセンターに問い合わせる

ヘルプやホームページのサポート情報を見ても問題が解決しない場合は、下記にお問い合わせください。

※下記サポート情報は、予告なく変更される場合があります。

株式会社 Nero サポートセンター

受付時間 : 10:00 ~ 12:30 / 13:30 ~ 17:00
月～金曜日（祝、特定休業日を除く）

TEL : 045-910-0255

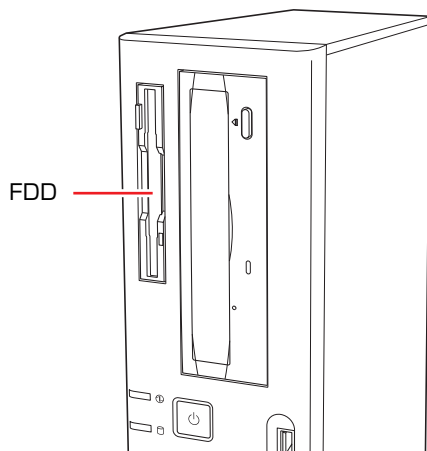
ホームページ : <http://www.nero.com/jpn/support-nero9.html>

E-MAIL : 上記ホームページのサポートページからお問い合わせください。

※お問い合わせの際は、コンピューターの機種名をお知らせいただく必要があります。

FDDを使う（オプション）

FDD（フロッピーディスクドライブ）は、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。本機購入時にFDDをオプション選択された場合、本機にはFDDが搭載されています。



本機内蔵のFDDでは、次のFDが使用できます。

- 3.5型2HD
1.44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。
- 3.5型2DD
720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。



制限

FDは消耗品です。読み書きを繰り返すと、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

▶FDのセットと取り出し



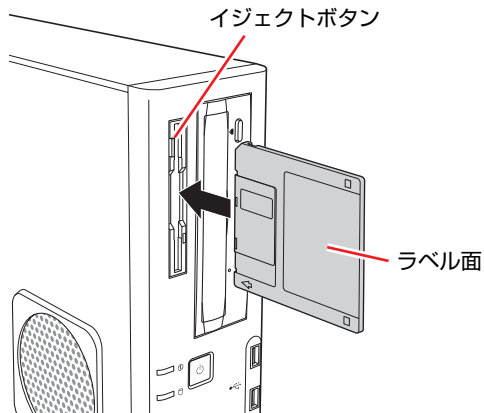
制限

- FDDアクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。FD内のデータが破損するおそれがあります。
- 本機の電源を切ったり、再起動したりする場合は、必ずFDを取り出してから行ってください。

FDのセット方法

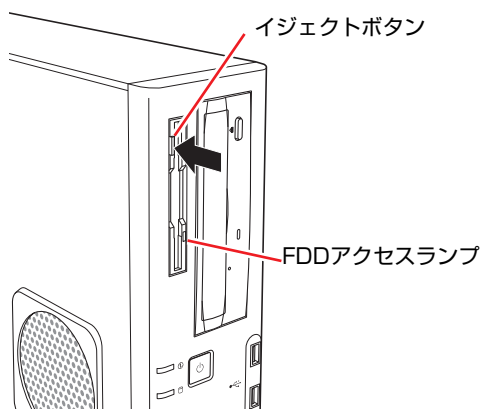
- 1 ラベル面を本体の左側に向け、FDをFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。

本機が横置きの場合は、ラベル面を上側に向けて押し込みます。
正しくセットされると、イジェクトボタンが押し出されます。

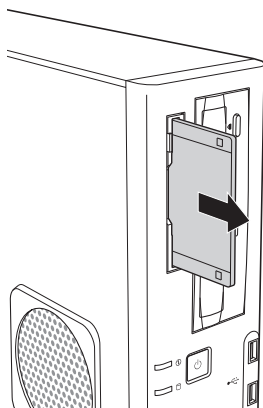


FDの取り出し方法

- 1 FDD アクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。



- 2 FDが飛び出したら、静かに引き抜きます。



▶FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することです。新しいFDを使用する場合や、収録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットを行います。



FDをフォーマットすると、FD内のデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが収録されていないことを確認してください。

フォーマット方法

Windowsのフォーマットユーティリティを使った通常のFDのフォーマット方法は、次のとおりです。

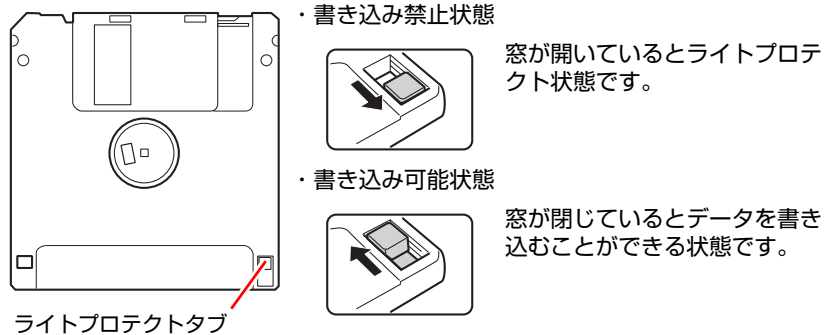
- 1 FDDにFDをセットします。
- 2 [スタート] - 「コンピューター」をクリックします。
- 3 「フロッピーディスクドライブ」を右クリックし、「フォーマット」をクリックします。
- 4 「フォーマット・フロッピーディスクドライブ」画面が表示されたら、[開始]をクリックします。「警告」が表示された場合は、[OK]をクリックします。
- 5 「フォーマットが完了しました。」と表示されたら、[OK]をクリックします。
続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れ替えて手順4~5をくり返します。

6 「閉じる」をクリックし、「フォーマット・フロッピーディスクドライブ」画面を閉じます。

これでFDのフォーマットは完了です。

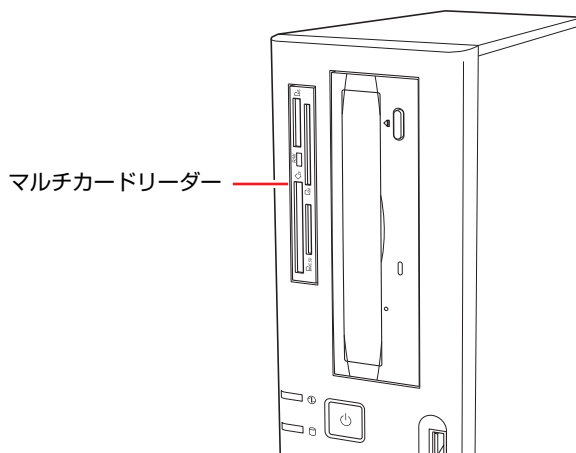
▶ライトプロテクト（書き込み禁止）

ライトプロテクトとは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDは、データの書き込み、削除、フォーマットをすることができなくなります。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておくとう安心です。ライトプロテクトは、FD裏面のライトプロテクトタブで行います。



マルチカードリーダーを使う (オプション)

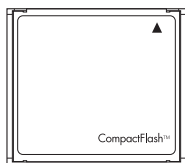
本機購入時にマルチカードリーダーをオプション選択された場合、本機にはマルチカードリーダーが搭載されています。



▶使用可能なメモリーカード

本機のマルチカードリーダーで使用できるメモリーカードは次の5種類です。イラストはイメージです。

●コンパクトフラッシュ (Compact Flash)



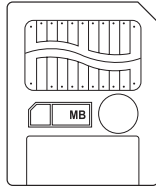
モデム、LAN、PHS カードなどのI/Oカードは使用できません。

●SDメモリーカード (SD Memory Card)



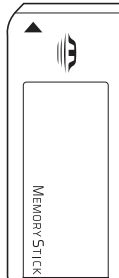
- Secure Digital 機能には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- SD I/OカードおよびSD Comboカードは使用できません。
- SDHCメモリーカードに対応しています。

- スマートメディア (Smart Media)



- 3.3Vタイプ (3Vと表示されているのも可) のみサポートしています。5Vタイプのカードは使用できません。
- スマートメディアの端子部が汚れていると、読み取りエラーが発生する原因になります。端子部を指で触れたりしないようにしてください。
- ID付きのスマートメディアも使用できますが、ID機能には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- ROMカードには対応していません。

- メモリースティック (Memory Stick)



- マジックゲート付きのカード (白色) も使用できますが、マジックゲート機能には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- メモリー以外のI/Oカード (GPS用など) は使用できません。
- メモリースティックおよびメモリースティック PRO の高速転送、セキュリティー機能には対応していません。

- マルチメディアカード（Multi Media Card）




- Keitaide-Music対応カードも使用できますが、Keitaide-Music機能（UDAC-MBプロトコル）には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- マルチメディアカードは、読み取り速度や書き込み速度が、ほかのカードに比べて遅くなります。これはカードの規格による制限です。

▶マルチカードリーダー使用時の注意

マルチカードリーダーは、次の点に注意して正しく使用してください。

- マルチカードリーダーアクセスランプ点滅中にメモリーカードを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。メモリーカード内のデータが破損する恐れがあります。
- 本機の電源を切る場合や再起動する場合は、必ずメモリーカードを取り出してから行ってください。
- 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- データの書き込み途中に、本機が省電力状態に移行するなどして電源の供給が停止すると、メモリーカードに不具合が発生する可能性があります。メモリーカードを使用するときは、省電力状態に移行しないように設定してください。

 p.114 「時間経過で移行させない」

メモリーカードのフォーマット

メモリーカードのフォーマットは、必ずメモリーカードを使用するデジタルカメラなどの周辺機器側で行ってください。本機でフォーマットを行うと、周辺機器でメモリーカードが認識されなくなる場合があります。フォーマットの方法は、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

▶メモリーカードのセットと取り出し

メモリーカードのセットと取り出し方法、割り当てられるドライブについて説明します。



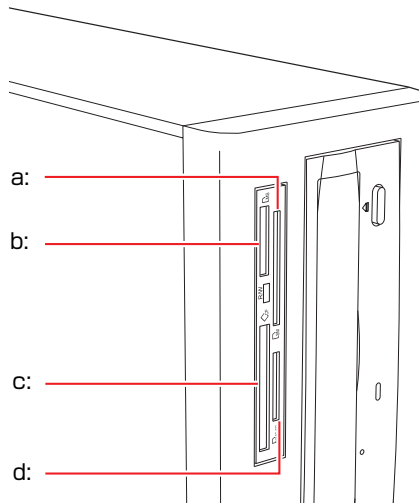
- 本機にメモリーカードをセットした状態で電源を入れたり、再起動したりすると、Windows が起動しないことがあります。メモリーカードはWindows 起動後にセットしてください。
- Windows が起動した状態でのメモリーカードの取り出しは、「コンピューター」から行ってください。通知領域の「取り外し」アイコンから停止処理を行うと、Windowsを再起動するまでマルチカードリーダーが認識されなくなります。

2

メモリーカードのセット方法

メモリーカードのセット方法は次のとおりです。


1 使用するメモリーカードのスロット位置を確認します。



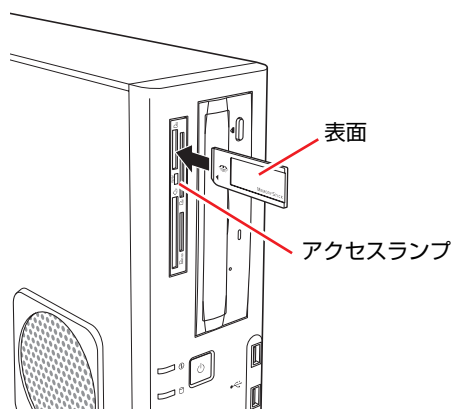
- a: スマートメディアスロット \square_{SM}
- b: メモリースティックスロット \square_{MS}
- c: コンパクトフラッシュスロット \square_{CF}
- d: SDカードスロット $\square_{MMC,SD}$

SDメモリーカードとマルチメディアカード用スロットです。

2 メモリーカードの表面を本体の左側に向け、対応するスロットにカードが止まるまで押し込みます。

本機が横置きの場合は、メモリーカードの表面を上に向けて押し込みます。メモリーカードの表面は、 p.80 「使用可能なメモリーカード」で確認してください。

正しくセットされるとアクセスランプが点灯します。

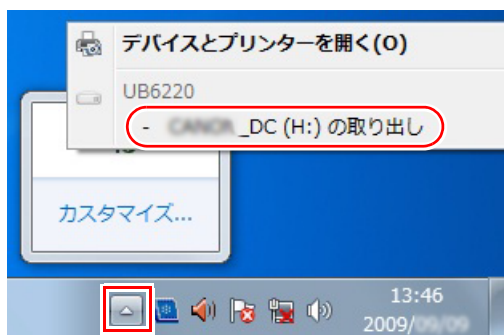


メモリーカードによっては、正しくセットされていてもスロットから数cm出たままのものもあります。

取り出し方法

メモリーカードの取り出し方法は、次のとおりです。

1 「通知領域」 - [△] - 「取り外し」アイコン - 「(取り外したいメモリーカード)」をクリックします。




2 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、メモリーカードを本機から取り外します。

取り出したメモリーカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

USB機器を使う

本機にはUSB2.0に対応したUSBコネクタが、前面に2個、背面に4個、合計6個搭載されています。USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。6個のUSBコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。



- USBフラッシュメモリーなどを接続していたり、USB FDDにFDがセットされている状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。
USB記憶装置は、Windows起動後に接続してください。
- USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setup ユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。
 p.155 「起動 (Boot) デバイスの順番を変更する」
- 本機の電源コードが接続されている状態では、USBポートに5Vの電力が常に供給されています。お使いのUSB機器などによっては、本機の電源を切った状態でも、USB機器のランプが光り続けます。これは、お使いのUSB機器の仕様で、故障ではありません。


2

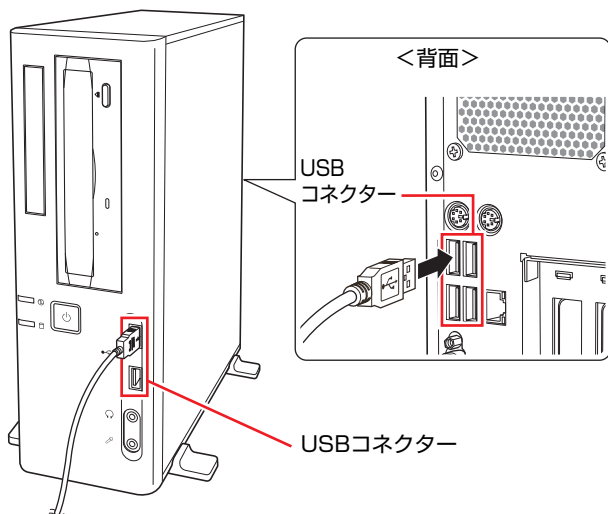
▶ USB機器の接続と取り外し

USB機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

接続

USB機器の接続方法は、次のとおりです。

- 1 USB機器のUSBコネクタを、本機前面または背面のUSBコネクタ() に接続します。

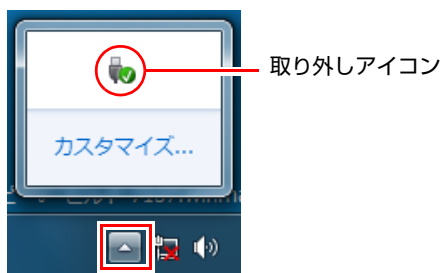


接続するUSB機器によっては、専用のデバイスドライバーが必要です。詳しくはUSB機器のマニュアルをご覧ください。

USB機器の取り外し

USB機器を取り外す場合は、通知領域－ [△] 内の「取り外し」アイコンから終了処理を行います。

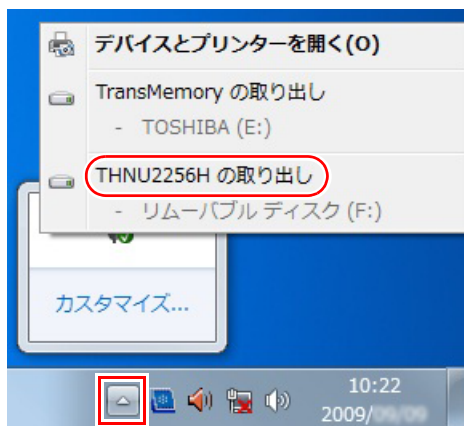
※「取り外し」アイコンに機器名が表示されていない場合や、本機の電源を切った場合は、そのまま取り外せます。



USB機器の終了方法は次のとおりです。

- 1 「通知領域」－ [△] － 「取り外し」アイコン－ 「(取り外したいUSB機器)の取り出し」をクリックします。

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。



- 2 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、USB機器を本機から取り外します。

画面表示機能を使う


本機のマザーボード上には画面表示機能が搭載されています。
ここでは、表示するディスプレイや解像度などの設定方法について説明します。

▶使用できるディスプレイ

本機にはDVI-DコネクタとVGAコネクタを装備しているため、デジタル方式ディスプレイ（以降、デジタルディスプレイ）とアナログ方式ディスプレイ（以降、アナログディスプレイ）を接続することができます。

ディスプレイの接続は、次の3とおりが可能です。

- デジタルディスプレイのみ
- アナログディスプレイのみ
- デジタルディスプレイ+アナログディスプレイ


 p.90 「2台のディスプレイに表示する」

ディスプレイの接続

ディスプレイの仕様に合わせて、ディスプレイと本機をDVI-D（デジタル）ケーブル、またはVGA（アナログ）ケーブルで接続します。ディスプレイがデジタル/アナログ両用の場合は、デジタル接続で使用します。

ディスプレイの接続は、本機とディスプレイの電源を切った状態で行ってください。

 p.35 「ディスプレイを接続する」

ディスプレイの表示の切り替え方法は、 p.90 「2台のディスプレイに表示する」をご覧ください。



ビデオプロジェクターへの接続

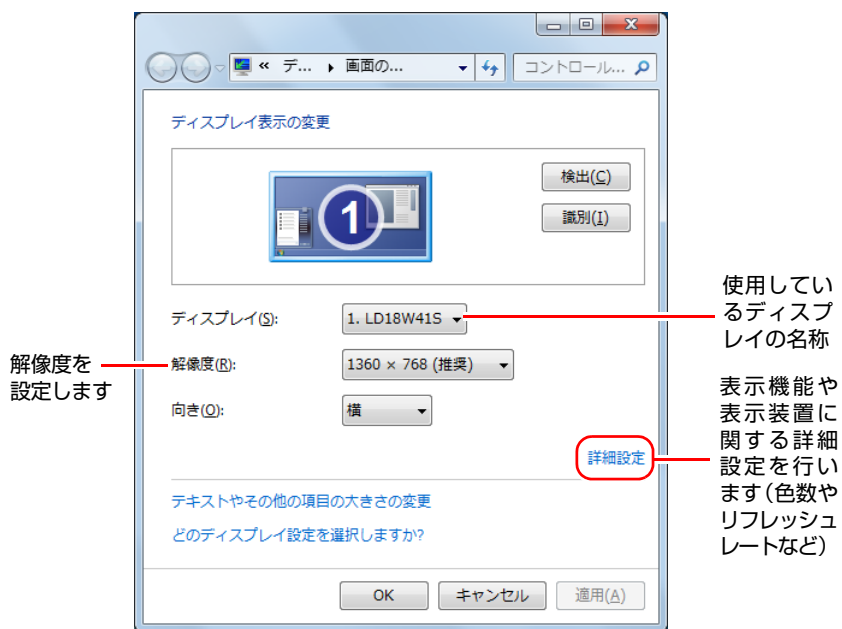
ビデオプロジェクターも本機のVGAコネクタに接続できます。

詳しくはプロジェクターのマニュアルをご覧ください。

▶表示に関する各種設定

画面表示に関する設定は次の場所で行います。

デスクトップ上の何も無いところで右クリックー「画面の解像度」




▶表示できる解像度と表示色

本機の画面表示機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

- 解像度 ピクセル（横×縦）
 - 800×600
 - 1024×768
 - 1280×768
 - 1280×1024
 - 1360×768
 - 1440×900
 - 1600×1200
 - 1680×1050
 - 1920×1200（アナログディスプレイ接続時のみ）
- 表示色
 - 中（16ビット） / 最高（32ビット）



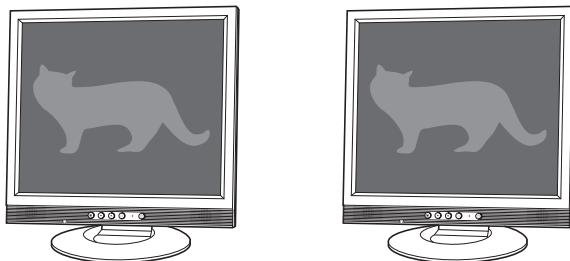
制限

- 記載している解像度は、本機に搭載されたビデオコントローラーの出力解像度です。表示モードや接続する外付けディスプレイの仕様によっては、表示できない場合があります。
- ディスプレイを2台接続してクローンモードにした場合、実際に表示できる最大解像度は、コンピューター側の最大解像度と接続するディスプレイの最大解像度のうち、どちらか低い方になります。
 p.90 「2台のディスプレイに表示する」
- 解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトで動画を再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてください。

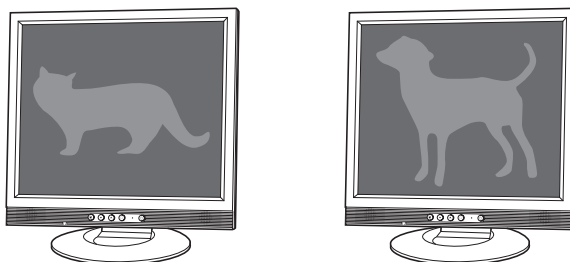
▶2台のディスプレイに表示する

本機に2台のディスプレイを接続した場合、次のデスクトップモードで表示ができます。

- 1台のディスプレイに表示（シングルディスプレイモード）
1つのディスプレイ（アナログディスプレイのみまたはデジタルディスプレイのみ）に表示します。
- 2台のディスプレイに同じ画面を表示（クローンモード）
2つのディスプレイに同じ画面を表示します。プレゼンテーションを行う場合などに便利です。



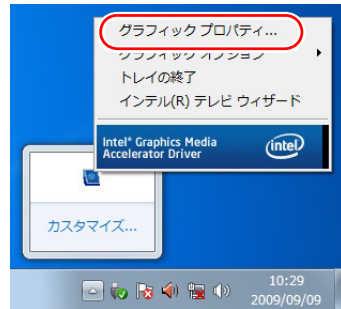
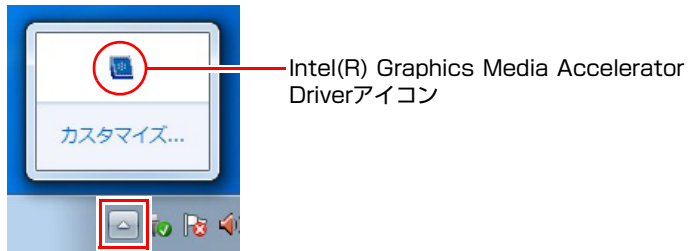
- 2台のディスプレイに個別に表示（拡張デスクトップモード）
2つのディスプレイに対して、個別に設定することができます。複数の画面をコンピューター上に表示する場合に便利です。




表示の切り替え方法

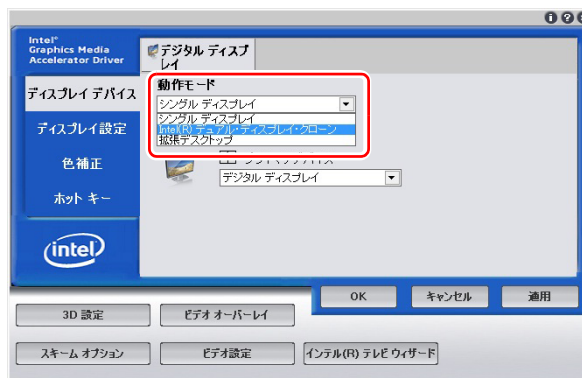
ディスプレイの表示を切り替える方法は、次のとおりです。

- 1 「通知領域」 - [△] - 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver」アイコンをクリックし、「グラフィックプロパティ ...」を選択します。



- 2 「Intel® Graphics Media Accelerator Driver」画面が表示されたら、「動作モード」でディスプレイの表示方法を選択します。

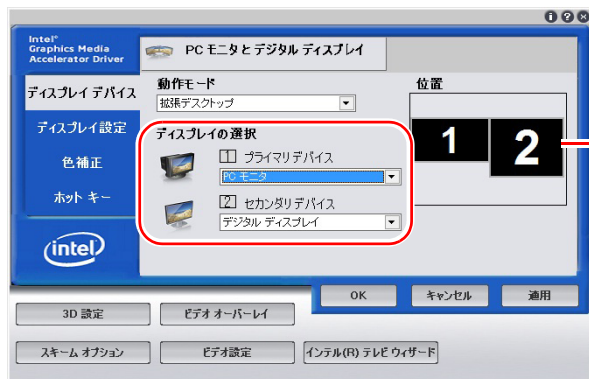
 p.90 「2台のディスプレイに表示する」



3 手順2で「拡張デスクトップ」を選択した場合は、次の設定を行います。

(1) 「ディスプレイの選択」でディスプレイの設定を行います。

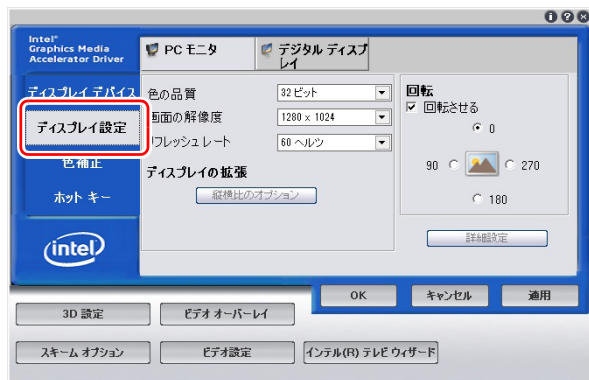
「プライマリデバイス」側のディスプレイには、[スタート]メニューやタスクバーが表示されます。



分割した画面を表示するディスプレイの位置関係を示しています。「1」がプライマリ、「2」がセカンダリです。「1」または「2」をドラッグして位置を変更します。

(2) デスクトップの設定をします。

「ディスプレイ設定」をクリックし、「PCモニタ」タブまたは「デジタルディスプレイ」タブで解像度などを設定します。



4 [OK] をクリックします。

5 「デスクトップの変更を確認」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。

これで画面の切り替えは完了です。

参考

グラフィックオプションから設定する

ディスプレイの表示の切り替えは、次の場所からも行えます。

「通知領域」 - [△] - 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver」アイコンをクリック - 「グラフィックオプション」 - 「出力先」

サウンド機能を使う

本機のマザーボード上には、サウンド機能が搭載されています。



ヘッドホンや外部スピーカーを使用する場合は、ボリュームを最小にしてから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

内蔵モノラルスピーカー

本機には、モノラルスピーカーが内蔵されています。このため、外部スピーカーなどを接続しなくても、音源からの音声を出力することができます。



ヘッドホンや外部スピーカーの接続

ヘッドホン出力コネクタやライン出力コネクタにヘッドホンや外部スピーカーを接続すると、本機の内蔵モノラルスピーカーの機能は自動的に無効になります。



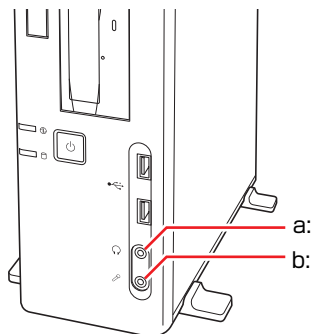
p.93 「外部オーディオ機器などの接続」


2

▶外部オーディオ機器などの接続


本機の前面と背面には、外部スピーカーやマイクなどを接続するためのコネクタが標準で装備されています。
各コネクタの位置は、次のとおりです。

前面側



a: ヘッドホン出力コネクタ 

スピーカーやヘッドホンと接続して、本機からの音声をステレオで出力します。

b: マイク入力コネクタ 

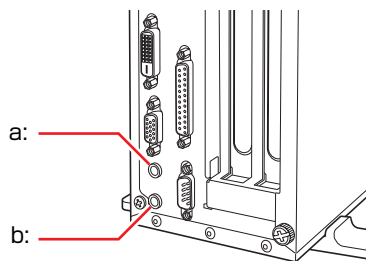
マイクと接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能を使って、録音や再生を行うことができます。




使用できるマイク


マイク入力コネクタに接続して使用できるマイクは、プラグインパワー対応のコンデンサーマイクです。

背面側



a: ライン入力コネクタ 

カセットデッキなどのオーディオ機器の音声出力端子と接続して、音声の本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能を使って、録音や再生を行うことができます。

b: ライン出力コネクタ 

外部スピーカーなどを接続して、音声を出力するためのコネクタです。

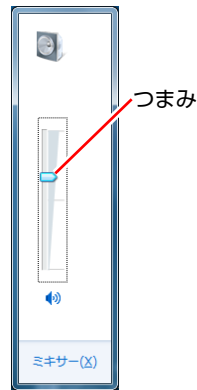
▶音量の調節

Windows起動時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合は、次の方法で音量を調節します。

画面右下の通知領域に表示されている「スピーカー」アイコン（白色）をクリックすると、「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。



<スピーカーアイコン>

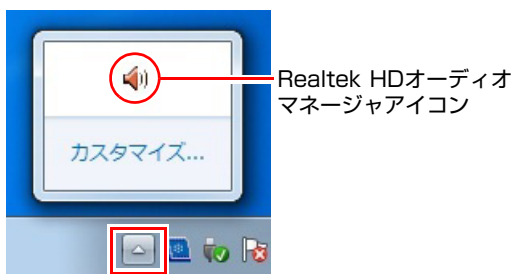


<ボリュームコントロール>

▶サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、スピーカーの設定やマイク音量の設定、音響効果の設定などができます。

サウンドユーティリティを起動するには、通知領域－[△]内の「Realtek HDオーディオマネージャ」アイコン（赤色）をダブルクリックします。



次の画面が表示されます。

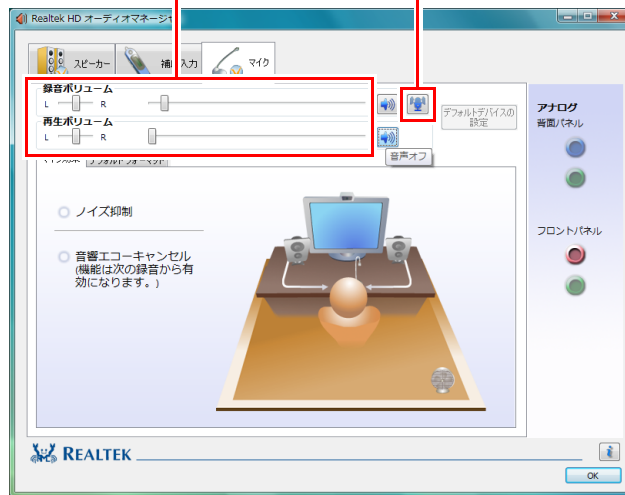


マイク使用時の音量調節


本機にマイクを接続して使用する場合、マイクの音量調節はサウンドユーティリティの「マイク」タブで行います。

マイクで録音・再生時の
音量を調節

マイクブーストの設定



※「マイク」タブは、マイク接続時のみ表示されます。

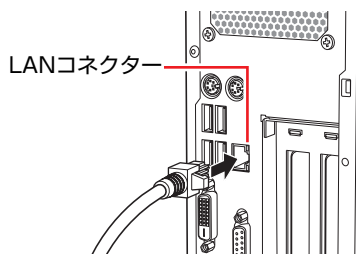
録音時に音量を調節しても音が小さいときは、をクリックしてマイクブーストのつまみを右へスライドさせて、音量を上げてください。

ネットワーク機能を使う

本機のマザーボード上には、1000 Base-T/100 Base-TX/10 Base-Tに対応したネットワーク機能（LAN機能）が搭載されています。

ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。

ネットワーク機能を使用する場合は、本機背面のLANコネクタ（品）に市販のLANケーブルを接続します。




▶ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピューターと接続するために、LANケーブルやハブ（サーバー）などが必要です。そのほかに、Windows上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定などが必要になります。ネットワークの構築方法は、ネットワーク機器のマニュアルなどをご覧ください。



制限

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態になると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
 - ・ 再起動する。
 - ・ 省電力状態に移行しないように設定する。
 p.114 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態へ復帰できない場合があります。
- 本機のネットワーク機能では、リピーター・ハブを使用できません。

▶インターネットへの接続

インターネットへ接続する場合は、 p.102「インターネットに接続する」をご覧ください。

▶そのほかの機能

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、次のような機能を使用できます。

WakeUp On LAN

「WakeUp On LAN」とは、シャットダウン時やスリープ状態、休止状態にネットワークからの信号により本機を復帰させることができる機能です。シャットダウンからの復帰は、本機が正常に終了した状態でのみ使用可能です。



WakeUp ON LANを有効に設定する

「WakeUp ON LAN」を有効にする設定は、次の2つの場合で変更内容が異なります。

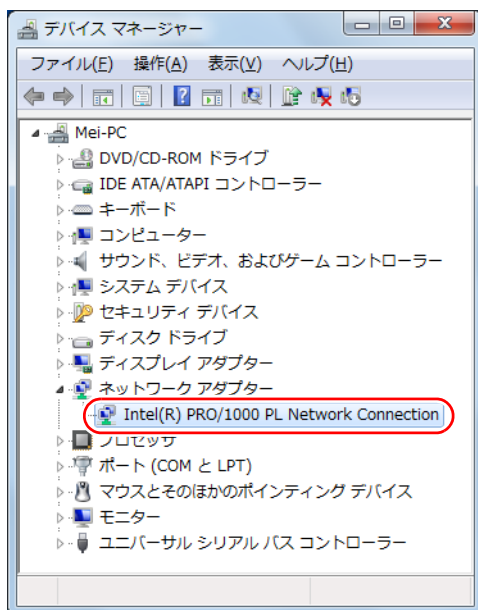
- シャットダウン状態から起動させる場合
- スリープ、休止状態から起動させる場合

設定を変更する方法は、次のとおりです。

<シャットダウン状態から起動させる場合>

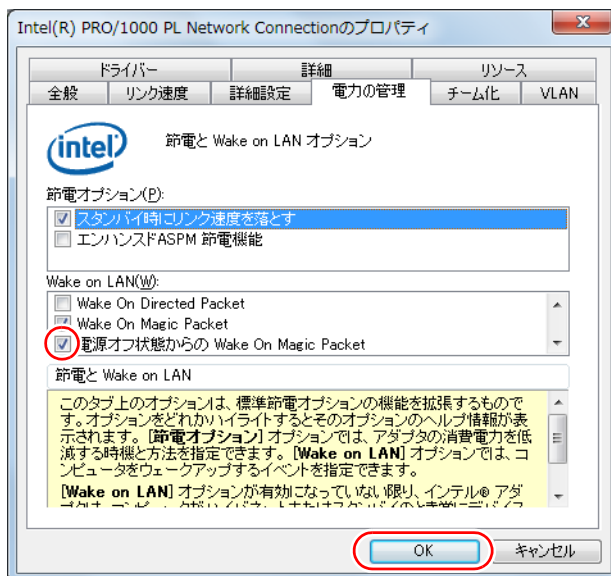
- 1** 「BIOS Setupユーティリティ」-「Power」メニュー画面-「APM Configuration」-「Power On by PME#」を「Enabled」に設定します。
 p.145 「BIOS Setupユーティリティの操作」
 p.161 「Powerメニュー画面」
- 2** Windowsを起動して、[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「デバイスマネージャー」をクリックします。


- 3** 表示された「デバイスマネージャー」の「ネットワークアダプター」をダブルクリックし、「Intel(R) PRO/1000 PL・・・」をダブルクリックします。



- 4** 表示された「Intel(R) PRO/1000 PL・・・」画面の「電力の管理」タブをクリックします。

- 5** 「電源オフ状態からのWake On Magic Packet」にチェックを付けて[OK]をクリックします。




- 6**  をクリックし、開いている画面をすべて閉じます。

 参考

Wakeup On LANを設定している場合

BIOSの設定で、Wakeup On LAN (Power On by PME#) が有効に設定されているときに、電源コードを抜き、再び接続するとコンピューターが一瞬起動する場合があります。これは、不具合ではありません。

<スリープ、休止状態から起動させる場合>

- 1** Windowsを起動して、[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「デバイスマネージャー」をクリックします。
- 2** 表示された「デバイスマネージャー」の「ネットワークアダプター」をダブルクリックし、「Intel(R) PRO/1000 PL・・・」をダブルクリックします。
- 3** 表示された「Intel(R) PRO/1000 PL・・・」画面の「電力の管理」タブをクリックします。
- 4** 「Wake On Magic Packet」にチェックを付けて [OK] をクリックします。
- 5**  をクリックし、開いている画面をすべて閉じます。

リモートブート

リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバー上からWindowsをインストールすることができます。

インターネットに接続する

インターネットに接続するには、プロバイダーとの契約が必要です。プロバイダーと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順が記載された説明書がプロバイダーより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。



再インストール後のインターネット接続

Windowsを再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダーからの説明書はなくさないように大切に保管してください。

▶インターネットや電子メールを利用する

本機では、次のソフトウェアを使用してインターネットや、電子メールを利用します。

- ホームページの閲覧：Internet Explorer（インターネットエクスプローラー）
- 電子メールの利用：Windows Liveメール



Officeをインストールしているときは

Officeをインストールしている場合は、電子メールソフトOutlookを使用することもできます。

Outlookの使用方法は、Outlookのヘルプをご覧ください。

各ソフトウェアの起動方法

各ソフトウェアの起動方法は、次のとおりです。

● Internet Explorer

デスクトップ左下のアイコンから起動します。



<Internet Explorerアイコン>

● Windows Live メール

次の場所から起動します。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Windows Live」 - 「Windows Live メール」

各ソフトウェアの使用方法

各ソフトウェアの使用方法は、次をご覧ください。

「各ソフトウェアのヘルプ」
「PCお役立ちナビ」－「お役立ち」

Internet Explorerで情報バーが表示されたら

購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用时、情報バーに警告が表示されたら、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。



Internet Explorerの便利な追加機能

本機にはInternet Explorerの便利な機能として、次のソフトウェアが添付されています。

- JWord

Internet Explorerのアドレスバーにキーワードを入力して、検索を行うことができます。

- gooスティック

Internet Explorerツールバー上の「goo」検索ボックスにキーワードを入力して、検索を行うことができます。

- マカフィー・サイトアドバイザープラス

Webサイトの安全性評価を表示するツールです。「マカフィー・サイトアドバイザープラス」を使用する場合は、Internet Explorerのツールバー上の「McAfee SiteAdvisor」ボタンからユーザー登録を行ってください。

セキュリティーソフトウェア「マカフィー・PCセキュリティーセンター 90日期間限定版」側でユーザー登録を行った場合、登録は不要です。

インターネットを使用する際のセキュリティ対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうる、コンピューターウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対する、セキュリティ機能が備えられています。

ここでは、このセキュリティ機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピューターの安全を守るため、必ずセキュリティ対策を行ってください。

▶ Windows Update

「Windows Update」は、本機のWindowsの状態を確認し、Windowsの更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。Windowsを最新の状態にするため、Windows Updateを行ってください。

自動更新の設定

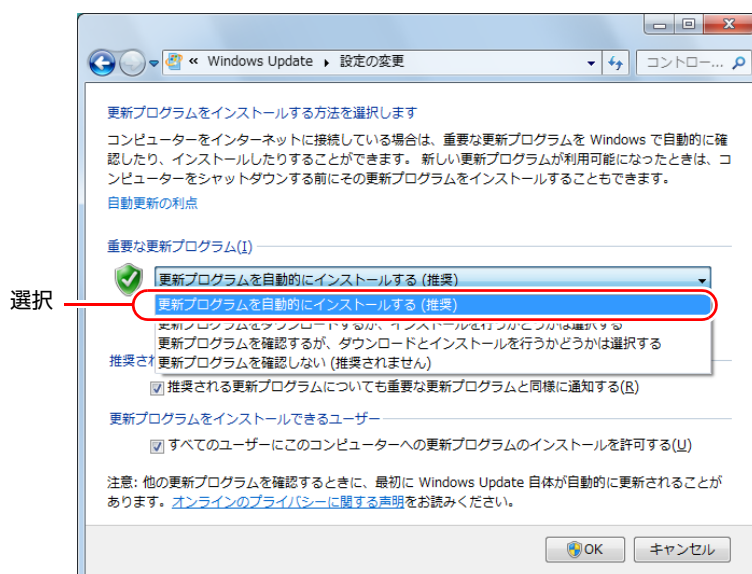
本機を使用する際は、自動でWindows Updateが行われるように、自動更新の設定をすることをおすすめします。

自動更新の設定がされていると、更新プログラムのダウンロードとインストールが自動で行われます。

Windowsのセットアップ時に「コンピューターの保護と…」画面で「推奨設定を使用します」を選択した場合は、自動更新の設定がされています。そのまま使用してください。

自動更新の設定は、次の場所で行います。

【スタート】-【すべてのプログラム】-【Windows Update】-【設定の変更】



▶セキュリティーソフトウェア

インターネットに接続する場合は、コンピューターウイルス感染や不正アクセスを防ぐため、セキュリティーソフトウェアを必ず使用してください。

マカフィー・PCセキュリティーセンター 90日期間限定版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能を備えた「マカフィー・PCセキュリティーセンター 90日期間限定版」がインストールされています。

※購入時の選択によっては、インストールされていません。

マカフィー・PCセキュリティーセンター 90日期間限定版の詳細は、次の場所をご覧ください。

「PCお役立ちナビ」－「マニュアルビューワ」－「セキュリティーソフトウェアをご使用の前に」



サポート情報

正しく動作しない場合など、マカフィー製品に関するご相談については、下記へお問い合わせください。

※下記のサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

●マカフィー・インフォメーションセンター

マカフィー製品購入前のマカフィー製品に関するお問い合わせ

マカフィー・サポートWeb

<http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/>

E-mail によるお問い合わせフォーム

http://www.mcafee.com/japan/mcafee/home/info_redirect.asp

電話ナビダイヤル : 0570-010-220

IP 電話、光電話の場合 : 03-5428-1899

受付時間9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日を除く)

● マカフィー・カスタマーオペレーションセンター

対応内容登録方法に関するご相談やお客さま登録情報の変更など

マカフィー・サポートWeb

<http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/>

E-mail によるお問い合わせフォーム

http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/cs_redirect.asp

電話ナビダイヤル : 0570-030-088

IP 電話、光電話の場合 : 03-5428-1792

受付時間9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日を除く)

● マカフィー・テクニカルサポートセンター

対応内容ソフトウェアの操作方法や不具合などの技術的なお問い合わせ

マカフィー・サポートWeb

<http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/>

マカフィー・チャットサポート

<http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/chat.asp>

E-mail によるお問い合わせフォーム

http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/supportform_redirect.asp

電話ナビダイヤル : 0570-060-033

IP 電話、光電話の場合 : 03-5428-2279

受付時間9:00 ~ 21:00 (年中無休)

(FAX によるお問い合わせは受け付けておりません)

市販のセキュリティーソフトウェアを使う

市販のセキュリティーソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、マカフィー・PCセキュリティセンター 90日期間限定版をアンインストール（削除）してください。アンインストール方法は、次の場所をご覧ください。

「PCお役立ちナビ」－「マニュアルびゅうわ」－「セキュリティーソフトウェアをご使用前に」

▶Webフィルタリングソフトウェア

Webフィルタリングとは、インターネット上の有害なサイトを表示しないようにするための技術です。Webフィルタリングを行うと、有害サイトへのアクセスを自動的に制限することができます。


i-フィルター 30日版を使う

本機には、「Webフィルタリング」機能を持つ「i-フィルター 30日版」が添付されています。

家庭内でお子様がコンピューターを使用する際に、有害なサイトへのアクセスを制限したいときなどは、i-フィルター30日版を使用することをおすすめします。

i-フィルター 30日版のインストール

購入時、本機にはi-フィルター 30日版はインストールされていません。

インストール方法は、 p.188 「i-フィルター 30日版のインストール」をご覧ください。


市販のWebフィルタリングソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、i-フィルター 30日版はインストールしないでください。

1 デスクトップ上の「i-フィルター」アイコンをダブルクリックします。



<i-フィルターアイコン>

「i-フィルター…」画面が表示された場合は、ユーザー登録が完了していません。ユーザー登録を行ってから再度設定を行ってください。

 p.188 「i-フィルター 30日版のユーザー登録」

2 「管理パスワードの入力」画面が表示されたら、管理パスワードを入力して [OK] をクリックします。

3 「i-フィルター」の「トップページ」が表示されたら、「フィルタリング設定」をクリックします。

「フィルタリング設定」画面が表示されます。

i-フィルター 30日版の詳しい使用方法は、ヘルプをご覧ください。



<イメージ>



ファイアウォール機能による警告画面が表示された場合は

セキュリティソフトウェアのファイアウォール機能を有効にしている場合、インターネット閲覧時に「i-フィルター 30日版」でのインターネットアクセスに関する警告が表示されることがあります。


この場合は、「i-フィルター 30日版」の使用を許可してください。

i-フィルター 30日版の利用期限

i-フィルター 30日版の利用期限は、ユーザー登録後30日間です。利用期限が過ぎると、フィルター機能が停止します。

<継続して利用する場合>

継続利用の手続き（有償）をオンラインで行ってください。

 p.110 「i-フィルター 30日版のサポート」



本機に添付のi-フィルター 30日版は、「i-フィルター更新パック」で継続利用手続きを行うことはできません。

<継続して利用しない場合>

i-フィルター 30日版のアンインストールを行ってください。

i-フィルター 30日版のアンインストール方法は、デジタルアーツ社のホームページの「よくある質問」をご覧ください。



p.110 「i-フィルター 30日版のサポート」

i-フィルター 30日版のサポート

i-フィルター 30日版のサポートは、デジタルアーツ社で行います。

よくあるご質問と回答・サポート窓口・継続利用手続き・サービスページなどについては、デジタルアーツ社の次のホームページをご覧ください。

なお、このサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

<http://www.daj.jp/cs/support.htm>

省電力機能


ここでは、本機の省電力機能について説明します。

▶本機を省電力状態にする


本機を使用していない間、省電力状態にしておくと、電力の消費を抑えることができます。ここでは、省電力状態に移行する方法や、省電力状態からの復帰方法について説明します。

省電力状態へ移行する際の注意

省電力状態に移行する際には、次のような制限事項があります。移行する前に、確認して正しくお使いください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
 - ・ 周辺機器を接続している
 - ・ ソフトウェアを起動している
- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。
 -  p.114 「時間経過で移行させない」
 - ・ 光ディスクメディアへの書き込み時：書き込みに失敗する可能性
 - ・ サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
 - ・ メモリーカードや外部接続記憶装置（USB FDDなど）へのデータ書き込み時：データ破損の可能性
 - ・ ネットワーク機能などを使っての通信時：通信が切断される可能性
 - ・ 動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
 - ・ 省電力状態で周辺機器などの抜き差しを行った場合
 - ・ ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行した場合
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。

このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。

 - ・ 再起動する
 - ・ 省電力状態に移行しないように設定する
 -  p.114 「時間経過で移行させない」

省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。

- **ディスプレイの電源を切る**

省電力の効果はスリープ状態より低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。

- **スリープ状態**

作業中の内容を一時的に保存し、コンピューターを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが消灯します。通常の状態へは数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

スリープ状態には次の2つがあり、作業中の内容の保存方法が異なります。

- **ハイブリッドスリープ（初期値）**

スリープと休止状態を合わせたスリープです。

作業中の内容はメモリーとHDDの両方に保存されます。

- **スリープ**

作業中の内容はメモリーのみに保存されます。


- **休止状態**

作業内容をHDDに保存し、コンピューターを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが消灯します。シャットダウン状態からよりも早く通常の状態へ復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

休止状態を有効にする

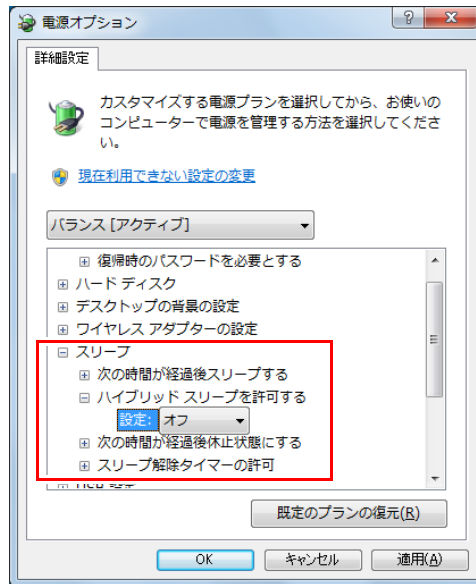
本機では、休止状態が無効に設定されています。休止状態を有効にするには設定を行ってください。



- 休止状態を有効にすると、スリープ状態がハイブリッドスリープからスリープに変わります。
 p.112 「省電力状態の種類」

休止状態を有効にする方法は次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「電源オプション」で、休止状態を有効にしたいプランの「プラン設定の変更」をクリックし、「詳細な電源設定の変更」をクリックします。
- 2 「スリープ」 - 「ハイブリッドスリープを許可する」を「オフ」に設定します。
- 3 [OK] をクリックします。



▶省電力状態に移行する方法

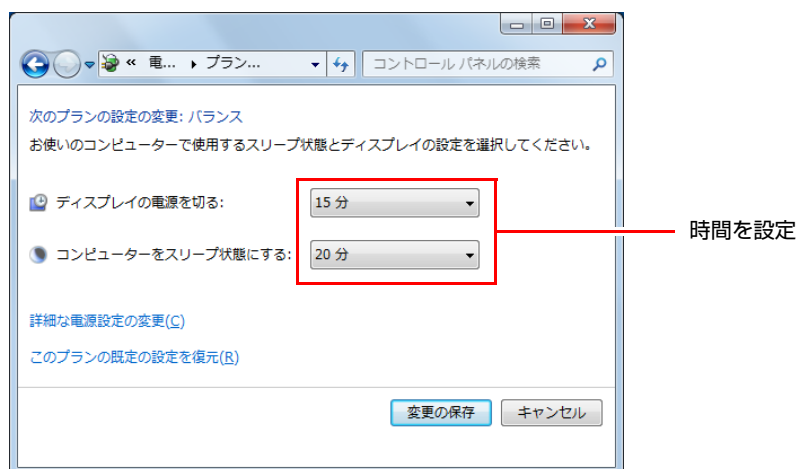
本機を省電力状態にするには、時間経過で移行する方法と直ちに移行する方法があります。

時間経過で移行する

コンピューターを操作しない状態で、時間が経過すると、本機は自動的に省電力状態に移行します。初期値ではまずディスプレイの電源が切れ、そのまま操作しないと続いてコンピューターがスリープ状態になります。

省電力状態に移行する（ディスプレイの電源を切る、コンピューターをスリープ状態にする）までの時間は、次の場所を変更することができます。

【スタート】－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ」－「電源オプション」－各プランの「プラン設定の変更」



時間経過で移行させない

光ディスクメディアやメモリーカードに書き込む場合などは、時間経過で省電力状態に移行する設定を無効にします。時間をすべて「なし」に設定してください。

直ちに移行する

次の操作をすると、本機はすぐに省電力状態に移行します。

操作	省電力状態の種類
[スタート]－[D] から項目を選択する	スリープ状態、休止状態*

*購入時は表示されません。

電源ランプの表示

本機の電源の状態は、電源ランプ (①) で確認できます。

電源の状態	電源ランプの表示
通常の状態	点灯 (緑色)
ディスプレイの電源が切れている状態	点灯 (緑色)
スリープ状態	点灯 (オレンジ色)
休止状態	消灯
電源切断時 (シャットダウン時)	消灯

省電力状態からの復帰方法

本機を省電力状態から通常の状態に復帰させる方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプの表示	復帰方法
ディスプレイの電源が切れている状態	点灯 (緑色)	マウスやキーボードを操作する
スリープ状態	点灯 (オレンジ色)	電源スイッチを押す
休止状態	消灯	電源スイッチを押す


そのほかの機能


▶パラレルコネクタ

本機背面にはパラレルコネクタが1個搭載されています。パラレルコネクタには、パラレルコネクタに対応した機器（プリンターやスキャナーなど）を接続します。

本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

「Advanced」メニュー画面 - 「Onboard Devices Configuration」 - 「Parallel Port Address」

 p.145 「BIOS Setupユーティリティの操作」


 p.159 「Advancedメニュー画面」


▶シリアルコネクタ

本機背面にはシリアルコネクタが1個搭載されています。シリアルコネクタには、シリアルコネクタに対応した機器（マウスやターミナルアダプターなど）を接続します。

本機のシリアルポートは、COM2に設定されています。本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常はシリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

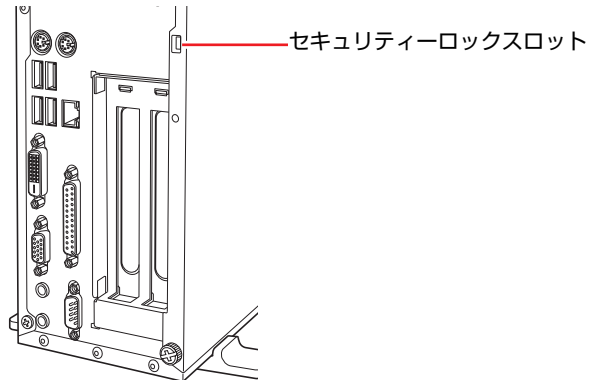
「Advanced」メニュー画面 - 「Onboard Devices Configuration」 - 「Serial Port2 Address」

 p.145 「BIOS Setupユーティリティの操作」

 p.159 「Advancedメニュー画面」

▶セキュリティロックスロット

本機背面には、「セキュリティロックスロット」が搭載されています。ここには、盗難抑止ワイヤーを取り付けます。



当社では、オプションで盗難抑止ワイヤーを取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。

ホームページのアドレスは、次のとおりです。

<http://shop.epson.jp/>

第3章 システムの拡張

装置の増設・交換方法について説明します。

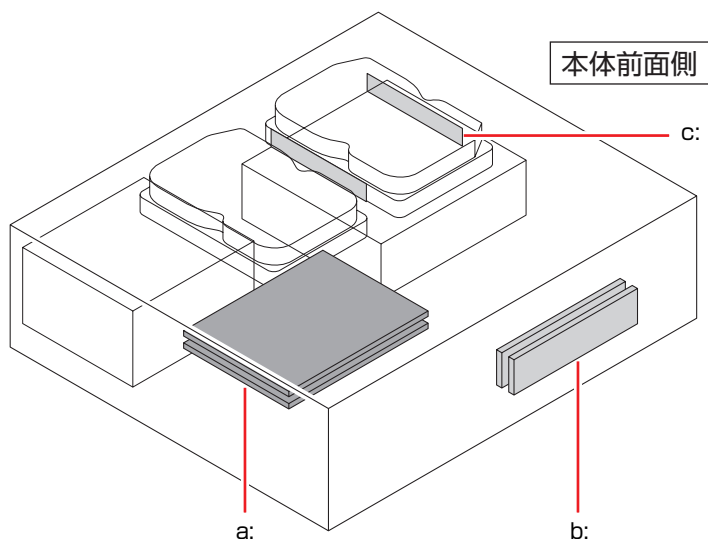
「拡張できる装置」	120
「作業時の注意」	122
「拡張時の準備作業」	123
「メモリーの装着」	126
「拡張ボードの装着」	131
「HDDの装着」	136

拡張できる装置

本機では、次の各部に装置を増設・交換して機能を拡張することができます。ただし、購入時にいくつかの装置がすでに装着されているため、実際に拡張できる装置の数は異なります。




メモリーや拡張ボード、増設 HDD 以外の装置をご自身で増設・交換することはできません。




a: 拡張スロット

拡張スロットには、PCI仕様の拡張ボードを2枚装着できます。

 p.131 「拡張ボードの装着」


b: メモリースロット

メモリースロットには、メモリーを2枚装着できます。

 p.126 「メモリーの装着」

c: HDD増設用ブラケット

HDDを1台装着できます。

 p.136 「HDDの装着」

※本機購入時に次の装置をオプション選択された場合、HDDは増設できません。

- ・ FDD
- ・ マルチカードリーダー

アップグレードサービスについて

当社では、次の装置のアップグレードサービス（増設・交換）を有償で行っています。購入時のシステム構成により、増設できる装置は異なります。

- メモリー : 増設・交換
- HDD : 増設・交換
- 光ディスクドライブ : 交換
- FDD : 増設
- マルチカードリーダー : 増設

アップグレードサービスをご希望の場合は、カスタマーサービスセンターにご相談ください。カスタマーサービスセンターの連絡先は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。

ご自身での装置の増設・交換（メモリーや拡張ボード、増設HDDを除く）は、故障の原因となりますので行わないでください。

作業時の注意

本機内部に装置を装着する場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。



- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- 装置の増設・交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- メモリーの切り欠きとメモリスロット内の仕切りは、確実に合わせてください。メモリーの向きを間違えると、正しく装着できません。間違った状態で使用すると、発煙や発火のおそれがあります。



- 本機から周辺機器を必ず取り外してください。
- 取り付けを行う際は、取り付ける装置のマニュアルを必ず参照してください。
- 本機内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリーや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリーや拡張ボードを持つときは、端子部や素子に触れないでください。破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 固定プラグが確実に閉じていない場合、メモリーがしっかりと固定されていない可能性があります。再度、メモリーの向きを確認し、固定プラグが確実に閉じるまで、しっかりとメモリーを押し込んでください。
- 装置は落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリーや拡張ボードの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

拡張時の準備作業

装置の拡張作業を行う場合は次の準備作業が必要です。各装置の拡張手順に従って、必要に応じて作業を行ってください。



作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。

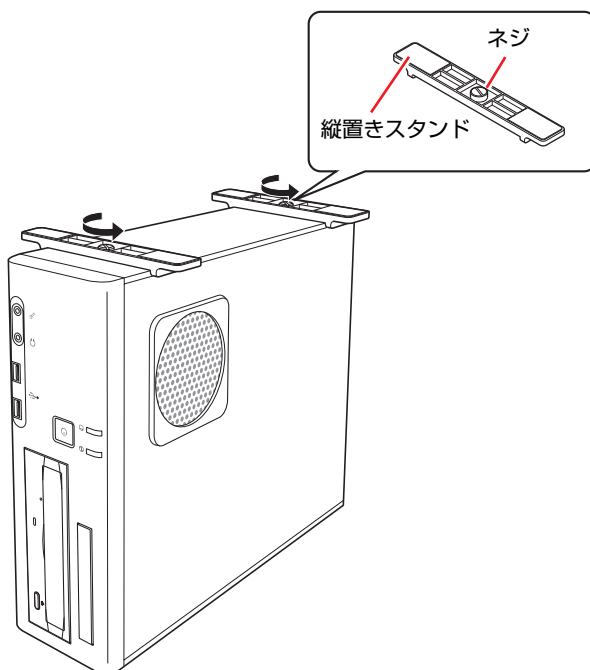
▶ 本体カバーの取り外し・取り付け

本機の内部に装置を装着する場合は、本体カバーを外してください。

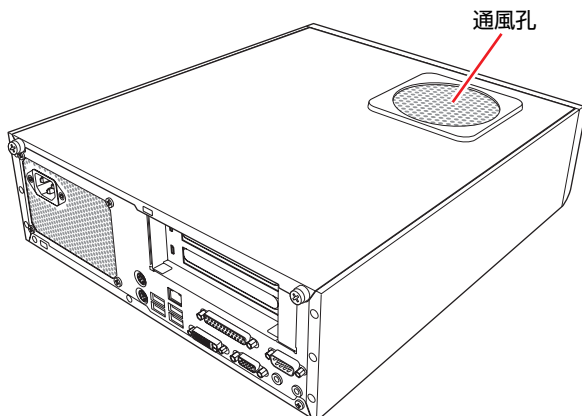
取り外し

本体カバーの取り外し方法は次のとおりです。

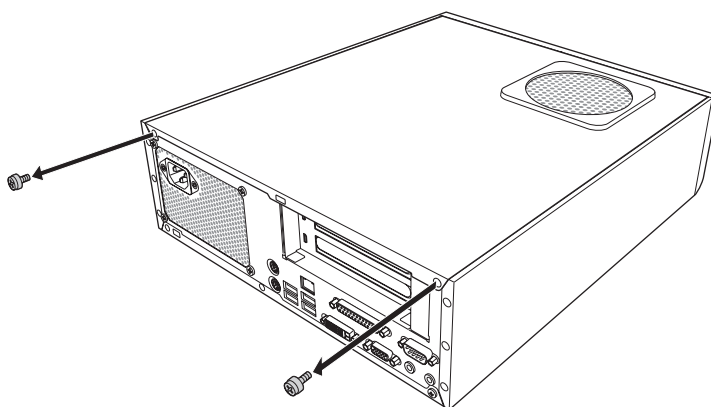
- 1** コンピューター本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピューター本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本機を縦置きで使用している場合、光ディスクドライブ側を下にして置き、ネジをゆるめてから縦置きスタンドを取り外します。



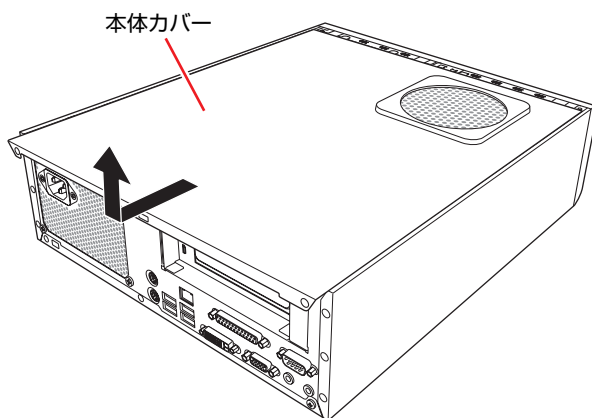
- 4** 通風孔がある側面が上になるように、本体を横置きします。



- 5** 本機背面のネジ（2本）を外します。



- 6** 本体カバーを背面側にスライドさせ、上へ持ち上げて取り外します。



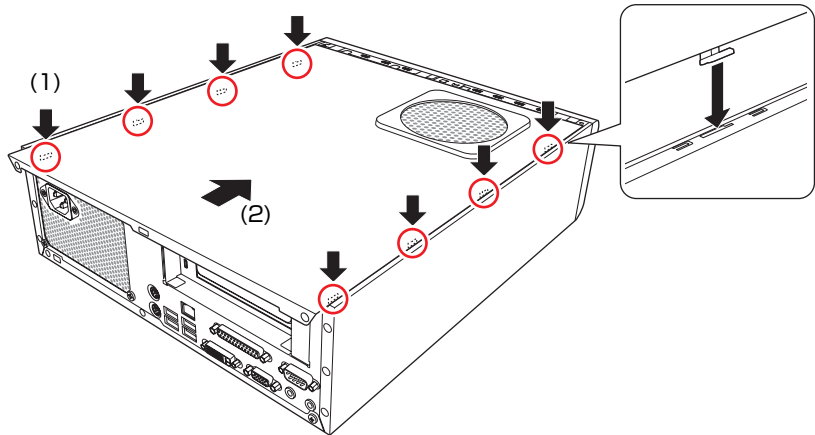
取り付け

本体カバーの取り付け方法は次のとおりです。

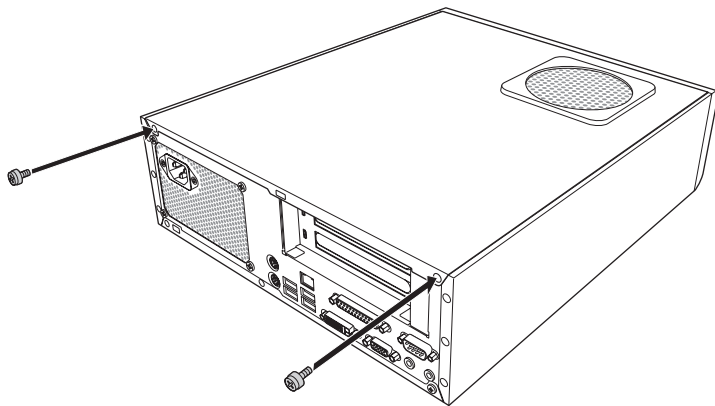
1 本体カバーを取り付けます。

(1) 本体側面の穴（8個）とカバーの突起（8個）の位置を合わせて、本体カバーを上からかぶせます。

(2) 本体カバーを本体前面側にスライドさせます。



2 ネジ（2本）で本機背面と本体カバーを固定します。



3 縦置きで使用する場合は、光ディスクドライブを下にして、縦置きスタンドを取り付けます。

縦置きスタンドを取り付けたら、スタンドを下にして置きます。

4 コンピューターを使用できるように取り外したケーブル類（電源コードなど）を本機に接続します。

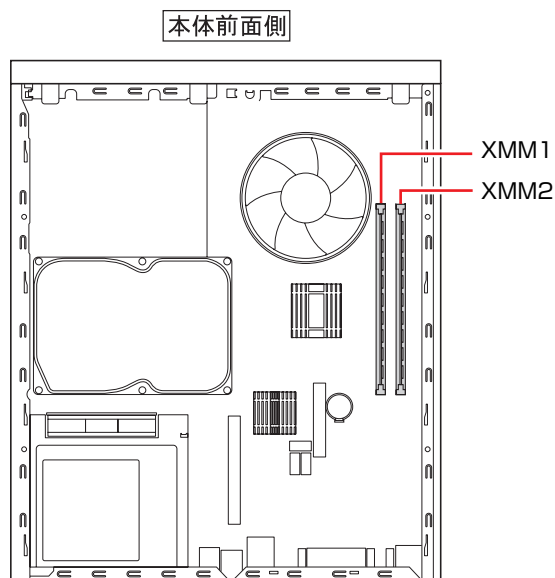
これで本体カバーの取り付けは完了です。

メモリーの装着

本機で使用可能なメモリーの仕様と、メモリーの取り付け・取り外し方法について説明します。

本機にはメモリースロットが2つあり、メモリーを増設・交換することにより拡張が可能です。

マザーボード上のメモリースロットの位置は、次のとおりです。



▶メモリーの仕様

本機で使用可能なメモリーは、次のとおりです。

- PC2-6400 (DDR2-800 SDRAM使用)
- メモリー容量 1GB、2GB
- Non ECC
- 240ピン
- CL=5



本機で合計 3GB を超えるメモリーを搭載しても、システム上利用できるメモリーの最大容量は約 3GB です。

最新メモリー情報

今後、新しいメモリーを取り扱う場合があります。

本機で使用可能な最新のメモリーは、当社ホームページでご確認ください。

ホームページのアドレスは、次のとおりです。

<http://shop.epson.jp/>


▶メモリー装着の組み合わせ

本機はデュアルチャネルに対応しているため、同一容量のメモリーを2枚1組で装着すると、データ転送速度のパフォーマンスが最大になります。
メモリー装着の組み合わせとメモリーの動作は、次のとおりです。

メモリー装着の組み合わせ	メモリーの動作
同一容量のメモリー2枚	デュアルチャネルで動作。転送速度最大。
メモリー1枚*	通常の転送速度で動作（シングルチャネル）。



*メモリーを1枚で装着する場合は、XMM1スロットに装着してください。

▶メモリーの取り付け・取り外し

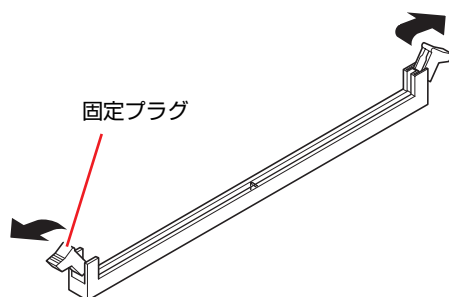
作業を始める前に  p.122 「作業時の注意」を必ずお読みください。
作業は、本機を横置きに行ってください。

取り付け

メモリーの取り付け方法は次のとおりです。

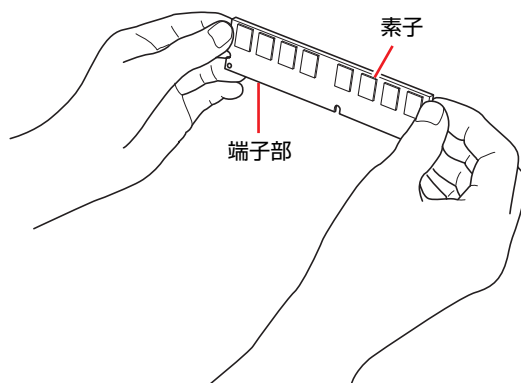
- 1** コンピューター本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピューター本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** 拡張ボードを装着している場合は、リンクバーを取り外します。
 p.132 「拡張ボードの取り付け・取り外し」－「取り付け」手順4

5 メモリースロットの固定プラグを開きます。



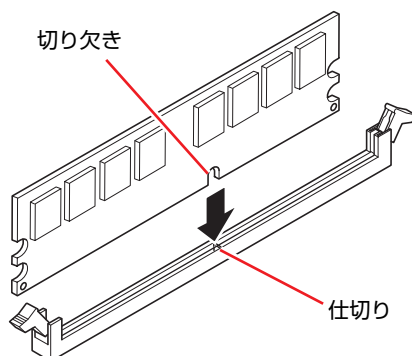
6 メモリーを静電防止袋から取り出します。

メモリーの端子部や素子に触れないように注意します。



7 メモリースロットにメモリーを差し込みます。

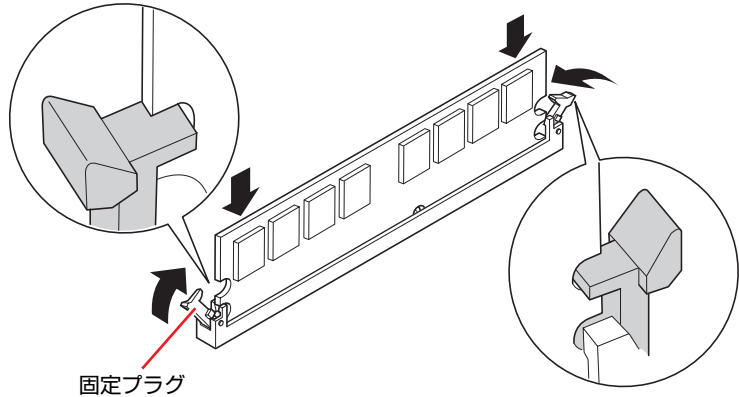
(1) メモリーの切り欠きをメモリースロット内の仕切りに合わせます。



メモリーの切り欠きとメモリースロット内の仕切りは、確実に合わせてください。
メモリーの向きを間違えると、正しく装着できません。間違った状態で使用すると、発煙や発火のおそれがあります。

- (2) メモリーを押し込むと、カチッと自動的に固定プラグが閉じてメモリーが固定されます。




メモリースロット両端の固定プラグが確実に閉じて、メモリーが固定されたことを必ず確認してください。




制限

固定プラグが確実に閉じていない場合、メモリーがしっかりと固定されていない可能性があります。

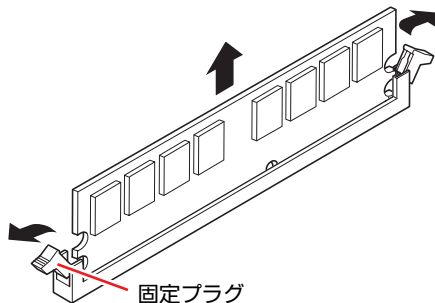
再度、メモリーの向きを確認し、固定プラグが確実に閉じるまで、しっかりとメモリーを押し込んでください。

- 8** 手順4でリンクバーを外した場合は、もとどおりに装着します。
 p.132 「拡張ボードの取り付け・取り外し」－「取り付け」手順8
- 9** 本体カバーを取り付けます。
 p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 10** コンピューターを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。
- 11** コンピューターの電源を入れて、メモリーの容量を確認します。
 p.130 「メモリーの増設・交換後の作業」

取り外し

メモリーの取り外しは、 p.127 「取り付け」の手順5～7を次の手順に読み替えて行ってください。


- 1 メモリーの両端を固定している固定プラグを開きます。




- 2 メモリーが外れたら静かに取り外します。
静電気防止袋に入れて保管してください。
- 3 固定プラグを閉じておきます。

▶メモリーの増設・交換後の作業

メモリーを交換したら、メモリーが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリー容量を確認します。
メモリー容量の確認方法は次のとおりです。

- 1 コンピューターの電源を入れたら、**[Delete]**を押して「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 p.145 「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 2 「Main」メニュー画面－「System Information」－「System Memory」－「Size」に表示されているメモリー容量を確認します。
- 3 **[F10]**を押してBIOS Setupユーティリティを終了します。

 p.149 「BIOS Setupユーティリティの終了」
手順2で総メモリー容量が正しく表示されない場合は、メモリーが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、メモリーを正しく取り付けなおしてください。

参考

メモリー容量の表示

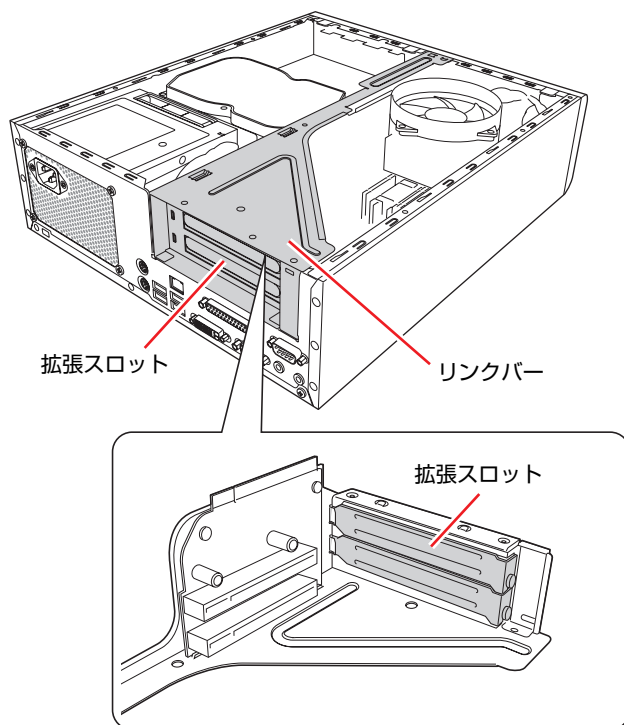
本機では、メインメモリーの一部をビデオメモリーとして使用します。そのため、メモリー容量は、メインメモリーからビデオメモリー（約8MB）を引いた値が表示されます。

拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と、拡張ボードの取り付け・取り外し方法について説明します。


▶ 拡張スロットの仕様

本機のリンクバーには拡張スロットが2つあります。各スロットの仕様は次のとおりです。



コネクタ仕様	装着可能な拡張ボードサイズ
PCI	ボード長：178mm×ボード幅：108mmまで


▶拡張ボードの取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.122 「作業時の注意」と拡張ボードのマニュアルを必ずお読みください。

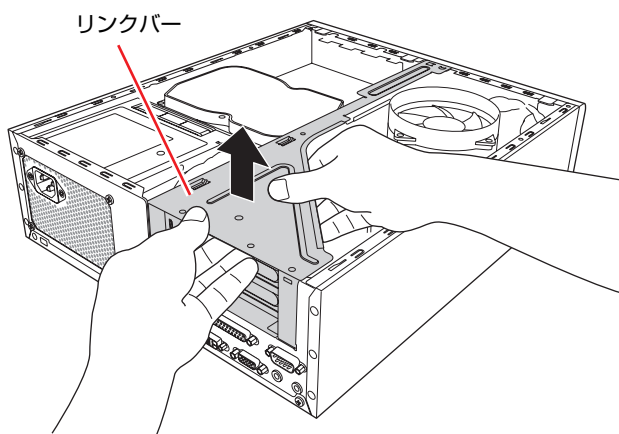
作業は、本機を横置きにして行ってください。

取り付け

拡張ボードの取り付け方法は次のとおりです。

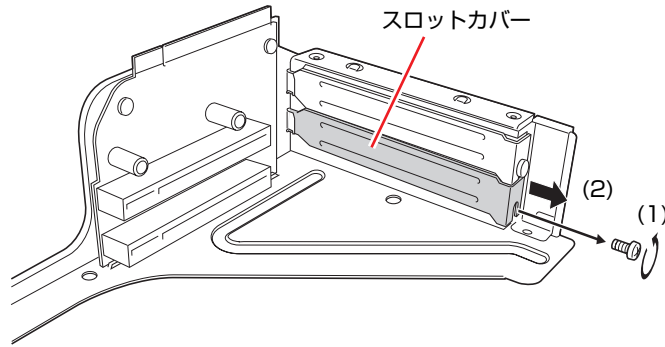
- 1** コンピューター本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピューター本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り外し」
- 4** リンクバーを取り外します。

下図のとおりに手をかけて、リンクバーを持ち上げます。このとき、周辺の部品やケースの角など、とがった部分で手などを切らないよう注意してください。



5 リンクバーを裏返して置き、装着するスロットのロットカバーを外します。

- (1) スロットカバーを固定しているネジを外します。
- (2) スロットカバーを矢印の方向に引き抜きます。

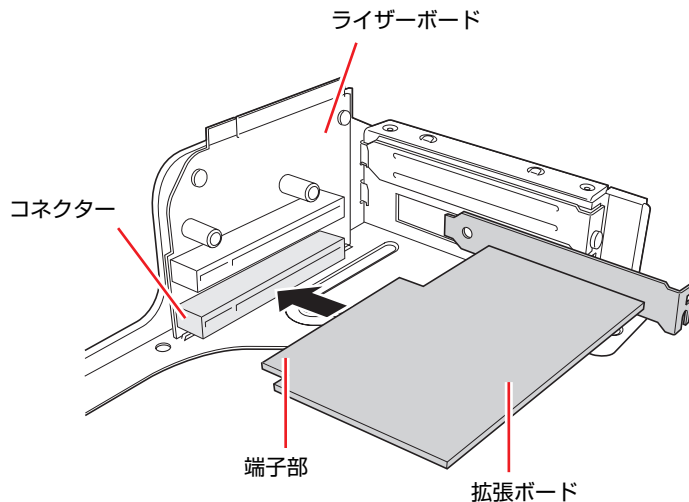


外したスロットカバーは、大切に保管してください。

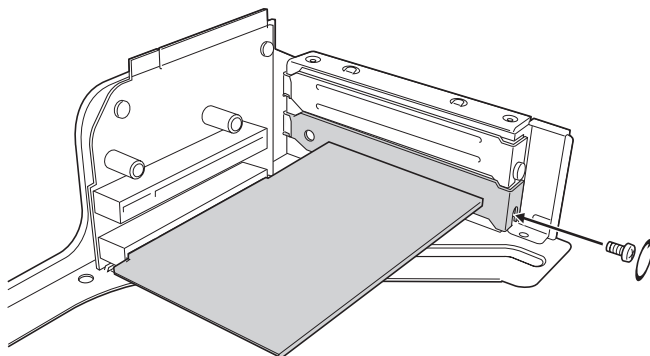
拡張ボードを外したあと、別の拡張ボードを装着しない場合は、本体内部にホコリなどが入らないように、再びスロットカバーを装着します。

6 拡張ボードを拡張スロットに差し込みます。

拡張ボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認し、ライザーボードを手で軽く押さえながら拡張ボードをゆっくり押し込みます。

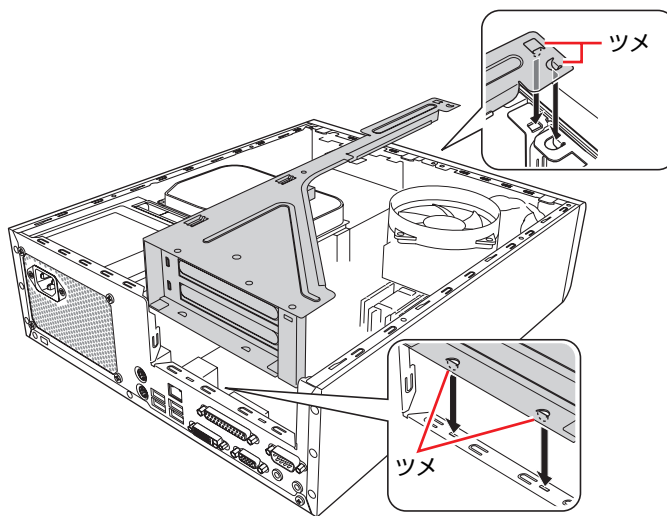


7 拡張ボードをネジで固定します。

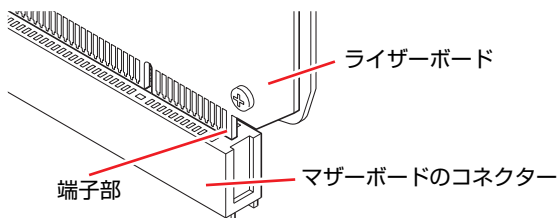


8 リンクバーを元の位置に取り付けます。

- (1) 下図のとおりリンクバーと本体の位置を合わせます。
- (2) リンクバーのツメ（細い方に2箇所、太い方に2箇所）をそれぞれ本体側の穴に合わせます。




- (3) ライザーボードの端子部分が、マザーボードのコネクターの位置にあるか確認します。




- (4) カチッと音がするまでリンクバーを押し込みます。


9 本体カバーを取り付けます。

 p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り付け」

10 コンピューターを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

続いて、 p.135 「拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

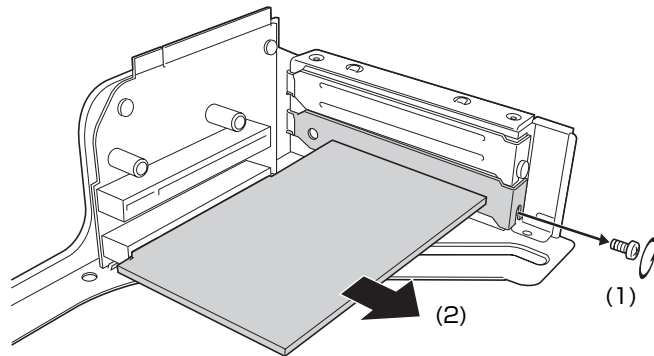
取り外し

拡張ボードの取り外しは、 p.132 「取り付け」の手順5～7を次の手順に読み替えて行ってください。

1 リンクバーを裏返して置き、拡張ボードを取り外します。

(1) 拡張ボードを固定しているネジを外します。

(2) 拡張ボードを引き抜きます。

**2** 拡張ボードを取り外したスロットに別の拡張ボードを装着しないときは、スロットカバーを取り付けておきます。**▶ 拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業**

拡張ボードによっては、取り付け・取り外しのあとに作業が必要な場合があります。詳しくはボードのマニュアルをご覧ください。


HDDの装着

本機には、HDD増設用ブラケットが搭載されており、シリアルATA仕様のHDDを1台装着することができます。

ここでは、HDDの取り付け・取り外し方法について説明します。

本機購入時に、オプションのFDDまたはマルチカードリーダーを選択された場合は、増設用ブラケットがないため、HDDの装着はできません。

▶HDDの取り付け・取り外し


作業を始める前に  p.122 「作業時の注意」と、機器のマニュアルを必ずお読みください。

作業は、本機を横置きに行います。



HDD へのアクセス制限を設定している場合は、次の項目でアクセス制限を解除してから HDD を増設してください。

「Boot」メニュー画面 - 「Security」 - 「Hard Disk Protection」

 p.154 「HDD アクセス制限」


本機には、HDD増設時に必要なネジ（4本）とシリアルATAケーブルは添付されていません。

ネジ、ケーブルは当社から購入することができます。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください、「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

取り付け

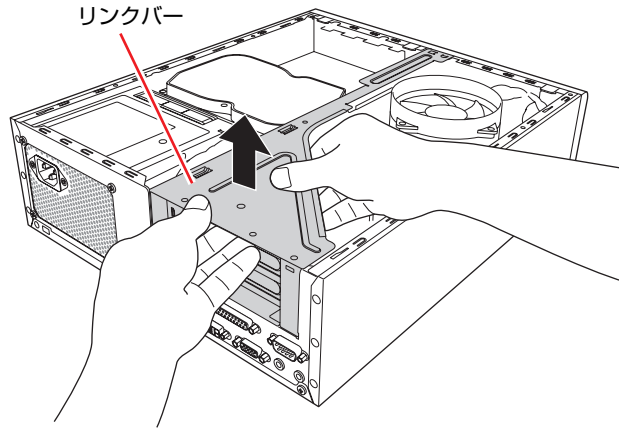
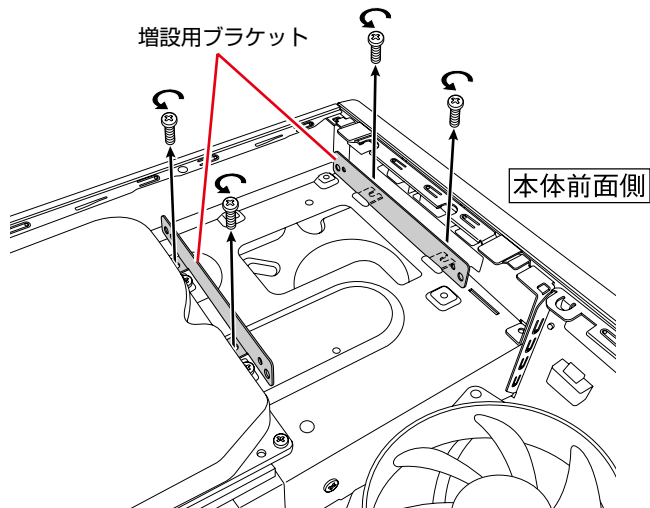
HDDの取り付け方法は次のとおりです。

- 1 コンピューター本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。**
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 コンピューター本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。**
- 3 本体カバーを取り外します。**

 p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」

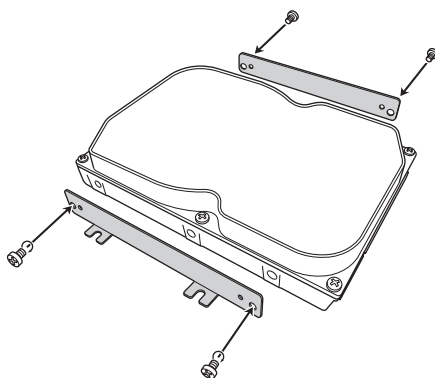
4 リンクバーを取り外します。

下図のとおりに手をかけて、リンクバーを持ち上げます。このとき、周辺の部品やケースの角など、とがった部分で手などを切らないよう注意してください。

**5** HDD増設用ブラケットを本機に固定しているネジ（各2本）を外して、ブラケットを取り外します。

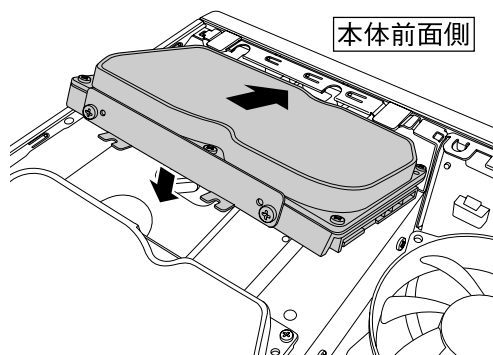
6 取り付けるHDDに増設用ブラケットを取り付けます。

増設用ブラケットのネジ穴をHDDのネジ穴に合わせて、ネジ（4本）で固定します。

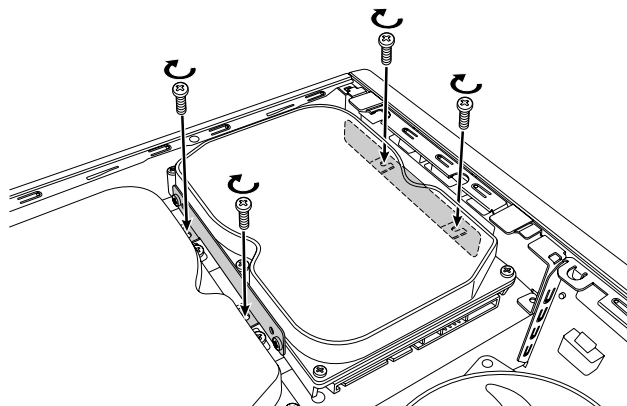


7 HDDを本機に取り付けます。

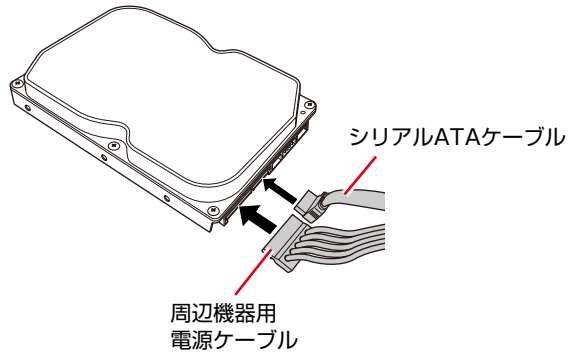
(1) 増設用ブラケットを取り付けたHDDを本体前面側に傾けて、本体前面側から先に入れます。



(2) 増設用ブラケットのネジ穴を本体のネジ穴に合わせて、ネジ（4本）で固定します。

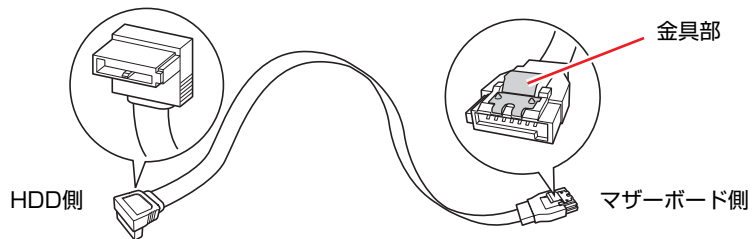


- 8** 取り付けた HDD に周辺機器用電源ケーブルとシリアル ATA ケーブルを接続します。



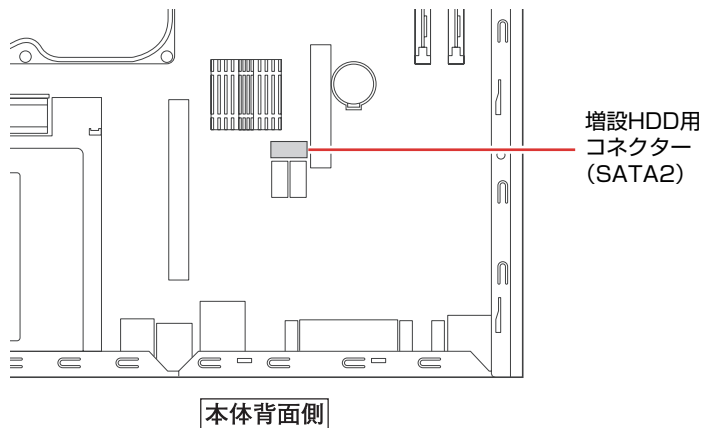
<シリアルATAケーブル>

シリアルATAケーブルは、ケーブル両端の形状と各コネクターの向きを確認して接続してください。




マザーボードからシリアルATAケーブルを取り外す際は、コネクターの金具部をつまんだ状態で引き抜きます。


- 9** HDDに取り付けたシリアルATAケーブルをマザーボードに接続します。




10 リンクバーを元の位置に取り付けます。

 p.132 「拡張ボードの取り付け・取り外し」－「取り付け」手順8

11 本体カバーを取り付けます。

 p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」

12 コンピューターを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

続いて、 p.141 「HDDの取り付け後の作業」を行います。

取り外し


HDDの取り外しは、「取り付け」の手順5～9を次の手順に読み替えて行ってください。



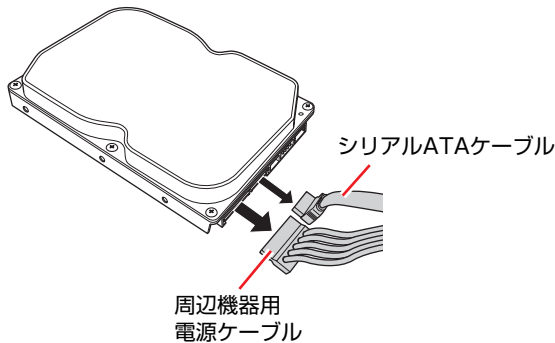
制限

HDD へのアクセス制限を設定している場合は、次の項目でアクセス制限を解除してから HDD を取り外してください。

「Boot」メニュー画面 - 「Security」 - 「Hard Disk Protection」

 p.154 「HDD アクセス制限」

- 1 取り外す HDD から周辺機器用電源ケーブルとシリアル ATA ケーブルを外します。




HDDを取り外した状態で本機を使用する場合は、シリアルATAケーブルをマザーボードから取り外します。

マザーボードからシリアルATAケーブルを取り外す際は、コネクタの金具部をつまんだ状態で引き抜いてください。

- 2 HDDを取り外します。
 - (1) HDD増設用ブラケットを固定しているネジ（4本）を外し、本機からHDDを取り外します。
 - (2) HDDに増設用ブラケットを固定しているネジ（各2本）を外して、HDDから増設用ブラケットを取り外します。
- 3 HDD増設用ブラケットを本機に取り付けます。

▶HDDの取り付け後の作業

HDDを取り付けたら、次の作業を行ってください。

HDDを取り付けた場合は、 p.226 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。

第4章 BIOSの設定

コンピューターの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

「BIOSの設定を始める前に」	144
「BIOS Setupユーティリティーの操作」	145
「BIOS Setupユーティリティーの設定項目」	157

BIOSの設定を始める前に



当社製以外の BIOS を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOSは、コンピューターの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、マザーボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- マザーボード上の機能を有効/無効にする場合


BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。

BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリー領域に保存されます。このメモリーはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。本機の使用状況によって異なりますが、本機のリチウム電池の寿命は約3年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。


 p.231 「リチウム電池の交換」

動作が不安定になったら


設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す。

万一来に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.157 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」

- 初期値や、前回保存した設定値に戻す。

 p.150 「設定値を元に戻す」

BIOS Setupユーティリティーの操作

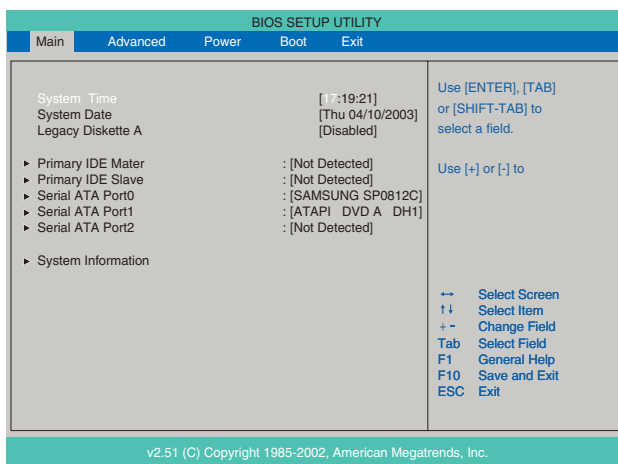
ここでは、「BIOS Setup ユーティリティー」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- パスワードを設定する
- HDDアクセス制限
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

▶ BIOS Setupユーティリティーの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの **[Delete]** の位置を確認してください。
手順2ではすばやく **[Delete]** を押す必要があります。

- 1** シャットダウン状態から本機の電源を入れます。
すでにWindowsが起動している場合は再起動します。
- 2** 本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの **[Delete]** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
Windowsが起動してしまった場合は、再起動して手順2をもう一度実行してください。
- 3** 「BIOS Setupユーティリティー」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。




<BIOS Setupユーティリティー画面 (イメージ)>

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合は、本機の電源を入れたときに、次のメッセージが表示されることがあります。

CMOS Checksum Bad または CMOS Setting Wrong
Press F1 to run SETUP

このメッセージが表示されたら **F1** を押して BIOS Setupユーティリティを起動します。通常は、そのまま「Exit & Save Changes」を実行して BIOS Setupユーティリティを終了します。

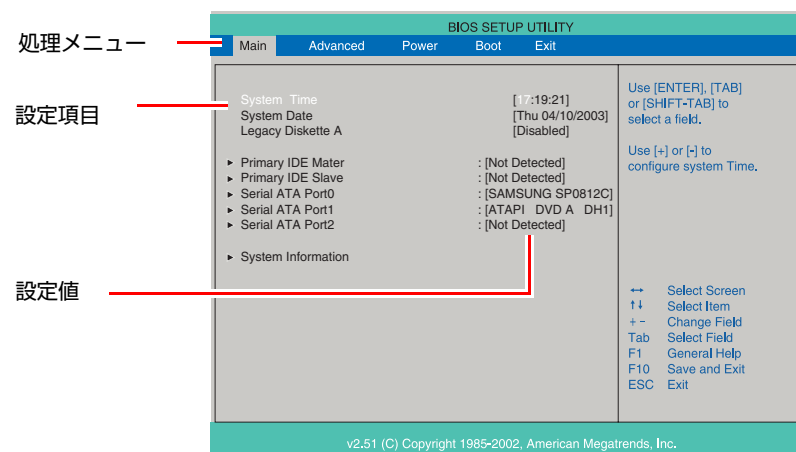
 p.149 「BIOS Setupユーティリティの終了」

▶ BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

画面の構成

BIOS Setupユーティリティを起動すると次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。



<メニュー画面>

ここで説明している画面は、イメージです。実際の設定項目とは異なります。各メニュー画面と設定項目の説明は、 p.157 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

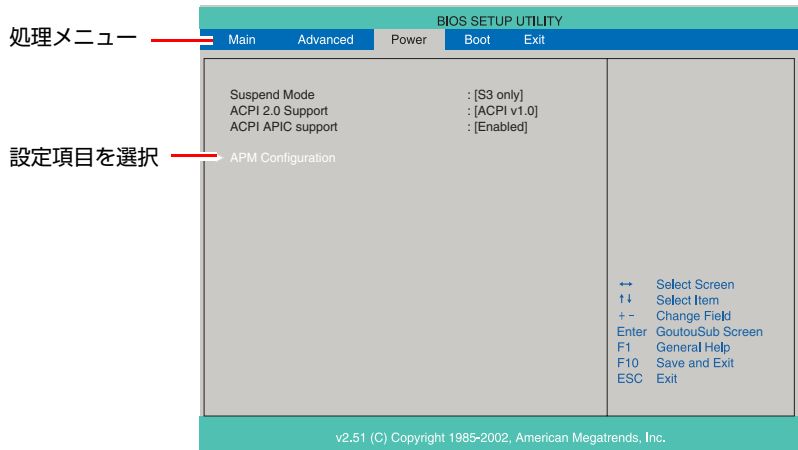
操作方法

BIOS Setupユーティリティの操作方法是次のとおりです。

- 1 処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

→ ← でメニュー間を移動します。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。

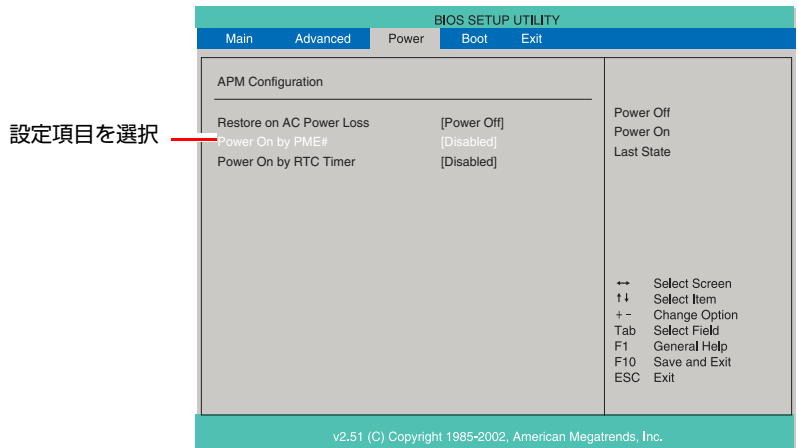


<メニュー画面>

<▶のある項目の場合>

▶のある項目の場合、↵を押すとサブメニュー画面が表示されます。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。

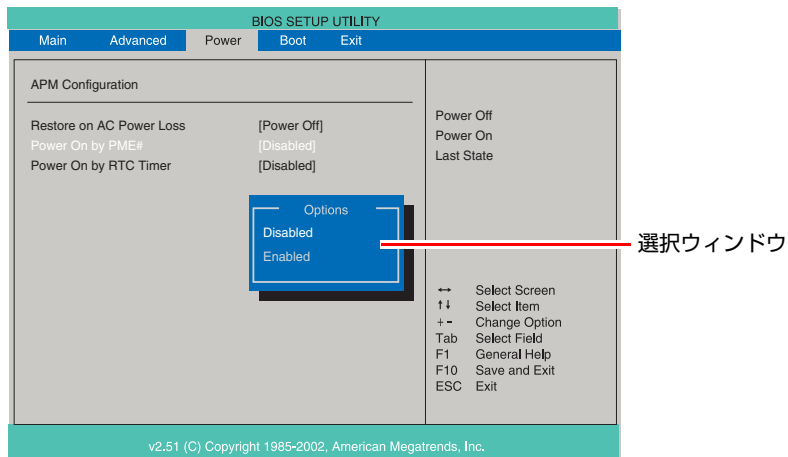


<サブメニュー画面>

サブメニュー画面から戻するには **Esc** を押します。

2 設定値を変更します。

← を押して選択ウィンドウを表示し、↑ ↓ で値を選択し ← で決定します。



キー操作

BIOSの画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
Esc	<ul style="list-style-type: none"> ● 変更した内容を破棄し、終了します。 ● サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
↑, ↓	設定を変更する項目を選択します。
←, →	処理メニューを選択します。
-, +	項目の値を変更します。
←↓	<ul style="list-style-type: none"> ● メニュー画面中の▶のある項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ● 設定値を選択します。
F5	全設定項目の値を、初期値に変更します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。

▶BIOS Setupユーティリティーの終了

「BIOS Setupユーティリティー」を終了するには、次の2つの方法があります。

Exit & Save Changes (変更した内容を保存し終了する)

変更した設定値を保存して、BIOS Setupユーティリティーを終了します。

- 1 **F10** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit now?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 [OK] を選択し、**↵** を押します。

Exit & Discard Changes (変更した内容を破棄し終了する)

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setupユーティリティーを終了します。

- 1 **Esc** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard configuration changes and exit now?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 [OK] を選択し、**↵** を押します。

▶設定値を元に戻す

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一、本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup Defaults（初期値に戻す）

BIOS Setupユーティリティの設定を初期値に戻す方法は、次のとおりです。

※「Boot」メニューの「Security」項目の設定は、初期値に戻りません。

- 1 **F5** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Load Setup Defaults ?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 [Ok] を選択し、**↵** を押します。

Load Setup Defaults実行後の作業

次の場合は、Load Setup Defaultsを実行したあとに、BIOSの設定値を設定しなおしてください。


<FDDを搭載していない場合>

コンピューターを正常に起動させるため、次の設定を行います。

「Main」メニュー画面－「Legacy Diskette A」を「Disabled」に設定します。

「Disabled」に設定しないと、コンピューターが正常に起動しません。

設定を行ったら、変更した内容を保存して終了します。

 p.149 「Exit & Save Changes（変更した内容を保存し終了する）」

Discard Changes（前回保存した設定値に戻す）

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard Changes ?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 [Ok] を選択し、**↵** を押します。

▶パスワードを設定する

「Boot」メニュー画面の「Security」でBIOSのパスワードを設定すると、BIOSやWindowsの起動時にパスワードを要求されるようになります。


パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき
- パスワードを設定しないと使用できない機能を使いたいとき
(HDDアクセス制限など)

パスワードの種類

パスワードには次の2種類があります。

- Supervisor Password (管理者パスワード)
コンピューターの管理者用のパスワードです。管理者パスワードでBIOSにログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。
- User Password (ユーザーパスワード)
一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードでBIOSにログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます(権限は、設定変更することができます)。

 p.152 「ユーザーパスワードの権限設定」


パスワードの設定方法

パスワードの設定方法は、次のとおりです。


管理者パスワードを設定すると、ユーザーパスワードが設定できるようになります。



設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOSの設定変更や、設定によってはWindowsの起動ができなくなります。


- 1 「Change Supervisor Password」または「Change User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:


- 2 パスワードを入力し、 を押します。


「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。パスワードとして使用できるのは英数字だけです。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

- 3** 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、を押します。

Confirm Password:

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not match!」というメッセージが表示されます。[Ok] が選択された状態で  を押すと、BIOS のメニュー画面に戻ります。この場合、手順1からやりなおしてください。


- 4** 「Password installed.」というメッセージが表示されたら、[Ok] が選択された状態で  を押します。

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。

続いて、「ユーザーパスワードの権限」や、「どこでパスワードを要求するか」を決めて設定します。

ユーザーパスワードの権限設定


ユーザーパスワードを設定した場合は、ユーザーパスワードでBIOSにログオンしたときの権限（項目の閲覧や変更に関する制限）を設定します。

 p.163 「Bootメニュー画面」－「Security」－「User Access Level」

管理者パスワードが設定されていないと権限変更はできません。権限を変更するときは、あらかじめ管理者パスワードを設定しておいてください。

パスワード入力タイミングの設定

BIOS Setupユーティリティ起動時や、Windows起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。

 p.163 「Bootメニュー画面」－「Security」－「Password Check」

管理者パスワードの削除方法

管理者パスワードの削除方法は、次のとおりです。管理者パスワードを削除する場合は、管理者パスワードでBIOSにログオンしてください。

- 1 「Change Supervisor Password」を選択して、を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:

- 2 何も入力せずに を押すと、次のメッセージが表示されます。

Password uninstalled.
[Ok]

- 3 [Ok] が選択された状態で を押します。
「Supervisor Password」の表示が「Not Installed」に変わります。
これで管理者パスワードが削除されました。

ユーザーパスワードの削除方法

ユーザーパスワードの削除方法は、次のとおりです。

- 1 「Clear User Password」を選択して、を押すと、次の画面が表示されます。

Clear User Password ?
[Ok] [Cancel]

- 2 [Ok] を選択して、 を押します。
「User Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。
これでユーザーパスワードが削除されました。

▶HDDアクセス制限

HDDアクセス制限を設定すると、次の状態になります。

- BIOSやWindows起動時、休止状態からの復帰時に管理者パスワードを要求されるようになる
- HDDをほかのコンピューターに接続した場合、認識されないようになる

HDDへの無断アクセスや、万が一HDDが盗難にあった場合の情報流出を防ぎたいときは、HDDアクセス制限を設定します。

HDDアクセス制限の設定方法


HDDアクセス制限の設定方法は次のとおりです。

※HDDアクセス制限を設定するときは、必ずシャットダウン状態からBIOS Setupユーティリティを起動してください。



- パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定したHDDは使用できなくなります。登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。
- HDDを増設・交換する際は、HDDへのアクセス制限を解除した状態で行ってください。

1 管理者パスワードを設定します。

 p.151 「パスワードの設定方法」

2 HDDアクセス制限の設定をします。


「Boot」メニュー画面－「Security」－「Hard Disk Protection」を「Enabled」に設定します。

 p.163 「Bootメニュー画面」

解除方法

HDDアクセス制限の解除方法は次のとおりです。

1 「Boot」メニュー画面－「Security」－「Hard Disk Protection」を「Disabled」に設定します。

 p.163 「Bootメニュー画面」

▶起動 (Boot) デバイスの順番を変更する

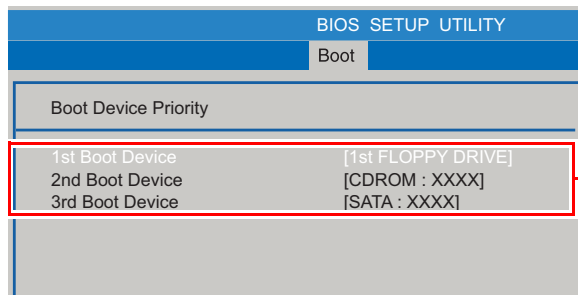
本機の電源を入れて起動しようとしたときに、リムーバブルディスク (USBフラッシュメモリーなど) を接続していたり、FDやメモリーカードがセットされていると、Windowsが起動しないことがあります。

このような場合、「BIOS Setupユーティリティ」で設定されている起動 (Boot) デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動 (Boot) デバイスの順番とは

電源を入れると、コンピューターは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステム (WindowsなどのOS) から起動します。

起動デバイスの順番の設定は、「Boot」メニュー画面ー「Boot Device Priority」で行います。



この順番に
デバイスを
検出して
起動します。

<イメージ>

「Boot Device Priority」に表示されるデバイスは次のとおりです。表示されるデバイスは、システム構成によって異なります。

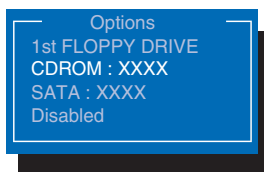
- 1st FLOPPY DRIVE (オプションのFDD)
- USB:XXXX (オプションのマルチカードリーダー、USB FDDやUSBフラッシュメモリーなどの型番)
- SATA:XXXX (接続されているHDDの型番)
- CDROM:XXXX (接続されている光ディスクドライブの型番)
- Network:XXXX (ネットワーク)
- Disabled (検出するデバイスを割り当てないときに設定します)

購入時は、FDD、マルチカードリーダーやリムーバブルディスクの順番がHDDより前に設定されているため、USB機器などのリムーバブルディスクを接続しているとHDD内のWindowsから起動できません。

起動 (Boot) デバイスの順番の変更方法

起動デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここではリムーバブルディスクを接続した状態でWindowsを起動できるように、1番目に起動するドライブを光ディスクドライブ、2番目に起動するドライブをHDDに設定する方法を説明します。

- 1 「Boot」メニュー画面で「Boot Device Priority」を選択し、**←**を押します。
- 2 サブメニュー画面が表示されたら、現在の起動の順番を確認します。
- 3 光ディスクドライブの順番を1番目に設定します。
 - (1) **↑** **↓**で「1st Boot Device」(1番目)を選択し、**←**を押します。
 - (2) 「選択」ウィンドウが表示されたら、**↑** **↓**で「CDROM:XXXX」を選択し、**←**を押します。
光ディスクドライブの順番が1番目になります。



<選択ウィンドウ画面>

- 4 同様の方法で、HDDの順番を2番目に設定します。
「2nd Boot Device」(2番目)を「SATA:XXXX」に設定します。
- 5 **F10**を押してBIOS Setupユーティリティを終了します。
 p.149 「BIOS Setupユーティリティの終了」
これで、起動デバイスの変更は完了です。

BIOS Setupユーティリティーの設定項目

ここでは、「BIOS Setupユーティリティー」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティーのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面
日付、時間、HDDなどの設定を行います。
- Advancedメニュー画面
CPUに関する設定、マザーボード上の機能やデバイスの設定などを行います。
- Powerメニュー画面
省電力機能や起動に関する設定を行います。
- Bootメニュー画面
システムを起動するドライブの設定やセキュリティーに関する設定などを行います。
- Exitメニュー画面
BIOS Setupユーティリティーを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻したりします。

▶ Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間、HDDなどの設定を行います。設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
*は項目表示のみ

System Time (hh:mm:ss) 時間の設定	時刻を設定します。(時間：分：秒)の順で表示されます。
System Date (mm:dd:yy) 日付の設定	日付を設定します。(曜日 月/日/年)の順で表示されます。
Legacy Diskette A (FDDの設定)	接続しているFDDのタイプを選択します。 ※BIOSの設定値を初期値に戻すと、「1.44M, 3.5 in.」に設定されます。FDDをオプション選択していない場合は、設定値を「Disabled」に変更してください。 Disabled : 3.5型FDD未搭載時(またはUSB FDD接続時) 1.44M, 3.5 in. : 3.5型FDD (オプション) 搭載時

Primary IDE Master Primary IDE Slave Serial ATA Port0 Serial ATA Port1 Serial ATA Port2 各ドライブの仕様を設定します。 ※表示される詳細項目は、選択するHDDや光ディスクドライブにより異なります。	* Device	ドライブの名称を表示します。
	* Vendor	ドライブの型番を表示します。
	* Size	HDDの容量を表示します。
	* LBA Mode	LBA (Logical Block Addressing) をサポートしているかどうかを表示します。
	* Block Mode	一度に何セクター転送できるかを表示します。
	* PIO Mode	ドライブの転送モードを表示します。
	* Async DMA	ドライブのDMA 転送モードとチャンネルを表示します。
	* Ultra DMA	ドライブの転送モードとチャンネルを表示します。
	* SMART Monitoring	S.M.A.R.T (Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) をサポートしているかどうかを表示します。
	Type	ドライブの仕様を設定します。初期値 [Auto] のまま使用します。 <u>Auto</u> : BIOSが自動的にドライブの仕様を設定します。
	LBA / Large Mode	LBA (Logical Block Addressing) を使用するかどうかを表示します。 Disabled: 使用しません。 <u>Auto</u> : LBAを使用します。
	Block (Multi-Sector Transfer) M	一度に何セクター転送できるかを表示します。 Disabled: 使用しません。 <u>Auto</u> : BIOSが自動的に最適な速度に設定します。
	PIO Mode	ドライブの転送モード (PIO) を設定します。 <u>Auto</u> : BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 0/1/2/3/4: 転送モードを設定します。
	DMA Mode	ドライブのDMA転送モードを設定します。 <u>Auto</u> : BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 SWDMA0/SWDMA1/SWDMA2/MWDMA0/MWDMA1/MWDMA2/UDMA0/UDMA1/UDMA2/UDMA3/UDMA4/UDMA5/
	SMART Monitoring	初期値 [Disabled] のまま使用します。
32Bit Data Transfer	初期値 [Disabled] のまま使用します。	
System Information 本機の仕様を表示します。	AMI BIOS	BIOSの情報を表示します。
	* Version	BIOS のバージョンを表示します。
	* Build Date	BIOS のバージョンの制定日を表示します。
	Processor	CPUの情報を表示します。
	* Brand String	CPUのタイプを表示します。
	* Speed	CPUの周波数を表示します。
	* Count	CPUコアの数を表示します。
	System Memory	本機に搭載されているメモリー容量の情報を表示します。
* Size	本機で使用可能なメモリー容量を、起動時に自動的に計算して表示します。表示される容量は、搭載されたメモリー容量から、あらかじめビデオメモリー専用割り当てられている容量 (約8MB) を引いた値です。	

▶ Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、CPUに関する設定、マザーボード上の機能やデバイスの設定などを行います。

設定項目は、次のとおりです。

____は初期値

*は項目表示のみ

CPU Configuration 本機に搭載されているCPUに関する情報を表示します。	* Manufacturer	メーカーを表示します。
	* Brand String	型番を表示します。
	* Frequency	周波数を表示します。
	* FSB Speed	バス・スピードを表示します。
	* Cache L1	CPUのL1キャッシュ容量を表示します。
	* Cache L2	CPUのL2キャッシュ容量を表示します。
	* Ratio Actual Value	ベースクロックに対する倍率を表示します。
	Virtualization Technology	Intel Virtualization Technology機能の設定をします。 Virtualization Technology機能を持つプロセッサが搭載されたモデルで表示します。 Windows XP Modeを使用する場合は、「Enabled」に設定します。 <u>Enabled</u> : 有効にします。 Disabled : 無効にします。

Onboard Devices Configuration マザーボード上のデバイスに関する設定をします。	Serial Port2 Address	シリアルポートのアドレスとIRQ信号を設定します。 Disabled : シリアルポートを使用しません。 3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3
	Parallel Port Address	パラレルポートが使用するアドレスを設定します。 Disabled : パラレルポートを使用しません。 378, 278, 3BC
	Parallel Port Mode	パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。 Normal : 標準の設定です。 Bi-Directional: EPP+ECPモードまたは双方向モードに設定します。 ECP : ECPモードに設定します。 EPP : EPPモードに設定します。
	EPP Version	「Parallel Port Mode」で[EPP]を選択すると表示されます。 初期値 [1.9] のまま使用します。
	ECP Mode DMA Channel	「Parallel Port Mode」で[ECP]を選択すると表示されます。 初期値 [DMA3] のまま使用します。
	Parallel Port IRQ	パラレルポートが使用するIRQを設定します。 IRQ5, IRQ7
	HD Audio Azalia Device	マザーボード上のサウンド機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled : 使用します。 Disabled: 使用しません。
	Onboard LAN	マザーボード上のネットワーク機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled : 使用します。 Disabled: 使用しません。
	Onboard LAN Boot ROM	リモートブート機能の有効/無効を設定します。 Disabled : リモートブート機能を無効にします。 Enabled : リモートブート機能を有効にします。
USB Configuration USBコントローラーの設定をします。	* Module Version	BIOSに実装しているモジュールのバージョンを表示します。
	* USB Devices Enabled	接続されているUSB機器を表示します。
	USB Functions	初期値 [Enabled] のまま使用します。
	USB Mass Storage Device Configuration	外付けUSB機器を接続したり、オプションのマルチカードリーダーにメモリーカードをセットしたりすると表示されます。各機器の型番を表示します。初期値のまま使用します。

▶Powerメニュー画面

「Power」メニュー画面では、省電力機能や再起動に関する設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

___は初期値


*は項目表示のみ

Suspend Mode	スリープ状態の設定をします。スリープが正常に動作しない場合は、「S1 (POS) only」に設定してみてください。 S1 (POS) only : モニターなどの電源が切れます。電力消費は通常より若干抑えられる程度です。 <u>S3 only</u> : メモリー以外の電源を切ります。
ACPI 2.0 Support	初期値 [ACPI v1.0] のまま使用します。
ACPI APIC support	初期値 [Enabled] のまま使用します。

APM Configuration (起動方法の設定) 起動する方法や条件を設定します。	Restore on AC Power Loss	電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかどうかを設定します。 分電盤などによる複数のコンピューターの同時起動を行うと、コンピューターの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。 Power Off : 電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 Power On : 電源オフ時に、電源が供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピューターが起動します。 Last State : コンピューターの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断された後に電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピューターが起動します。コンピューターを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピューターは起動しません。
	Power On by PME#	電源切断時、ネットワークからの信号により、起動するかどうかを設定します。この機能は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Disabled : 設定しません。 Enabled : 設定します。設定状態で、電源コードを抜き再び接続するとコンピューターが一瞬起動することがありますが、不具合ではありません。
	Power On by RTC Timer	セットした日時に、自動的に起動するかどうかを設定します。 Disabled : 設定しません。 Enabled : 設定します。設定状態で、電源コードを抜き再び接続するとコンピューターが一瞬起動することがありますが、不具合ではありません。
	RTC Alarm Date (Days)	自動的に起動する日にちを設定します。「Every Day」(毎日)を設定することもできます。
	RTC Alarm Time	自動的に起動する時間(時:分:秒)を設定します。

▶ Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）やセキュリティーに関する設定を行います。

Bootの順番の変更方法については、 p.155 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」をご覧ください。

___は初期値

*は項目表示のみ

Boot Device Priority システムを起動するドライブの順番を設定します。  p.155 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」	1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。搭載、あるいは接続している機器によって、初期値は次のように表示されます。 1st FLOPPY DRIVE：オプションのFDD搭載時 USB機器の型番：USB FDDなどの外付けUSB機器接続時
	2nd Boot Device	2番目に起動するドライブを設定します。初期値は光ディスクドライブで、搭載している光ディスクドライブの型番が表示されます。
	3rd Boot Device	3番目に起動するドライブを設定します。初期値はHDDで、搭載しているHDDの型番が表示されます。
	4th Boot Device ※リモートブート機能を有効にすると表示されます。	ネットワークから起動する場合に使用します。 （リモートブート機能を有効にするには、「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」の「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」に設定し、再起動します。）
Hard Disk Drives	1st Drive 2nd Drive	HDDを2台装着した場合、HDDの型番を自動的に検出して表示します。初期値のまま使用します。
Removable Drives	1st Drive 2nd Drive	オプションのFDDや外付けの記憶装置（USB FDDなど）を接続したり、オプションのマルチカードリーダーにメモリーカードをセットしたりすると型番を自動的に検出して表示します。優先的に起動するデバイスを設定します。
CDROM Drives	1st Drive	搭載している光ディスクドライブの型番が表示されます。初期値のまま使用します。
Boot Settings Configuration システム起動時の設定をします。	Full Screen Logo	コンピューターの起動時に、EPSONロゴを表示するかどうかを設定します。 Disabled：ロゴを表示しません。 Enabled：ロゴを表示します。
	Bootup Num-Lock	起動時のNumLockの状態を設定します。 Off：NumLockが押されていない状態にします。 On：NumLockが押された状態にします。

Security システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティー」起動時などのパスワードを設定します。	*Supervisor Password/User Password	Supervisor Password (管理者パスワード) と User Password (ユーザーパスワード) が設定されているかどうかを表示します。 Installed : パスワードが設定されています。 Not Installed : パスワードが設定されていません。
	Change Supervisor Password	管理者パスワードの設定や変更を行います。設定を行うと、「BIOS Setupユーティリティー」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求されます。 <input type="button" value="↵"/> を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
	User Access Level ※管理者パスワードを設定すると表示されます。	「User Password」(ユーザーパスワード) で「BIOS Setupユーティリティー」にアクセスするときのアクセス制限レベルを4段階で設定します。 No Access : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setupユーティリティー」を起動することができません。 View Only : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setupユーティリティー」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited : 「BIOS Setupユーティリティー」を閲覧できるほか、ユーザーパスワードなど一部の設定項目を変更できます。 Full Access : ユーザーパスワード使用者に管理者と同一の権利を許可します。「BIOS Setupユーティリティー」のすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。ただし、管理者パスワードの変更はできません。
	Change User Password ※管理者パスワードを設定すると表示されます。	ユーザーパスワードの設定や変更を行います。「BIOS Setupユーティリティー」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。 <input type="button" value="↵"/> を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
	Clear User Password ※ユーザーパスワードを設定すると表示されます。	ユーザーパスワードを削除します。 <input type="button" value="↵"/> を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。
	Password Check ※管理者パスワードを設定すると表示されます。	管理者パスワード、ユーザーパスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup : 「BIOS Setupユーティリティー」起動時にパスワード入力を要求します。 Always : 「BIOS Setupユーティリティー」起動時、システム起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。

Security システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティー」起動時などのパスワードを設定します。	Trusted Computing	Execute TPM Command	セキュリティーチップ (TPM) を使用するかどうかを設定します。 <u>Disabled</u> : 使用しません。 Enabled : 使用します。
		Clearing the TPM	「Execute TPM Command」を「Enabled」にして保存、終了すると次のBIOS起動時に表示されます。 セキュリティーチップに保存されている情報を初期化します。 * 初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用できなくなります。また、Windows 7のHDD暗号化機能「BitLocker」を使用している状態で初期化を行うと、Windowsが起動できなくなり、暗号化しているHDD内のデータも使用できなくなります。セキュリティーチップの初期化を行う場合は、お客様の責任において十分に注意して行ってください。 初期化する場合は、 <input type="button" value="←"/> を押し、確認画面が表示されたら [Ok] を選択します。情報が初期化され、コンピューターが再起動します。再起動後、「Execute TPM Command」は「Disabled」に設定されます。
	Hard Disk Protection ※ 管理者パスワードを設定すると設定可能になります。	HDDへのアクセス制限の有効/無効を設定します。アクセス制限を有効に設定したHDDは、ほかのコンピューターに接続しても認識されなくなります。 有効に設定すると、BIOS、システムへのアクセスが制限され、BIOS起動時とシステム起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力を要求します。 <u>Disabled</u> : HDDへのアクセスを制限しません。 Enabled : HDDへのアクセスを制限します。	

▶ Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setupユーティリティーを終了したり、設定を初期値に戻したりします。設定項目は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容 (設定値) を保存してから、BIOS Setupユーティリティーを終了します。
Exit & Discard Changes	変更した内容 (設定値) を保存せずに、BIOS Setupユーティリティーを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティーを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Setup Defaults	「Boot」メニュー画面の「Security」項目以外の設定を、初期値に戻します。

▶ BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Advanced メニュー画面

項 目		購入時の設定			変更内容		
Onboard Devices Configuration	Serial Port2 Address	Disabled	3F8/IRQ4	2F8/IRQ3	Disabled	3F8/IRQ4	2F8/IRQ3
			3E8/IRQ4	2E8/IRQ3		3E8/IRQ4	2E8/IRQ3
	Parallel Port Address	Disabled			Disabled		
		378	278	3BC	378	278	3BC
	Parallel Port Mode	Normal	Bi-Directional		Normal	Bi-Directional	
		ECP	EPP		ECP	EPP	
	Parallel Port IRQ	IRQ5	IRQ7		IRQ5	IRQ7	
HD Audio Azalia Device	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled		
Onboard LAN	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled		
Onboard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled		

Power メニュー画面

項 目		購入時の設定			変更内容		
Suspend Mode		S1 (POS) only	S3 only		S1 (POS) only	S3 only	
APM Configuration	Restore on AC Power Loss	Power Off	Power On	Last State	Power Off	Power On	Last State
	Power On by PME#	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
	Power On by RTC Timer	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	

Boot メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容		
Boot Device Priority	1st Boot Device	Disabled	()	Disabled	()	
	2nd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()	
	3rd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()	
	4th Boot Device	Disabled	()	Disabled	()	
Boot Settings Configuration	Full Screen Logo	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled	
	Bootup Num-Lock	Off	On	Off	On	
Security	Supervisor password	Installed	Not Installed	Installed	Not Installed	
	User password	Installed	Not Installed	Installed	Not Installed	
	User Access Level ^{*1}	No Access Limited	View Only Full Access	No Access Limited	View Only Full Access	
	Password Check ^{*1}	Setup	Always	Setup	Always	
	Trusted Computing	Execute TPM Command	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Hard Disk Protection ^{*2}		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

*1 管理者パスワードを設定すると表示されます。

*2 管理者パスワードを設定すると設定可能になります。

第5章 ソフトウェアの 再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

「再インストールする前に必ずお読みください」	170
「ソフトウェアの再インストールを行う」	172

再インストールする前に必ずお読みください

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。

再インストールとは

本書では、HDDをフォーマットして、Windowsや本体ドライバーなどをインストールしなおす作業のことを、「再インストール」と記載します。

再インストールは「リカバリー」とも言います。


再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復しても問題が解決できない場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

Windowsを修復する

なんらかの原因でWindowsが起動しなくなった場合は、再インストールを行う前に「Windows回復環境」でWindowsの修復を行ってみてください。再インストールしなくても、問題が解決する場合があります。

 p.209 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

システムイメージの回復

事前にシステムイメージを保存しておいた場合は、Windowsやソフトウェアを、システムイメージ保存時の状態まで一度にリカバリーすることができます。

※再インストールと同様、保存されているデータは消去されます。事前にバックアップを行ってください。

システムイメージの回復については、次の場所をご覧ください。

「PCお役立ちナビ」－「トラブル解決」－「Windowsの操作」－「バックアップ」－「システムイメージの作成を使ってバックアップを行う方法」

▶重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外のBIOSへのアップデート禁止

当社製以外のBIOSへのアップデートは絶対にしないでください。当社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

Webフィルタリングソフトウェアの継続利用

本機に添付のWebフィルタリングソフトウェア「i-フィルター 30日版」で継続利用手続きを行っている場合、Windowsを再インストールすると利用期限が30日に設定されてしまいます。

この場合は、デジタルアーツ社のホームページから最新版を入手し、契約済みのシリアルIDを利用してインストールを行ってください。

詳細は、デジタルアーツ社にお問い合わせください。

<http://www.daj.jp/cs/support.htm>


最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業を進めてください。

PCお役立ちナビのバックアップ

サポートツール「PCお役立ちナビ」に収録されているコンテンツ類やマニュアルデータ（PDF）は、再インストールをすると消えてしまいます。

再インストールの前に、必ずバックアップをとってください。

 p.217 「PCお役立ちナビのデータをバックアップする」

ソフトウェアの再インストールを行う


ここでは、ソフトウェアの再インストール方法について記載しています。

▶必要なメディア

再インストールには、次のメディアが必要です。

- Windows 7リカバリー DVD
Windows 7が収録されているDVD-ROMです。
- リカバリーツールCD
本体ドライバーやソフトウェアを、HDDの「消去禁止領域」からインストールするためのプログラムが収録されているCD-ROMです。
- そのほか必要なメディア
お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

本体ドライバーやソフトウェアはHDDの消去禁止領域に収録されています。専用のメディアは添付されていません。

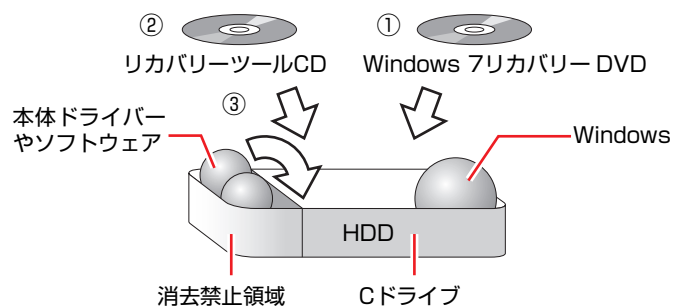
 p.22 「添付されているソフトウェア」

光ディスクドライブを装着していないモデルをお使いの場合

光ディスクドライブを装着していないモデルでソフトウェアを再インストールするには、外付けの光ディスクドライブが必要です。

▶再インストールの概要


ソフトウェアの再インストールの概要は、次のとおりです。



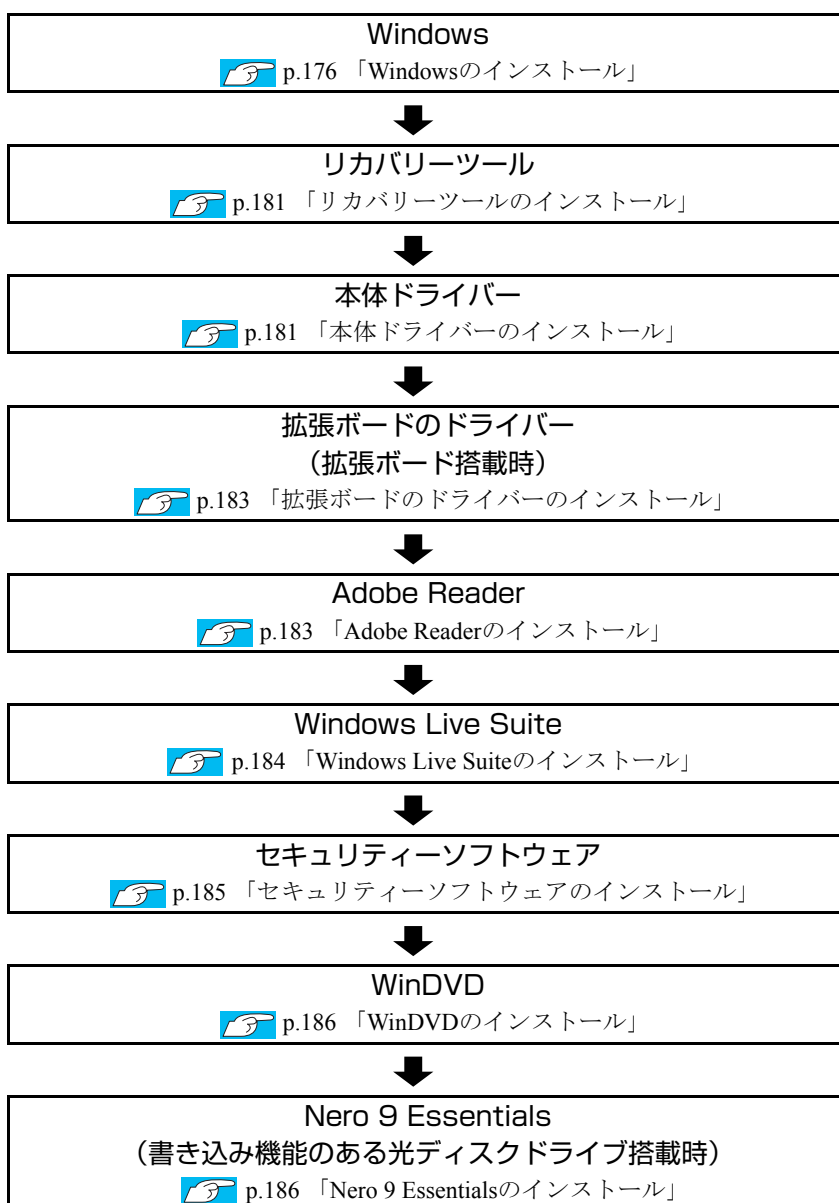
- ① Windows 7リカバリー DVDから、Windowsをインストールします。
- ② リカバリーツールCDから、リカバリーツールをインストールします。
HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアのインストールは、リカバリーツールを使用して行います。
- ③ リカバリーツールを使用して、本体ドライバーやソフトウェアをインストールします。

▶インストールの順番

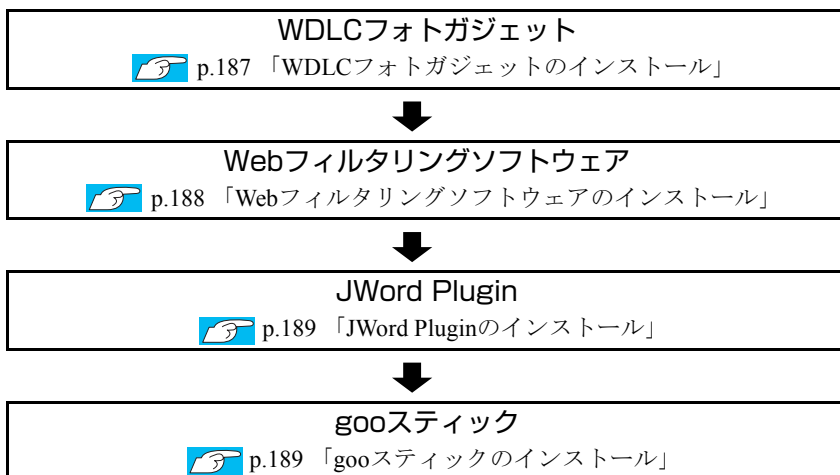
再インストールは、次の順番で行います。

購入時のインストール状態は、 p.22 「添付されているソフトウェア」で確認してください。

必ずインストールするソフトウェア



必要に応じてインストールするソフトウェア



▶インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点を確認してください。

管理者 (Administrator) のアカウントでログオン

インストール作業は、管理者 (Administrator) のアカウントでログオンして行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。


ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。実際の光ディスクドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ : FDD (オプション)
Cドライブ : HDD
Dドライブ : 光ディスクドライブ

各種設定やデータのバックアップ

再インストールを行うと、設定した事項が初期値に戻ってしまったり、データが消去されたりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。


 p.177 「バックアップを取る」

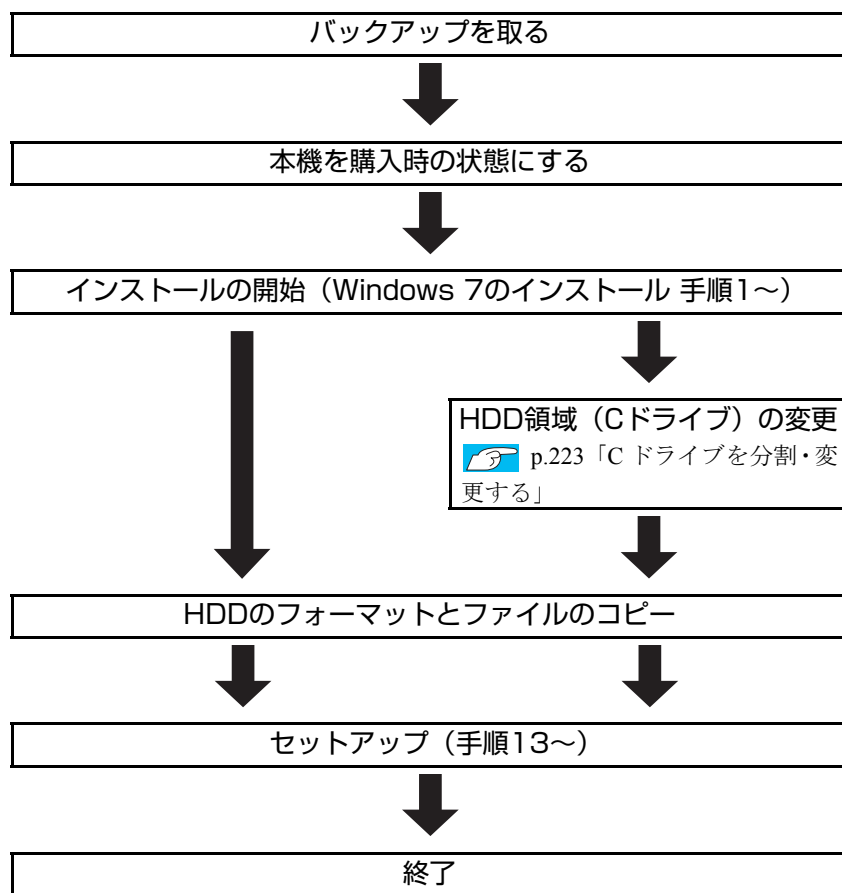
初期設定ツール

初期設定ツールは、Windowsを再インストールすると消去されます。初期設定ツールでインストールしたソフトウェアは、以降で説明する手順に従ってインストールしてください。

▶Windowsのインストール


インストールの流れ

Windowsのインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、 p.178 「Windows 7のインストール」以降の手順に従って行ってください。



HDD領域 (Cドライブ) を変更するには

Windowsのインストール中にCドライブ (Windowsがインストールされている領域) のサイズを変更したり、分割したりすることができます。


HDD領域の変更や、分割の詳細な説明は、 p.222 「HDD領域 (ドライブ) の分割・変更・作成」をご覧ください。

▶Windows 7をインストールする

バックアップを取る

Cドライブの設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消えてしまいます。再インストールの前に、次の設定やデータのバックアップを行ってください。*


- PCお役立ちナビのデータ

 p.217 「PCお役立ちナビのデータをバックアップする」

- ネットワークの設定

接続に関する設定を書き写しておいてください。

- Internet Explorerの「お気に入り」、Windows Liveメールの「アドレス帳」やメールデータ

 p.218 「データのバックアップ方法」

このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。


- セキュリティチップユーティリティの設定

セキュリティチップユーティリティを使用している場合は、設定のバックアップを行ってください。

「PCお役立ちナビ」－「マニュアルびゅうわ」－「セキュリティ機能(TPM) 設定ガイド」－「Windowsを再インストールする前に」

- 重要なデータ

ほかのメディアなどにコピーしておいてください。HDD領域の変更を行わない場合でも、Cドライブ以外のドライブ(HDD領域)のデータをバックアップすることをおすすめします。

 p.218 「データのバックアップ方法」

*再インストール中にHDD領域の変更を行うと、Cドライブ以外のドライブ(DやEなど)のデータも消えてしまいますので、バックアップを行ってください。HDD領域の変更を行わない場合でも、念のためバックアップすることをおすすめします。

コンピューターを購入時の状態にする


周辺機器が接続されていたり、BIOSの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。本機を購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

Windows 7のインストール


Windows 7のインストール方法は、次のとおりです。

- 1 HDDを2台装着している場合は、本機の電源を切り、2台目のHDDを取り外します。**

Windowsの再インストール中に、HDDの順番が異なって表示されることによるデータの誤消去を防ぐため、2台目のHDDの周辺機器用電源ケーブルとシリアルATAケーブルを取り外しておきます。

 p.141 「取り外し」手順1
- 2 本機の電源を入れて、Windowsが起動するか確認します。**

接続されているHDDが、これからWindowsを再インストールするHDDであるかを確認します。
- 3 「Windows 7リカバリー DVD」を光ディスクドライブにセットします。**

「自動再生」画面が表示されたら、 をクリックし、画面を閉じてください。ここからはインストールを行いません。
- 4 [スタート] - [D] - 「再起動」をクリックして、本機を再起動します。**
- 5 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。**

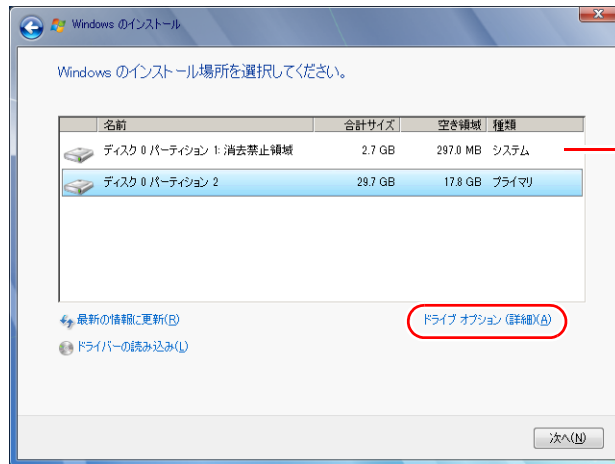
一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。Windowsが起動してしまった場合は、手順4へ戻ります。
- 6 「システム回復オプション」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。**
- 7 オペレーティングシステムの一覧画面が表示されたら、「Windows の起動に伴う…」を選択し、[次へ] をクリックします。**
- 8 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、「Windowsの再インストール」をクリックします。**
- 9 「インストールを開始しますか？」と表示されたら、[はい] をクリックします。**
- 10 「インストールするオペレーティングシステムを選択してください」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**
- 11 「ライセンス条項をお読みください。」と表示されたら、内容を確認し、「同意します」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。**

12 「Windowsのインストール場所を選択してください。」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。

※「消去禁止領域」には、ドライバーやソフトウェアの再インストール用データが収録されています。絶対に削除しないでください。

<領域変更を行わない場合（通常）>

(1) 「ドライブオプション（詳細）」をクリックします。



「消去禁止領域」は削除しないでください

<イメージ>


(2) 「ディスク0パーティション2」(Cドライブ) が選択された状態で「フォーマット」をクリックします。

(3) 「パーティションには…」と表示されたら、[OK] をクリックします。フォーマットが開始されます。

(4) フォーマットが終了すると、[次へ] がクリックできる状態になります。「ディスク0パーティション2」(Cドライブ) が選択された状態で [次へ] をクリックします。

Windowsのインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは20分～40分かかります。手順13の画面が表示されるまでキーボードやマウスは操作しないでください。

<領域変更を行う場合>

 p.225 「Cドライブを分割・変更する」の手順に従ってください。

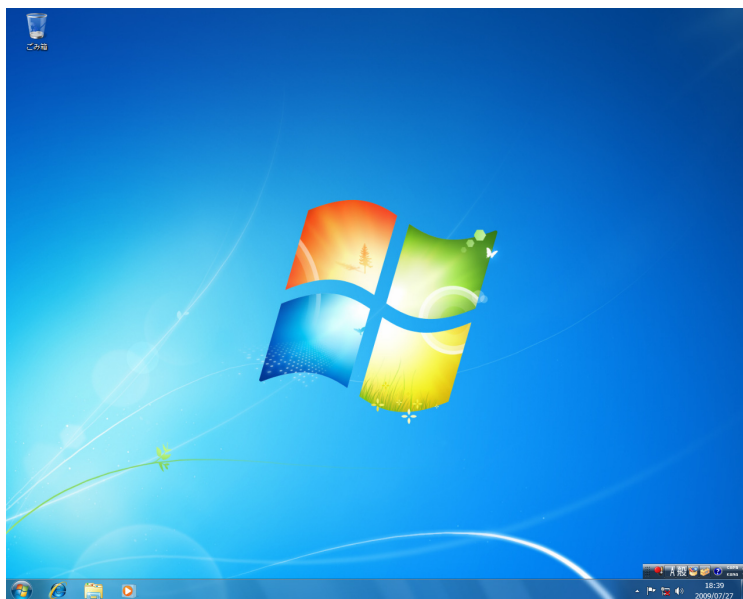
13 「新しいアカウントのユーザー名と…」と表示されたら、ユーザー名、コンピューター名を入力し、[次へ] をクリックします。

14 「ユーザーアカウントのパスワードを設定します」と表示されたら、パスワード（任意）を入力し、[次へ] をクリックします。


15 「コンピューターの保護と…」と表示されたら、更新の設定をクリックして選択します。

「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。

- 16** 「日付と時刻の設定を確認します」と表示されたら、「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定し、「次へ」をクリックします。
- 17** ネットワークに接続している場合、「お使いのコンピューターの現在の場所を選択してください」と表示されます。場所をクリックして選択します。
- 18** Windowsのデスクトップ（下記の画面）が表示されたら、「Windows 7リカバリー DVD」を取り出します。



これでWindowsのインストールは完了です。

- 19** 手順12で領域変更を行った場合は、「未割り当て領域」に領域（パーティション）を作成します。
領域（パーティション）の作成は、ドライバーやソフトウェアのインストールが終了してから行ってもかまいません。
 p.226 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」
- 20** 手順1で2台目のHDDの周辺機器用電源ケーブルとシリアルATAケーブルを取り外した場合は、再度取り付けます。

▶リカバリーツールのインストール

リカバリーツールは、HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアのインストールの際に使用します。

リカバリーツールのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリーツールCD」を光ディスクドライブにセットします。
- 2 「自動再生」画面が表示されたら、「setup.exeの実行」をダブルクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピューター」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 4 以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。
インストールが完了すると、デスクトップ上に「リカバリーツール」アイコンが表示されます。



<リカバリーツールアイコン>

- 5 「リカバリーツールCD」を光ディスクドライブから取り出します。

▶本体ドライバーのインストール

本機のマザーボード上に搭載されているデバイスのドライバー類を、一括してインストールします。

インストール手順は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧画面が表示されたら、一覧から「本体ドライバー」を選択して【インストール】をクリックします。
手順5の画面が表示されるまでには、数分かかります。



<イメージ>

- 5** 「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、一覧から【インストール】をクリックします。
- 6** 「インストール確認」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり【OK】をクリックします。
各ドライバーが自動的にインストールされます。
インストールには約10分かかります。
- 7** 「インストールが完了しました。」と表示されたら、【OK】をクリックします。
- 8** 「インストール処理」画面が表示されたら、ドライバーのインストール状態を確認し、【PC再起動】をクリックします。
ドライバーによっては、Windowsの再起動後にインストールされるものもあります。Windowsが再起動したら、本体ドライバーのインストールは完了です。



参考

リカバリーツールの【ファイル削除】の表示について
リカバリーツールからインストールを行う際、ソフトウェアによっては一時的にHDDにインストール用データをコピーします。「リカバリーツール」画面で【ファイル削除】が黒字で表示されるときは、コピーされた不要なインストール用データがHDDに残っています。【ファイル削除】をクリックしてデータを削除すると、HDDの容量を節約することができます。

▶ 拡張ボードのドライバーのインストール

＜拡張ボード搭載時＞

FAXモデムボードなどの拡張ボードをお使いの場合は、拡張ボードのドライバーをインストールします。

インストールは、拡張ボードに添付のディスクを使用して行います。インストール方法は、拡張ボードのマニュアルをご覧ください。

▶ Adobe Readerのインストール

「Adobe Reader」は、PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。

インストール

Adobe Readerのインストール手順は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3** 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧画面が表示されたら、「Adobe Reader」を選択し [インストール] をクリックします。
- 5** 「インストール先のフォルダ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6** 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 7** 「セットアップ完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。

これで、Adobe Readerのインストールは完了です。

続いて、Adobe Readerのセットアップを行います。

セットアップ


Adobe Readerのセットアップ手順は次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「Adobe Reader」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「使用許諾契約書」が表示されたら、「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。
同意する場合は、「同意する」をクリックします。「同意しない」を選択すると、Adobe Readerは使用できません。
これで、Adobe Readerのセットアップは完了です。

▶Windows Live Suiteのインストール

「Windows Live Suite」は、「Windows Liveメール」など、複数のソフトウェアを含むパッケージです。

Windows Live Suiteのインストール手順は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、「はい」をクリックします。
- 3** 「リカバリーツール」画面が表示されたら、「インストール」をクリックします。
- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧画面が表示されたら、一覧から「アプリケーションCD」を選択して、「インストール」をクリックします。
- 5** 「アプリケーションのインストール」画面が表示されたら、一覧から「Windows Live Suite」をクリックします。
- 6** 「サービス利用規約」と表示されたら、「同意する」をクリックします。
- 7** 「インストールする製品を選択してください」と表示されたら、インストールしたい製品にチェックを付けて、「インストール」をクリックします。
購入時にインストールされている製品は、 p.53「Windows Live Suite」に記載しています。
- 8** 「もう少しで完了です」と表示されたら、「続行」をクリックします。
- 9** 「Windows Liveへようこそ!」と表示されたら、「閉じる」をクリックします。
これで、Windows Live Suiteのインストールは完了です。

▶セキュリティソフトウェアのインストール

本機に添付のセキュリティソフトウェア「マカフィー・PCセキュリティセンター 90日期間限定版」をインストールします。

市販のセキュリティソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアのマニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

マカフィー・PCセキュリティセンター 90日期間限定版のインストール

マカフィー・PCセキュリティセンター 90日期間限定版のインストール方法は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3** 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧画面が表示されたら、一覧から「アプリケーションCD」を選択して、[インストール] をクリックします。
- 5** 「アプリケーションのインストール」画面が表示されたら、一覧から「McAfee PC Security Center 90日版」をクリックします。
- 6** マカフィーのインストール画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶WinDVDのインストール

「WinDVD」は、DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。
WinDVDのインストール手順は次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3** 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧画面が表示されたら、一覧から「InterVideo WinDVD …」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5** 「InstallShield Wizard」画面が表示された場合は、WinDVD のインストールに必要なアプリケーションをインストールします。
- 6** 「WinDVD セットアップへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶Nero 9 Essentialsのインストール

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

「Nero 9 Essentials」は、光ディスクドライブで書き込みを行うためのソフトウェアです。

Nero 9 Essentialsのインストール手順は次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3** 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧画面が表示されたら、一覧から「Nero 9 Essentials」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5** 「Nero Multi Installer」画面が表示されたら、[Nero 9 Essentials] をクリックします。
- 6** 「Nero 9 Essentialsのインストールへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶WDLCフォトガジェットのインストール

「WDLCフォトガジェット」は、デスクトップ上で写真を閲覧・管理するためのソフトウェアです。

WDLCフォトガジェットのインストール手順は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3** 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧画面が表示されたら、一覧から「アプリケーションCD」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5** 「アプリケーションのインストール」画面が表示されたら、「WDLCフォトガジェット」をクリックします。

これでWDLCフォトガジェットのインストールは完了です。

▶Webフィルタリングソフトウェアのインストール

本機に添付の「i-フィルター 30日版」をインストールします。i-フィルター 30日版は、有害サイトをブロックするためのWebフィルタリングソフトウェアです。

市販のWebフィルタリングソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

i-フィルター 30日版のインストール

i-フィルター 30日版のインストール手順は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3** 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧画面が表示されたら、「i-フィルター 30日版」を選択し [インストール] をクリックします。
- 5** 「i-フィルター…インストール」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6** 「使用許諾契約」と表示されたら、「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択して、[次へ] をクリックします。
- 7** 「セットアップタイプ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 8** 「インストール準備の完了」と表示されたら、[インストール] をクリックします。

デスクトップ上に「i-フィルター」アイコンが表示されたら、i-フィルター 30日版のインストールは完了です。

続いて、i-フィルター 30日版のユーザー登録を行います。

i-フィルター 30日版のユーザー登録

i-フィルター 30日版を使用するには、ユーザー登録が必要です。

ユーザー登録はインターネット接続後に行います。

ユーザー登録の方法は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「i-フィルター」アイコンをダブルクリックします。
Windowsを再起動した場合は、「i-フィルター…」画面が自動的に表示されます。

- 2 「i-フィルター…」画面が表示されたら、使用許諾契約書の内容をよくお読みになり、「[i-フィルター] を使ってみる」をクリックします。
- 3 「[i-フィルター] の開始」と表示されたら、画面の指示に従ってユーザー登録を行ってください。

▶JWord Pluginのインストール

「JWord Plugin」は、Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。

JWord Pluginのインストール手順は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、「はい」をクリックします。
- 3 「リカバリーツール」画面が表示されたら、「インストール」をクリックします。
- 4 本体ドライバーやソフトウェアの一覧画面が表示されたら、一覧から「JWord Plugin」を選択して「インストール」をクリックします。
- 5 「JWordプラグイン…へようこそ」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶gooスティックのインストール

「gooスティック」は、Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。

gooスティックのインストール手順は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、「はい」をクリックします。
- 3 「リカバリーツール」画面が表示されたら、「インストール」をクリックします。
- 4 本体ドライバーやソフトウェアの一覧画面が表示されたら、一覧から「gooスティック」を選択して「インストール」をクリックします。
- 5 「インストールが完了しました。」と表示されたら、「OK」をクリックします。これで、gooスティックのインストールは完了です。

▶そのほかのインストール

必要に応じて次のインストールを行ってください。

各種ドライバーのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバーやユーティリティ、ソフトウェアなどのインストールが必要です。インストールは、オプション機器類に添付されているメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション機器類のマニュアルをご覧ください。



インストールが必要なドライバーの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバーやユーティリティが必要になります。

- USB対応機器を使用する場合 : USB機器に添付のドライバー
- プリンターを使用する場合 : プリンターに添付のドライバー

キーボードユーティリティのインストール

キーボードのユーティリティCDが添付されている場合は、ユーティリティをインストールします。

そのほかのソフトウェアのインストール

「Office」など、そのほかに使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法はソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

▶再インストール後の作業

再インストールが完了したら、必要に応じて次の作業を行ってください。

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、「未割り当て領域」はそのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。




p.227 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

ネットワークの設定

再インストールの前に書き写しておいた設定を元に、ネットワークの設定を行います。

バックアップしたデータの復元

再インストールの前にバックアップしたデータを復元します。

 p.218 「データのバックアップ方法」

- PCお役立ちナビのデータ
- Internet Explorer、Windows Liveメールの設定
- 重要なデータ

バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

Windows Update

Windowsの再インストールを行うと、今までに行った「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。

自動更新の設定がされていると、更新プログラムが自動的にダウンロード、インストールされ、Windowsが最新の状態になります。

 p.105 「Windows Update」

第6章 困ったときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

「トラブルが発生したら」	194
「起動・画面表示できないときは」	196
「トラブル時に効果的な対処方法」	203

トラブルが発生したら

困ったとき、トラブルが発生したときは、次のように対処方法を探してください。

▶起動・画面表示できる場合…PCお役立ちナビで調べる

コンピューターを起動、画面表示できる場合は、「PCお役立ちナビ」の[トラブル解決]で対処方法を探してください。

ダブルクリック

<PC お役立ちナビアイコン>

トラブルの
種類を選択
します

候補の中から見たい
項目を選択すると、
内容が表示されます

The image shows a sequence of steps to access the PC Support Navigator. It starts with a double-click on the PC Support Navigator icon. The next screenshot shows the main interface with the 'トラブル解決' (Troubleshooting) button highlighted. A final screenshot shows the 'トラブル解決' page with the 'コンピュータ本体' (Computer Hardware) category selected in the left sidebar. The main content area displays information about 'コンピュータの管理者と制限付きアカウント' (Computer Administrators and Limited Accounts).

Windowsのトラブルシューティングツール


Windows 7にはトラブルシューティングツールを集めたコーナーが用意されています。

【スタート】－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ」－「コンピューターの一般的な問題のトラブルシューティング」



トラブルシューティングツールの一覧が表示されたら、トラブルに応じたツールをクリックして、トラブルシューティングを行ってみてください。


▶ 起動・画面表示できない場合

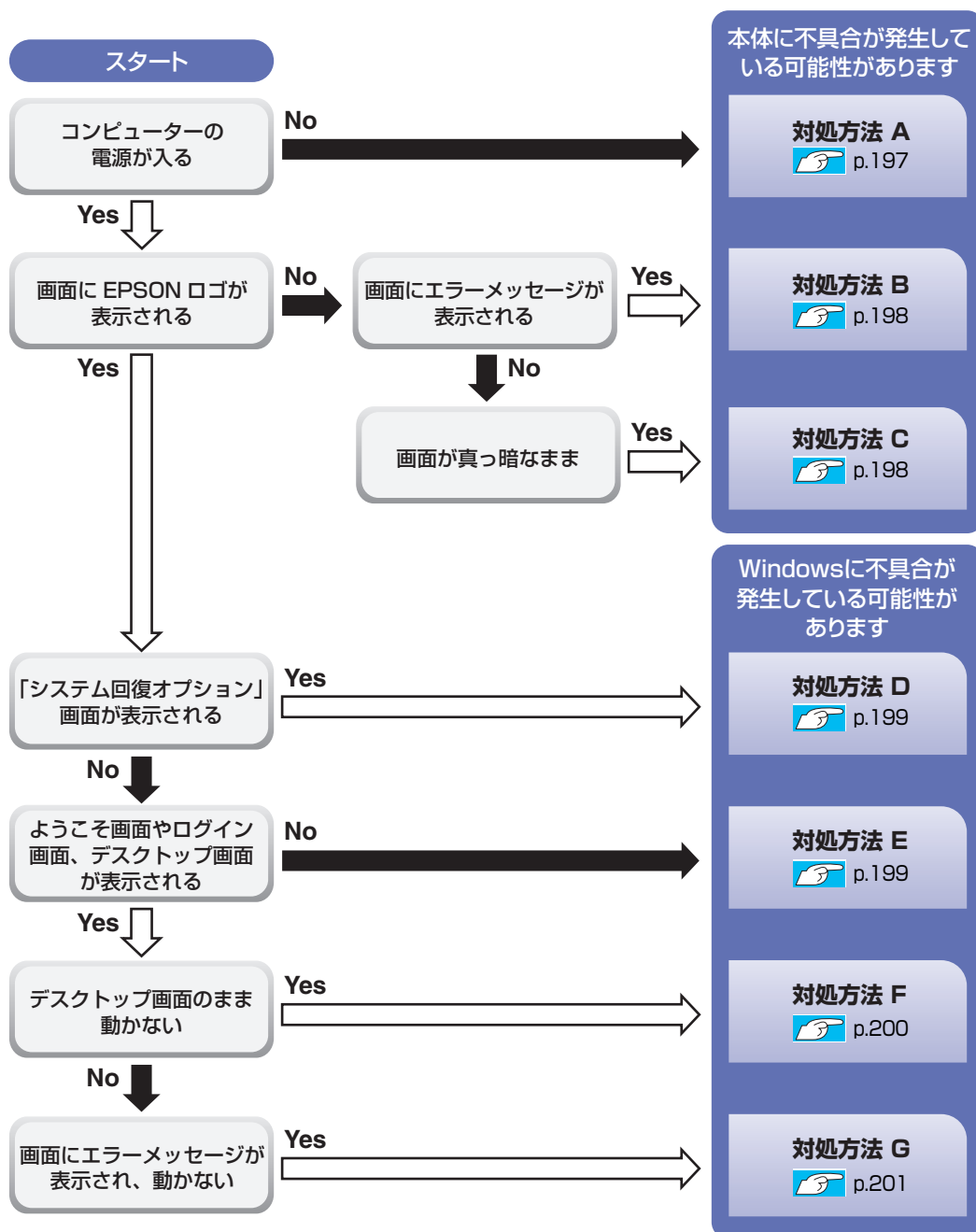
コンピューターを起動、画面表示できない場合は、 p.196 「起動・画面表示できないときは」をご覧ください。

起動・画面表示できないときは

コンピューターを起動、画面表示できない場合は、診断を行い、各診断結果に応じた対処を行ってください。

▶ 診断をする

次の診断を行ってください。対処方法が決まったら、 p.197 「対処をする」へ進んでください。



▶対処をする

コンピューターを起動、画面表示できないときの対処方法は、次のとおりです。対処を行っても不具合が解消しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください、サポート窓口までお問い合わせください。

対処方法 A

次の対処を順番に行ってみてください。

1 コンピューター本体の電源を入れなおす

電源を入れなおす場合は、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

2 コンピューター本体の電源コードを接続しなおす

コンピューターへの電源供給に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、コンピューター本体の電源コードを接続しなおし、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

3 壁のコンセントに直接接続する

電源タップなどにコンピューターの電源コードを接続している場合は、電源タップなどを使用せず、壁にあるコンセントに直接コンピューターの電源コードを接続して、電源を入れてみてください。

4 消費電力の大きい機器を停止する

大画面テレビやエアコンなど、消費電力の大きい機器を使用している場合、それらの機器の電源を切ってから、コンピューターの電源を入れてみてください。

5 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

6 電源保護回路を解除する


過電流によってコンピューターが不安定になっている可能性があります。周辺機器や増設機器類（キーボード、マウス、ディスプレイを含む）を外して電源コードを抜いたあと、1分程度放置し、問題が解決されるかどうか確認してください。

7 CMOS RAMの初期化を行う

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.206 「CMOS RAMの初期化」

対処方法 B

まず、 p.202 「エラーメッセージ一覧」をご覧ください。エラーメッセージに応じた対処を行ってください。あてはまるメッセージがない場合は、次の対処を順番に行ってみてください。

1 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

2 CMOS RAMの初期化を行う

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.206 「CMOS RAMの初期化」

対処方法 C

次の対処を順番に行ってみてください。

1 ディスプレイの電源ランプを確認する

ディスプレイの取扱説明書をご覧ください。ディスプレイの電源ランプが通常動作時の状態になっているかどうか確認してください。

2 ディスプレイケーブルを接続しなおす

コンピューター本体とディスプレイの接続に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、ディスプレイケーブルを接続しなおし、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決するかどうか確認してください。

3 別のディスプレイを接続する

ディスプレイとコンピューター、どちらの問題かを切り分けるため、別のディスプレイをお持ちの場合は、コンピューターを接続し、画面が表示されるか確認してください。

4 コンピューター本体の電源コードを接続しなおす

コンピューターへの電源供給に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、コンピューター本体の電源コードを接続しなおし、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

5 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

6 電源保護回路を解除する

過電流によってコンピューターが不安定になっている可能性があります。周辺機器や増設機器類（キーボード、マウス、ディスプレイを含む）を外して電源コードを抜いたあと、1分程度放置し、問題が解決されるかどうか確認してください。

7 CMOS RAMの初期化を行う

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。



p.206 「CMOS RAMの初期化」

対処方法 D

次の対処を行ってみてください。

1 Windows 回復環境 (Windows RE) で不具合対処をする

p.210 「システム回復オプション」画面が表示されたら」

対処方法 E

次の対処を順番に行ってみてください。

1 コンピューター本体の電源を入れなおす

電源を入れなおす場合は、20 秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20 秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

2 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

3 セーフモードで起動し、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。



p.204 「セーフモードでの起動」


セーフモードで起動できた場合は、「システムの復元」機能を使用して以前のコンピューターの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。システムの復元を行ってみてください。



p.204 「システムの復元」


4 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

 p.205 「前回正常起動時の構成で起動する」

5 BIOS の設定を初期値に戻す

BIOS の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOS の設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前に BIOS の設定をメモしておいてください。

 p.150 「設定値を元に戻す」


6 CMOS RAM の初期化を行う

CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.206 「CMOS RAMの初期化」

7 Windows RE を使う


「Windows 回復環境 (Windows RE)」の回復ツールを使用して、Windows を修復してみてください。

 p.209 「Windows回復環境 (Windows RE) を使う」

8 Windows を再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。

Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.169 「ソフトウェアの再インストール」

対処方法 F

次の対処を順番に行ってみてください。

1 コンピューター本体の電源を入れなおす


電源を入れなおす場合は、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

2 周辺機器や増設した装置を取り外す


本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

3 セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

 p.204 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼動中、常に稼動しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。


 p.204 「常駐ソフトの停止」

常駐ソフトが原因ではなかった場合は、「システムの復元」を行ってみてください。以前のコンピューターの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。

 p.204 「システムの復元」

4 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

 p.205 「前回正常起動時の構成で起動する」


5 CMOS RAMの初期化を行う

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.206 「CMOS RAMの初期化」


6 Windows REを使う

「Windows回復環境（Windows RE）」の回復ツールを使用して、Windowsを修復してみてください。

 p.209 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

7 Windows を再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.172 「ソフトウェアの再インストールを行う」

対処方法 G

次の対処を順番に行ってみてください。

1 コンピューター本体の電源を入れなおす

電源を入れなおす場合は、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

2 セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

p.204 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼動中、常に稼動しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。

p.204 「常駐ソフトの停止」

常駐ソフトが原因ではなかった場合は、「システムの復元」を行ってみてください。以前のコンピューターの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。

p.204 「システムの復元」

3 Windows REを使う

「Windows回復環境（Windows RE）」の回復ツールを使用して、Windowsを修復してみてください。

p.209 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

4 Windowsを再インストールする

HDD内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.172 「ソフトウェアの再インストールを行う」

▶ エラーメッセージ一覧


本機は、起動時に自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次のメッセージが表示された場合には、対処を行ってください。

対処を行ってもなおらない場合には、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明および対処法
Reboot and Select proper Boot Device or Insert Boot Media in Selected Boot device and press a key	HDDが検出できません。本機の電源を切り、20秒以上待ってから電源を入れてください。
CPU Over Temperature Error!	CPUが高温になっています。本機の電源を切り、本機内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。
CPU Fan Error!	CPUファンが正常に動作していません。本機の電源を切り、20秒以上待ってから電源を入れてください。
CPU Over Voltage Error!	CPUの電源電圧が異常です。本機の電源を切り、本機内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。

トラブル時に効果的な対処方法

トラブル時に効果的な対処方法を紹介します。

機能	こんなときに
セーフモードで起動  p.204 必要最低限の状態でのWindowsを起動します。	<ul style="list-style-type: none">● Windowsが正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき
常駐ソフトの停止  p.204 不具合のある常駐ソフトを停止します。	<ul style="list-style-type: none">● Windowsが正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードで起動できたとき）
システムの復元  p.204 Windowsを以前に作成した復元ポイントの状態に戻します。	<ul style="list-style-type: none">● Windowsが正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードで起動できたとき）
前回正常起動時の構成で起動  p.205 Windowsを前回正常起動できた状態に戻します。	<ul style="list-style-type: none">● Windowsが正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードでも起動できないとき）
BIOSの初期化  p.150 BIOSの設定を初期値に戻します。	<ul style="list-style-type: none">● BIOSの設定を誤って本機が起動しなくなったとき、動作が不安定になったとき
CMOS RAMの初期化  p.206	<ul style="list-style-type: none">● BIOSの設定を誤って本機が起動しなくなったとき● BIOSのパスワードを忘れてしまったとき
Windows回復環境 (Windows RE)  p.209 Windowsを修復します。	<ul style="list-style-type: none">● 「システム回復オプション」画面が表示されたとき● Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき
ソフトウェアの再インストール  p.172 本機を購入時の状態に戻します。	<ul style="list-style-type: none">● Windowsが正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（上記項目の対処をしても起動できないとき）● HDDの領域を分割したいとき
システム診断ツール  p.212 ハードウェアに不具合があるかどうかを診断します。	<ul style="list-style-type: none">● 不具合の原因がハードウェアにあるかどうかを調べたいとき

▶セーフモードでの起動

本機を正常に起動できない場合は、セーフモードで起動してみてください。
セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1 コンピューターの電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。
- 2 「EPSON」と表示され、消えた直後に **[F8]** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
- 3 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、**[↑]** または **[↓]** を押して、「セーフモード」を選択し、**[↵]** を押します。
セーフモードで起動できた場合は、不具合への対処を行ってください。

▶常駐ソフトの停止

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム移動中、常に移動しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。

常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「検索ボックス」に「msconfig」と入力して、**[↵]** を押します。
- 2 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目（常駐ソフト）のチェックを外し、[OK] をクリックします。
- 3 「再起動が必要な場合があります」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。
常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

▶システムの復元

コンピューターの動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行ってWindowsを以前の状態（復元ポイントが作成された時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。

復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されます。

システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「システムの復元」を選択します。

- 2** 「システムの復元」画面に「推奨される復元」か「別の復元ポイントを選択する」の選択肢が表示された場合は、「推奨される復元」を選択します。
復元ポイントを自分で指定したい場合は、「別の復元ポイントを選択する」を選択します。
- 3** [次へ]をクリックします。
- 4** 復元ポイントの一覧が表示された場合は、復元ポイントを選択し、[次へ]をクリックします。
- 5** 「復元ポイントの確認」と表示されたら、内容を確認し、[完了]をクリックします。
- 6** 「いったんシステムの復元を開始したら…」と表示されたら、[はい]をクリックします。
コンピューターが再起動します。
- 7** 再起動後、「システムの復元は正常に完了しました。…」と表示されたら、[閉じる]をクリックします。
これでシステムの復元は完了です。

▶ 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

- 1** シャットダウン状態からコンピューターの電源を入れます。
- 2** 「EPSON」と表示され、消えた直後に **F8** を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。
- 3** 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、**↑** または **↓** を押し、**←** を押します。

▶ CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。BIOS Setupユーティリティで設定したパスワードを忘れていたり、BIOSの設定を誤ったりして本機が起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になります。





- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



- CMOS RAMの初期化は、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。




- CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報は初期値に戻ります。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。
 p.166 「BIOSの設定値」
- BIOSで管理者パスワードを設定し、HDDのアクセスを制限していた場合、CMOS RAMの初期化を行っても、HDDへのアクセス制限を解除することはできません。HDDへのアクセス制限を設定したHDDは、管理者パスワードを忘れると使用できなくなります。
 p.154 「HDDアクセス制限」


CMOS RAMの初期化の手順は、次のとおりです。

- 1** コンピューター本体および接続している周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピューター本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。


3 本体カバーを取り外します。

 p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り外し」

4 拡張ボードを装着している場合は、リンクバーを取り外します。

 p.132 「拡張ボードの取り付け・取り外し」－「取り付け」手順4

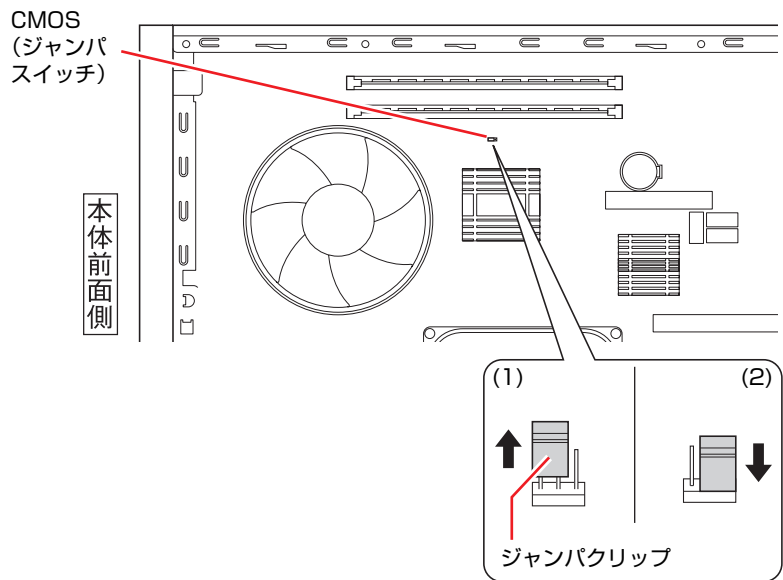
5 リチウム電池を取り外します。

 p.231 「リチウム電池の交換」手順7

6 マザーボード上のジャンプスイッチ（CMOS）で、ジャンパクリップの位置を変更します。


ジャンパクリップを抜き差しする際は、マザーボードにキズを付けないように注意してください。

- (1) 下の図のように本体を置いたときに、左寄りの2本のピンにジャンパクリップが差し込まれています。このジャンパクリップを抜き取ります。
 (2) ジャンパクリップを下の図の右寄りの2本のピンに差し込みます。


**7** そのまま5秒以上、放置します。**8** ジャンパクリップの位置を元に戻します。




ジャンパクリップを上図の左寄りの2本のピンに差し込みなおします。

9 リチウム電池を取り付けます。

 p.231 「リチウム電池の交換」手順8

10 手順4でリンクバーを取り外した場合は、もとどおりに取り付けます。

 p.132 「拡張ボードの取り付け・取り外し」－「取り付け」手順8

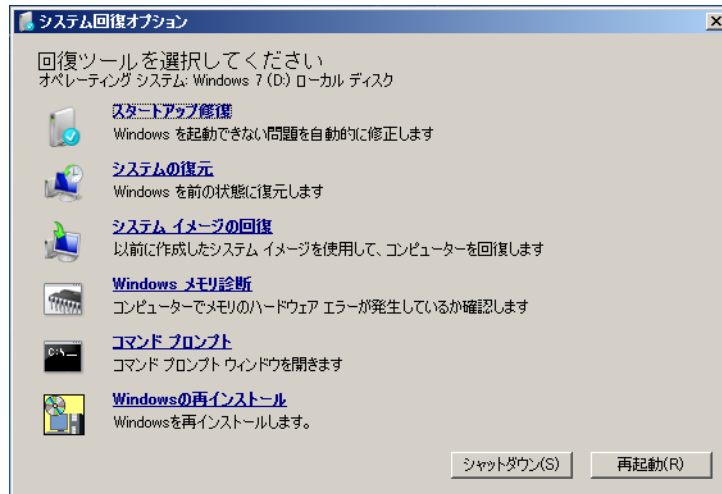
- 11** 本体カバーを取り付けます。
 p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り付け」
- 12** コンピューターの電源を入れます。
- 13** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「CMOS Setting Wrong」と表示されたら、**F1** を押して、BIOS Setupユーティリティを実行します。
 p.145 「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 14** 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行します。
 p.150 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」
- 15** 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。
- 16** 「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」で **[Ok]** を選択してBIOS Setupユーティリティを終了します。

▶ Windows回復環境 (Windows RE) を使う

本機のHDDとWindows 7リカバリーDVD内には、「Windows 回復環境 (Windows RE)」が設定されています。Windowsに不具合が起きると、HDD内のWindows REが自動的に起動し、不具合に対処することができます。

Windows RE の項目

Windows REには、次の項目があります。




<イメージ>

- スタートアップ修復

Windowsを起動できない問題を自動的に修正します。Windowsが起動できないときは、まずスタートアップ修復を行ってみてください。問題が解決しない場合は、「システムイメージの回復」を行ってください。

- システムの復元

コンピューターの状態を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻します。Windowsの動作が不安定な場合に行ってみてください。

 p.204 「システムの復元」

問題が解決しない場合は、「システムイメージの回復」を行ってください。

- システムイメージの回復

事前にシステムイメージを保存しておいた場合は、Windowsやソフトウェアを、システムイメージ保存時の状態まで一度にリカバリーすることができます。

※再インストールと同様、保存されているデータは消去されます。事前にバックアップを行ってください。

システムイメージの回復については、次の場所をご覧ください。

「PCお役立ちナビ」－「トラブル解決」－「Windowsの操作」－「バックアップ」－「システムイメージの作成を使ってバックアップを行う方法」

- Windows メモリ診断

メモリーにハードウェアエラーが発生しているかどうかを確認します。

- コマンドプロンプト

コマンドプロンプトウィンドウを開きます。

「システム回復オプション」画面が表示されたら

Windows に不具合が起きると、HDD 内のWindows RE が自動的に起動し、「システム回復オプション」画面が表示されます。

「システム回復オプション」画面が表示されたら、次の手順でWindows RE の項目を表示させ、対処を行います。

- 1 「システム回復オプション」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 2 「回復オプションにアクセスするには…」と表示されたら、「ユーザー名」を選択し、パスワードを設定していた場合には「パスワード」にパスワードを入力して [OK] をクリックします。
- 3 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。


 p.209 「Windows RE の項目」

HDD 内のWindows RE を手動で起動する

HDD 内のWindows RE は、手動で起動することもできます。

手動で起動する方法は、次のとおりです。


- 1 コンピューターの電源を切り、20 秒程放置してから、電源を入れます。
- 2 「EPSON」と表示され、消えた直後に **F8** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
- 3 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、「コンピューターの修復」を選択し、**↵** を押します。

- 4 「システム回復オプション」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 5 「回復オプションにアクセスするには…」と表示されたら、「ユーザー名」を選択し、パスワードを設定していた場合には、「パスワード」にパスワードを入力して、[OK] をクリックします。
- 6 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。
 p.209 「Windows RE の項目」

DVD のWindows RE を使用する

Windows RE は、本機に添付の「Windows 7リカバリー DVD」にも収録されています。HDD 内に設定されているWindows RE を消去してしまった場合などに使用してください。

DVD に収録されているWindows RE の起動方法は、次のとおりです。

- 1 「Windows 7リカバリー DVD」を光ディスクドライブにセットして、コンピューターを再起動します。
- 2 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。
- 3 「システム回復オプション」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 4 オペレーティングシステムの一覧が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 5 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。
 p.209 「Windows RE の項目」

▶システム診断ツールを使う

システム診断ツールを使うと、ハードウェアに不具合が発生しているかどうかを診断することができます。

システム診断ツールの種類

システム診断ツールには、次の2種類があります。

- PCお役立ちナビから起動するシステム診断ツール

PCお役立ちナビからシステム診断を行うことができます。Windowsを起動できる場合に使用します。

- CDから起動するシステム診断ツール

Windowsが起動できない場合に、「リカバリーツールCD」からツールを起動してシステム診断を行います。

システム診断を実行する

Windowsを起動できる場合とできない場合で、システム診断の実行方法は異なります。

Windowsを起動できる場合

PCお役立ちナビからシステム診断を行います。
実行方法は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「PCお役立ちナビ」アイコンをダブルクリックします。



<PC お役立ちナビアイコン>

- 2** PCお役立ちナビが起動したら、[トラブル解決] – [システム診断ツール起動] をクリックします。

- 3** システム診断ツールが起動したら、診断したい項目をクリックします。
該当項目の診断が開始されます。

- 4** 診断が終了したら、診断結果を確認します。

「Passed」と表示された場合、ハードウェアは正常に動作しています。
「Failed」と表示された場合は、該当項目に不具合がある可能性があります。
『サポート・サービスのご案内』(別冊)をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。

Windowsを起動できない場合

「リカバリーツールCD」からシステム診断ツールを起動します。
実行方法は、次のとおりです。

- 1** リカバリーツールCDを光ディスクドライブにセットして、コンピューターを再起動します。
- 2** 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えた後、「Kernel Loading・・・ Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 3** 診断が終了したら、診断結果を確認します。
「F」が表示された場合は、表示された項目に不具合がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。
- 4** 光ディスクドライブからリカバリーツールCDを取り出し、電源を切ります。
これでシステム診断は完了です。

付録

本機をご使用になる際に役に立つ情報や、本機の仕様などについて説明します。

「お手入れ」	216
「データのバックアップ」	217
「バックアップCDの作成」	219
「セキュリティーチップ（TPM）によるデータの暗号化」	221
「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」	222
「リチウム電池の交換」	231
「コンピューターを廃棄するときは」	234
「機能仕様一覧」	236

お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。



お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

▶本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

外装の汚れ

コンピューター本体の外装の汚れは、中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。

キーボードやマウスの外装の汚れも同様です。



ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。
変色や変形の可能性があります。


通風孔メッシュ

コンピューター本体左側面の通風孔（吸気用）にあるメッシュにホコリなどがたまると、空気の通りが悪くなります。


通風孔メッシュのホコリは、定期的に乾いた柔らかい布で取り除いてください。

コンピューター本体内部

本体内部にホコリなどがたまっている場合は、エアスプレーで吹き飛ばしてください。

 p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」

お手入れの際、必要に応じてリンクバーを取り外してください。

 p.132 「拡張ボードの取り付け・取り外し」—手順4・手順8



- 作業するときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火災の原因となります。
- 電源ユニットは絶対に分解しないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



- 作業時は、誤って本体内部の部品を傷つけないよう注意してください。
- 水分を含ませたティッシュや化学ぞうきんなどは、使わないでください。
水分や化学物質により故障の原因となります。

データのバックアップ

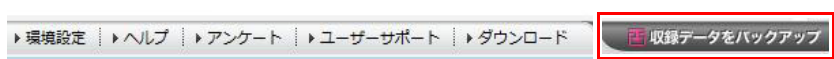
Windowsを再インストールすると、Windowsがインストールされるドライブ（通常Cドライブ）に保存しているデータはすべて消去されます。Windowsを再インストールする前に、必要なデータのバックアップを取っておいてください。

▶PCお役立ちナビのデータをバックアップする

PCお役立ちナビに収録されている、コンテンツ類やマニュアルデータ（PDF）は、Windowsを再インストール（リカバリー）すると、消えてしまいます。Windowsの再インストールをする際は、事前にバックアップを行ってください。

バックアップ方法

光ディスクメディアやUSB記憶装置をセットしてから、PCお役立ちナビ画面右下の「収録データをバックアップ」をクリックし、画面の指示に従ってバックアップを行ってください。



復元方法

バックアップしたデータの入った光ディスクメディアやUSB記憶装置をセットしてから、PCお役立ちナビ画面右下の「バックアップ情報を復元」をクリックし、画面の指示に従って復元を行ってください。



コンテンツやマニュアルデータをダウンロードする

データのバックアップを取らずに再インストールをしてしまった場合は、Webのユーザーサポートページから、コンテンツ類やマニュアルデータ（PDF）をダウンロードします。



ダウンロードしたマニュアル類（ユーザーズマニュアル以外）は、PCお役立ちナビには復元できません。マニュアルごとにファイル（PDF）を開いてご覧ください。

ダウンロード

PCお役立ちナビで、コンテンツやマニュアルを表示する際、画面に「コンテンツデータが存在しません」と表示されたら、メッセージ内のリンクからユーザーサポートページにアクセスし、コンテンツ類やマニュアルデータ（PDF）をダウンロードします。

復元

ダウンロードしたファイル内に記載されている復元方法に従って、データを復元します。

検索情報の再構築

マニュアルとコンテンツ類を復元したら、検索情報の再構築を行います。画面下 [環境設定] 内の [検索情報の再構築] をクリックしてください。

▶データのバックアップ方法

作成したファイルやInternet Explorerの「お気に入り」など、HDD内のデータをバックアップする方法やバックアップしたデータを復元する方法は、次の場所をご覧ください。

「PCお役立ちナビ」 - 「トラブル解決」 - 「Windowsの操作」 - 「バックアップ」 - 「Windows転送ツールを使う」

バックアップCDの作成

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアのインストール用データは、CDメディアにバックアップすることができます。

HDDが故障したり、誤って消去禁止領域を削除したりすると、インストール用データは消えてしまいます。万一に備え、インストール用データをCDメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

▶バックアップCDの作成方法

バックアップCDはリカバリーツールを使用して作成します。

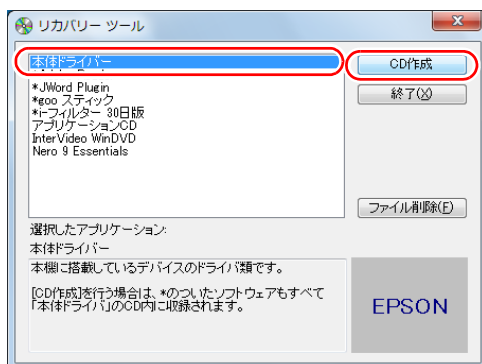
バックアップCDの作成方法は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。



<リカバリーツールアイコン>

- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[CD作成] をクリックします。
- 4 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧からCDにバックアップしたい項目を選択して [CD作成] をクリックします。
バックアップするデータが一時的にHDDにコピーされます。選択した項目によっては、手順5の画面が表示されるまでに数分かかります。



<イメージ>

項目名の前に「*」のついたソフトウェアは、すべて本体ドライバーのCD内に収録されます。それ以外の項目は、1項目につきCDメディアが1枚必要です。


- 5 画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってCDに書き込みを行ってください。

▶バックアップCDからインストールを行うには

作成したバックアップCDから本体ドライバーやソフトウェアをインストールする方法は次のとおりです。

ここでは、本体ドライバーのバックアップCDからインストールする手順を例に説明します。

- 1 作成した本体ドライバーのバックアップCDを光ディスクドライブにセットします。
- 2 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。
クリックする記載内容は、「Setup.exeの実行」など、作成したバックアップCDによって異なります。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピューター」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい]をクリックします。
- 4 「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、[インストール]をクリックします。
本体ドライバー以外のソフトウェアをインストールする場合は、ソフトウェア名をクリックします。

ここで表示される画面は、作成したバックアップCDによって異なります。
以降の手順は、 p.172 「ソフトウェアの再インストールを行う」のそれぞれの項目をご覧ください。

セキュリティーチップ(TPM)によるデータの暗号化

本機に搭載されているセキュリティーチップ (TPM) を使用すると、本機に保存されているデータを高度に暗号化することができます。TPMのセキュリティー機能の使用方法は、次の場所をご覧ください。

「PCお役立ちナビ」－「マニュアルびゅうわ」－「セキュリティー機能 (TPM) 設定ガイド」



TPM のセキュリティー機能で設定したパスワードは絶対に忘れないでください。忘れた場合、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。

使用上の注意

これは管理者向けの機能です。TPMのセキュリティー機能を使用する場合は、内容を十分に理解し、お客様の責任において暗号化を行ってください。

TPMのセキュリティー機能使用前の準備


TPMのセキュリティー機能を使用するには、BIOSの設定と「セキュリティーチップユーティリティ」のインストールが必要です。

● BIOSの設定

BIOSの設定値を次のように変更します。

「Boot」メニュー画面－「Security」－「Trusted Computing」
Execute TPM Command : Enabled (有効)

購入時は、「Disabled」(無効)に設定されています。

 p.145 「BIOS Setupユーティリティの操作」

● セキュリティーチップユーティリティのインストール

購入時、本機に「セキュリティーチップユーティリティ」はインストールされていません。TPMのセキュリティー機能を使用するには、セキュリティーチップユーティリティのインストールを行う必要があります。インストール方法は、次の場所をご覧ください。

「PCお役立ちナビ」－「マニュアルびゅうわ」－「セキュリティー機能 (TPM) 設定ガイド」

HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成

ここでは、HDD領域（ドライブ）を分割・変更して使用方法について説明します。

▶HDD領域を分割して使用する（概要）

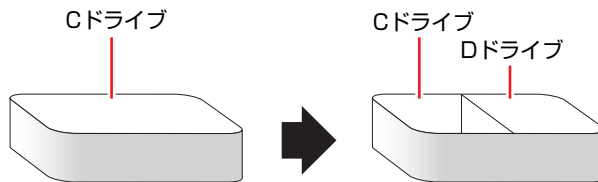
HDD領域（ドライブ）の分割

HDD領域は、いくつかに分けて、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。

HDDを分割した1つ1つを「HDD領域」または「パーティション」とも言います。また、Windowsで使えるHDD領域が、「ドライブ」になります。

<1台のHDDを分割する>

例：1つのHDD領域（Cドライブ）を、2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割します。



消去禁止領域

HDD領域には、「消去禁止領域」が作成されています。

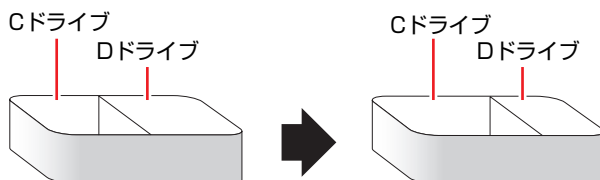
「消去禁止領域」には、本体ドライバーやソフトウェアなどを再インストールするためのデータと「Windows回復環境（Windows RE）」が設定されています。この領域を削除すると再インストールができなくなりますので、ご注意ください。

HDD領域（ドライブ）のサイズの変更

すでに分割されているHDD領域のサイズ（容量）を変更することもできます。

<ドライブのサイズを変更する>

例：Cドライブのサイズを大きくします。



この場合は、CドライブとDドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

▶Cドライブを分割・変更する

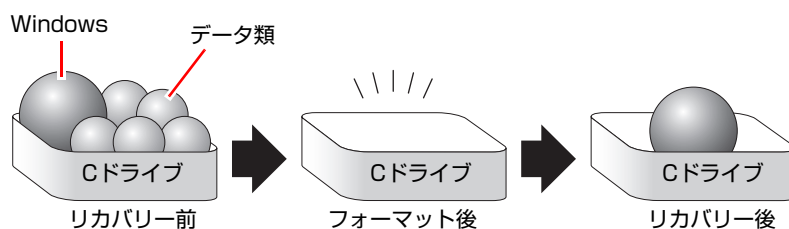
Cドライブ分割のメリットとデメリット

Cドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
Cドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

●メリット

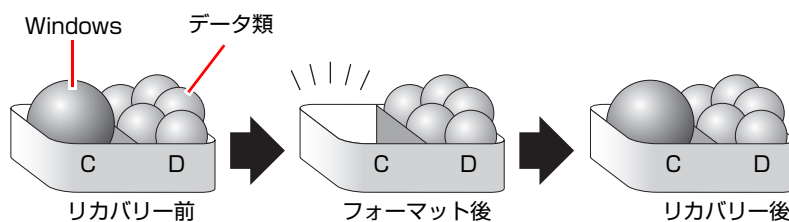
HDD領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、リカバリー（Windowsの再インストール）時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

<HDD領域が1つの場合>



リカバリー（Windowsの再インストール）を行うと、Cドライブのデータはすべて消去されます。

<HDD領域を分割した場合>



たとえば、WindowsやソフトウェアはCドライブに、作成したデータなどはDドライブに保存しておきます。

この状態でリカバリー（Windowsの再インストール）を行うと、消去されるのはCドライブのみとなるため、Dドライブのデータは、リカバリー後、すぐにそのまま使用することができます。



制限


HDDが分割されている状態でリカバリーを行うときは、万一に備えてCドライブ以外のドライブの重要なデータをバックアップしてください。

● デメリット

- Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリー（Windowsの再インストール）が必要です。
- HDD 領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。


Cドライブの分割・変更の流れ

Cドライブの分割・変更は、リカバリー（Windowsの再インストール）中に行います。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してからサイズを指定して再作成します。


Cドライブ以外のドライブの変更方法は、 p.226 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。

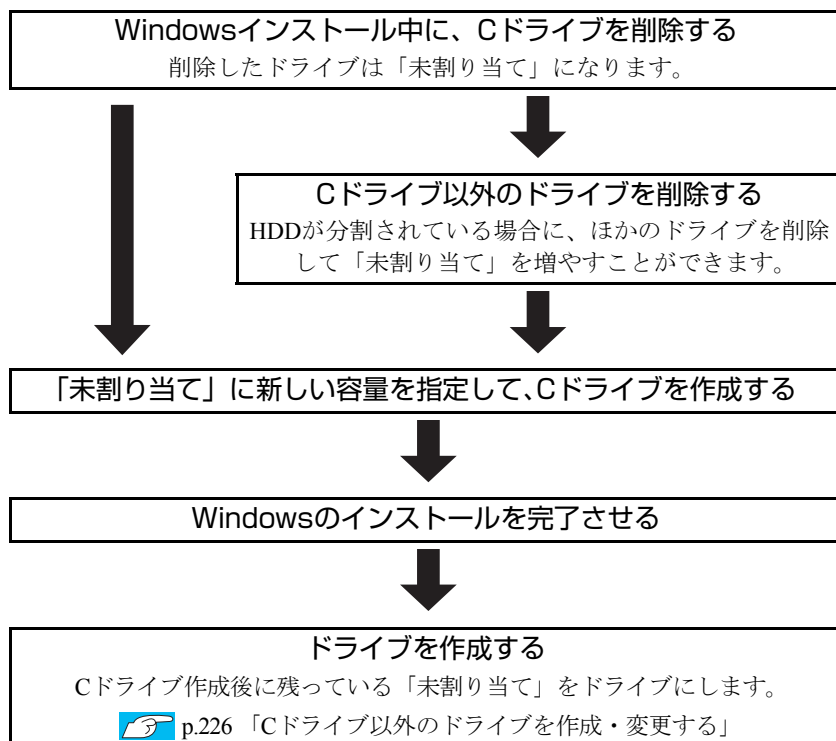


ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。必要に応じてバックアップを取っておいてください。

 p.217 「データのバックアップ」


Cドライブの分割・変更の流れは次のとおりです。


作業は  p.225 「Cドライブを分割・変更する」に従ってください。



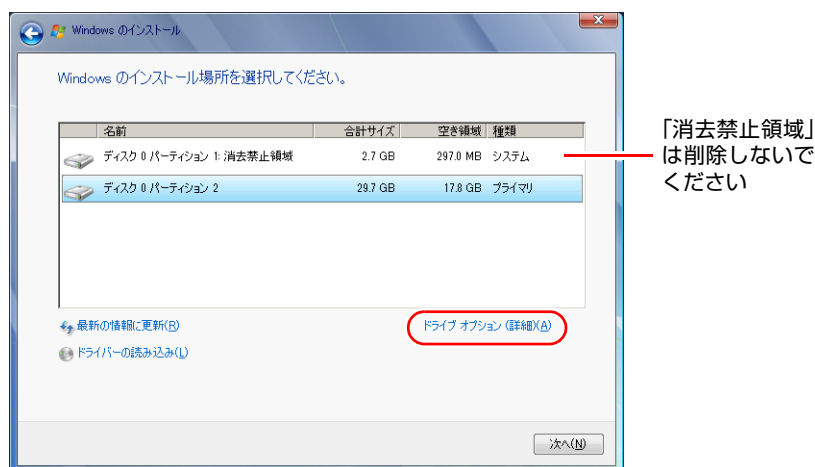
Cドライブを分割・変更する

Cドライブの分割・変更をする場合は、Windowsの再インストールが必要です。

 p.178 「Windows 7のインストール」の手順12を次の手順に読み替えて、Windowsのインストールを行ってください。

<  p.178 「Windows 7のインストール」の手順12の読み替え >

1 「ドライブオプション（詳細）」をクリックします。



<イメージ>

2 「ディスク0パーティション2」(Cドライブ) が選択された状態で「削除」をクリックします。

3 「パーティションには…」と表示されたら、[OK] をクリックします。

削除したパーティション (Cドライブ) が「未割り当て領域」となります。

4 次のとおり作業を続けます。

<Cドライブを分割したい場合>

(1) 「ディスク0未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
手順5に進みます。

<Cドライブの容量を増やしたい場合>

すでにHDDが分割されている場合は、Cドライブ以外のドライブを削除して未割り当ての領域を増やします。ただし、削除したドライブのデータは消えてしまいます。

※「消去禁止領域」には、ドライバーやソフトウェアの再インストール用データが収録されています。絶対に削除しないでください。


(1) そのほかのパーティションもCドライブと同様に削除し、「ディスク0未割り当て領域」を増やします。

(2) 「ディスク0未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
手順5に進みます。

5 Cドライブのサイズを決めます。サイズを入力し、「適用」をクリックします。
Cドライブには、40GB (40000MB) 程度を割り当てることをおすすめします。

6 「ディスク0パーティション2」(Cドライブ) が選択された状態で、[次へ] をクリックします。

Windowsのインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは20分~40分かかります。


続いて  p.178 「Windows 7のインストール」手順13に進みます。

手順13の画面が表示されるまで、キーボードやマウスは操作しないでください。

▶Cドライブ以外のドライブを作成・変更する


ここでは、Cドライブ以外のドライブを作成・変更する方法について説明します。
次のような場合にご覧ください。

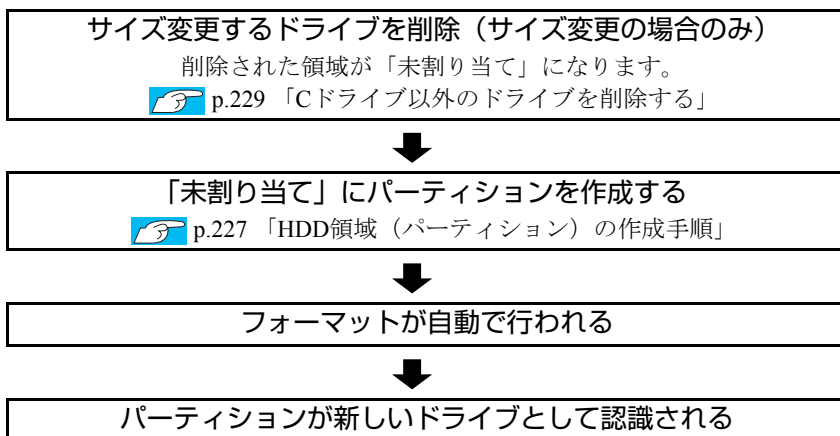
- Cドライブ以外のドライブのサイズを変更する場合
- Windowsの再インストール中にCドライブを分割して作成・変更された「未割り当て」をドライブにして使用する場合
- HDDを増設・交換した場合

Cドライブ (Windowsの入っているドライブ) の分割・変更を行う場合は、
 p.223 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

ドライブ作成・変更の流れ

ドライブの作成の流れは次のとおりです。

作業は  p.227 「HDD領域(パーティション)の作成手順」に従ってください。



※HDD内の「未割り当て」にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows上でドライブ (DやEなど) として利用できるようになります。

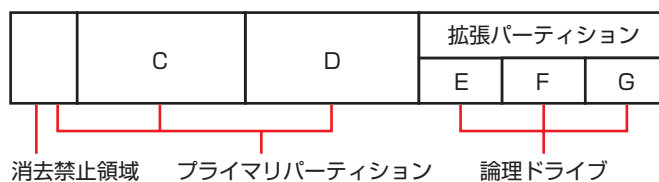
参考

パーティションとは

ドライブの作成・変更を行う画面（ディスクの管理）では、HDD領域のことを「パーティション」と言います。パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。

- 1つのHDDに作成できるパーティションは最大で4つです。「消去禁止領域」もパーティションの1つです。
- パーティションを作成すると、自動的に3つ目まではプライマリパーティションとなり、4つ目は拡張パーティションとなります。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

<パーティションの組み合わせの例>



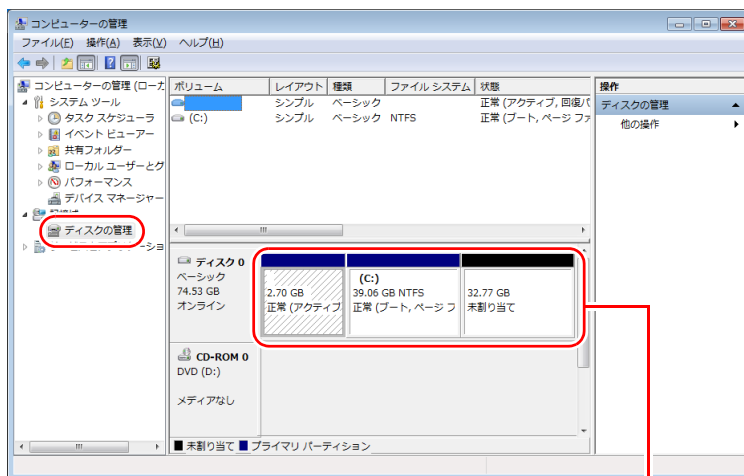
HDD領域（パーティション）の作成手順

HDD領域（パーティション）を作成する手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「管理ツール」 - 「コンピューターの管理」をダブルクリックします。

2 「コンピューターの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。

HDD領域の状態が表示されます。

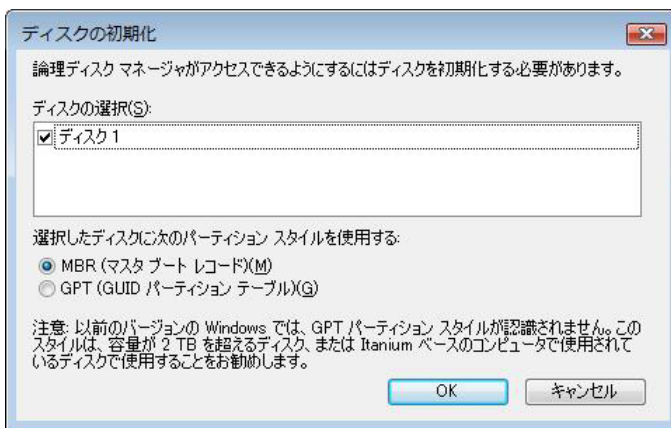


HDD領域の状態

<イメージ>

<新しいHDDを増設した場合>

「ディスクの初期化」画面が表示されます。[OK] をクリックして、ディスクの初期化を行ってください。



3 パーティションを作成したい「未割り当て」の領域を右クリックして、表示されたメニューから「新しいシンプルボリューム」をクリックします。

4 「新しいシンプルボリュームウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。

5 「ボリュームサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して、[次へ] をクリックします。

- 6 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、ドライブ文字を選択して [次へ] をクリックします。
- 7 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 8 「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」と表示されます。[完了] をクリックします。
フォーマットが開始します。フォーマットが完了したら、HDD領域（パーティション）の作成は完了です。

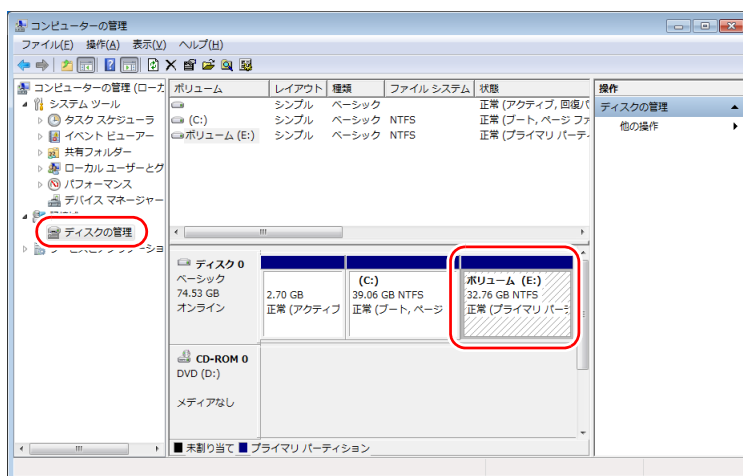
▶Cドライブ以外のドライブを削除する

Cドライブ以外のドライブ（DやEなど）のサイズを変更するには、変更するドライブを削除して、新しいサイズでドライブを作成しなおします。

ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、CドライブやCD-Rメディアなどにあらかじめバックアップを行ってください。

ドライブを削除する手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「管理ツール」 - 「コンピューターの管理」をダブルクリックします。
- 2 「コンピューターの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。
HDD領域の状態が表示されます。



<イメージ>

- 3 削除したいドライブ（パーティション）を右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの削除」をクリックします。

4 「・・・続行しますか？」と表示されたら【はい】をクリックします。

パーティションを削除すると、「未割り当て」になります。「未割り当て」をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。



p.227 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティー」で設定した情報は、マザーボード上のリチウム電池により保持されます。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

- CR2032（または同等品）

リチウム電池は消耗品です。コンピューターの使用状況により異なりますが、寿命は約3年です。

日時や時間がおかしくなったり、BIOSで設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。



- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。





- 内蔵リチウム電池の交換は、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



リチウム電池の交換を行うと、現在の BIOS の設定情報は初期値に戻ります。リチウム電池の交換を行う前に、BIOS の設定値を記録しておくことをおすすめします。

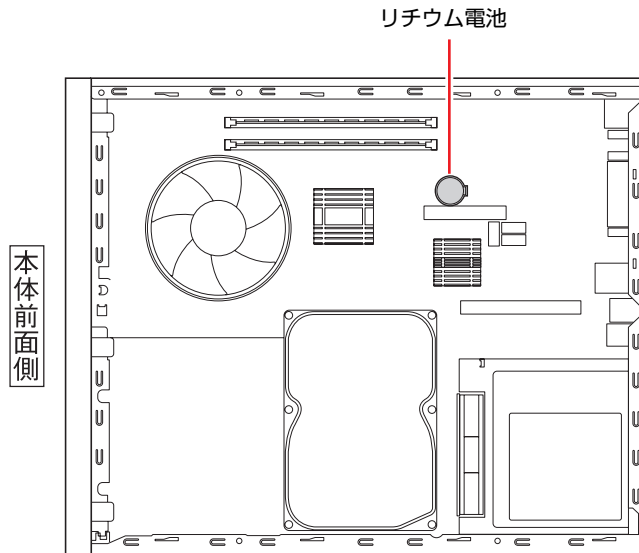
 p.166 「BIOS の設定値」

リチウム電池を交換する手順は、次のとおりです。

- 1 コンピューター本体および接続している周辺機器の電源を切ります。**
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 コンピューター本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。**
- 3 本体カバーを取り外します。**
 p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り外し」
- 4 拡張ボードを装着している場合は、リンクバーを取り外します。**
 p.132 「拡張ボードの取り付け・取り外し」－「取り付け」手順4

5 リチウム電池の位置を確認します。

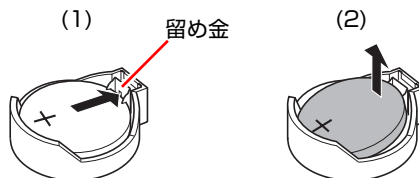
リチウム電池は、マザーボード上の次の位置にあります。



6 リチウム電池を抜きます。

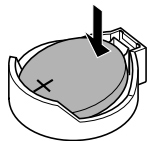
(1) 電池ホルダーの留め金を押します。

(2) リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。




7 新しいリチウム電池を取り付けます。


刻印面 (+側) が表側になるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。取り付けると、「カチッ」と音が鳴ります。






8 手順4でリンクバーを取り外した場合は、もとどおりに取り付けます。

 p.132 「拡張ボードの取り付け・取り外し」－「取り付け」手順8

9 本体カバーを取り付けます。

 p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り付け」

10 コンピューターの電源を入れます。

- 11** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「CMOS Setting Wrong」と表示されたら、を押して、BIOS Setupユーティリティーを実行します。
 p.145 「BIOS Setupユーティリティーの操作」
- 12** 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行します。
 p.150 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」
- 13** 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。
- 14** 「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」で [Ok] を選択してBIOS Setupユーティリティーを終了します。

コンピューターを廃棄するときは

本機を廃棄するときは『サポート・サービスのご案内』（別冊）の「コンピューターの廃棄・譲渡について」をご覧ください。

▶HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前にHDDのデータを消去してください。

リカバリーツールCDに収録されている「システム診断ツール」では、HDD内のデータをすべて消去することができます。

消去を開始すると、HDDのデータはもとは戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。










データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。HDDのデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

<2台のHDDを接続している場合>

1台目のHDDのデータのみが消去されます。2台目のHDDのデータを消去する場合は、マザーボードのシリアルATAコネクタに接続されている2台目HDDのシリアルATAケーブルを1台目HDDのシリアルATAコネクタに差し替えてから、データの消去を行ってください。

データの消去

HDD内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、リカバリーツールCDを光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示された場合は、 をクリックして画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [▶] - 「再起動」をクリックして、本機を再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Kernel Loading・・・Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 4**  +  を押して診断を中止した後、どれかキーを押します。
- 5** 選択項目画面が表示されたら、 で「HD Erase」を選択して  を押します。
- 6** 選択項目画面が表示されたら、 で「Full Erase」を選択して  を押します。

- 7** 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して **[←]** を押します。
「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。消去を中止する場合は、**[Esc]** を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。
- 8** キーボードで「Yes」と入力します。
消去が始まります。
消去には、しばらく時間がかかります。かかる時間はHDDの容量によって異なります（40GBのHDDの場合で約30分）。
- 9** 「Erase of HDO :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、リカバリーツールCDを光ディスクドライブから取り出して、コンピューターの電源を切ります。
これでデータの消去は完了です。

機能仕様一覧

項目		AT971	AT971E
CPU	プロセッサ	インテルPentiumプロセッサ、インテルCore 2 Duoプロセッサ、またはインテルCeleronプロセッサ（購入時の選択による）	インテルPentiumプロセッサ、またはインテルCore 2 Duoプロセッサ（購入時の選択による）
	ソケット	LGA775 Socket	
チップセット		インテルG31 Express チップセット (G31+ICH7)	
BIOS		AMI BIOS	
セキュリティチップ (TPM)	対応規格	TPM 1.2	
	コントローラー	Infineon SLB9635TT1.2	
メモリー	メインメモリー	PC2-6400 (DDR2-800 SDRAM) を使用して最大約3GB利用可能	PC2-6400 (DDR2-800 SDRAM) を使用して2G以上搭載、最大約3GB利用可能
	ビデオメモリー	メインメモリー 1GB搭載時：メインメモリーより最大251MBを使用 メインメモリー 2GB以上搭載時：メインメモリーより最大256MBを使用	
ビデオコントローラー		チップセット内蔵	
サウンドコントローラー		ハイデフィニションオーディオ対応 Realtek製 ALC262	
記憶装置	HDD	1台内蔵（シリアルATA300MB/s対応）（容量、台数は購入時の選択による）	
		オプション選択された場合、増設HDDを1台内蔵（シリアルATA II対応）	
	FDDまたはマルチカードリーダー（オプション）	オプション選択された場合、3.5型FDDまたはマルチカードリーダーを1台内蔵 マルチカードリーダー（メモリースティック、スマートメディア、コンパクトフラッシュ、SDメモリーカード、マルチメディアカード対応）	
インタフェース	USB	6：USB2.0（前面側×2、背面側×4）	
	LAN	1：RJ-45 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T対応 自動認識	
	サウンド	前面側：ヘッドホン出力コネクター×1、マイク入力コネクター×1 背面側：ライン出力コネクター×1、ライン入力コネクター×1	
	ディスプレイ	1：VGAコネクター（アナログRGB ミニD-SUB 15ピン） 1：DVI-Dコネクター（デジタル DVI-D24ピン）	
	キーボード	1：IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン	
	マウス	1：IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン	
	パラレル	1：セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPPサポート	
	シリアル	1：RS-232C準拠D-SUB 9ピン	
ドライブベイ	5.25型ドライブベイ	1：光ディスクドライブ1台を装着済み（種類は購入時の選択による）	
	HDDベイ	2：HDD1台を装着済み オプションのFDD、マルチカードリーダーまたは増設HDDから1台を装着可能	
外部拡張スロット		2：PCI ボード長178mm×ボード幅108mmまで装着可能	
キーボード/マウス		購入時の選択による	
カレンダー時計		内蔵（リチウム電池によりバックアップ）	
外形寸法（縦置き時：幅×奥行×高さ）		本体：99×383×310mm（突起部、縦置きスタンド除く）	
質量		本体：約6.8kg（最小構成時）	
電源		AC100V±10%（50/60Hz） 容量：250W	
消費電力		305W（最大）/1.9W（スリープ時）/1.0W（電源OFF時）	
動作環境		動作温度：10～35℃、動作湿度：20～80%（ただし、結露しないこと）	

索引

数字

3.5型2DD	76
3.5型2HD	76
3.5型FDD	29

A

Adobe Reader	22
インストール	183
セットアップ	184
Advancedメニュー画面	159

B

BIOS	143
BIOS Setupユーティリティ	145
起動	145
起動(Boot)デバイスの順番を変更する	155
終了	149
設定項目	157
設定値	166
設定値を元に戻す	150
操作	146
パスワードの設定	151
Bootメニュー画面	163

C

Caps Lock	62
CDメディア	
読み込み・再生	71
CMOS RAMの初期化	206
COAラベル	21
Compact Flash	80
COMポート	116
CPRM	72
Cドライブ	64
分割・変更する	223

Cドライブ以外のドライブ

削除する	229
作成・変更する	226

D

DDR	126
DVDメディア	
読み込み・再生	72
DVI-Dケーブル	35
DVI-Dコネクタ	27, 35

E

Exit & Discard Changes	149
Exit & Save Changes	149
Exitメニュー画面	165

F

FDDアクセスランプ	29
FDDイジェクトボタン	29
FDD(フロッピーディスクドライブ)	29
使う	76
FD(フロッピーディスク)	76
製品保護上の注意	8
使う	76
フォーマット	78

G

gooスティック	23, 104
インストール	189

H

HDDアクセス制限	154
HDDアクセスランプ	26
HDD設定変更サービス	65
HDD増設用ブラケット	120
HDDのデータ消去	234

HDD領域	64	使い方	75
分割・変更・作成	222	NTFSファイルシステム	64
HDD(ハードディスクドライブ)	64	Num Lock	62
使う	64		
取り付け・取り外し	136	O	
取り付け・取り外し後の作業	141	OS	15
I		P	
Internet Explorer	102	PCIスロット	131
情報バー	103	PCお役立ちナビ	22, 54
追加機能	104	Power メニュー画面	161
i-フィルター 30日版	23, 108		
インストール	188	S	
管理パスワード	108	Scroll Lock	62
ユーザー登録	188	SD Memory Card	80
		SDRAM	126
		SDカードスロット	83
J		SDメモリーカード	80
Java2 Runtime Environment	22	Smart Media	81
JWord Plugin	23, 104	Supervisor Password(管理者パスワード)	151
インストール	189		
		T	
L		TPM(セキュリティーチップ)	221
LAN機能	98		
LANケーブル	38, 98	U	
接続	38	USB	85
LANコネクタ	28, 38, 98	USB機器	85
		接続と取り外し	85
M		使う	85
Mainメニュー画面	157	USBコネクタ	26, 27
Memory Stick	81	User Password(ユーザーパスワード)	151
MS-IME	61		
Multi Media Card	82	V	
		VGAケーブル	35
N		VGAコネクタ	27, 35
Nero 9 Essentials	23, 74		
インストール	186		

W

Wakeup On LAN	99
WDLCフォトガジェット	23
インストール	187
Webフィルタリング	108
Webフィルタリングソフトウェア	108, 188
インストール	188
Windows	22
強制的に電源を切る	58
Windows 7	
インストール	178
セットアップ	44
Windows 7リカバリーDVD	22, 172
Windows Live Suite	23
インストール	184
Windows Liveメール	102
Windows RE	65, 209
Windows Update	105
Windows メモリ診断	210
Windows回復環境	65, 209
WinDVD	23, 72
インストール	186

あ

アース線	39
アース端子	39
アイコン	16
アップグレードサービス	121
アップデート	
BIOS	144
Windows	105
アナログディスプレイ	87

い

色	89
---------	----

インストール

Adobe Reader	183
gooスティック	189
i-フィルター 30日版	188
JWord Plugin	189
Nero 9 Essentials	186
WDLCフォトガジェット	187
Webフィルタリングソフトウェア	188
Windows 7	176, 178
Windows Live Suite	184
WinDVD	186
拡張ボードのドライバー	183
セキュリティソフトウェア	185
セキュリティチップユーティリティ	221
本体ドライバー	181
マカフィー・PCセキュリティセンター	
90日期間限定版	185
リカバリーツール	181
インターネットエクスプローラー (Internet Explorer)	102

お

お手入れ	216
お問い合わせ情報シール	21
オペレーティングシステム	15
音量の調節	95, 97

か

解像度	88
外部スピーカー	93
書き込み	
光ディスクメディア	74
拡張スロット	28, 120, 131
拡張デスクトップモード	90
拡張パーティション	227
拡張ボード	
取り付け・取り外し	132

シリアルATAケーブル	136, 139
シリアルコネクタ	28, 116
シングルチャネル	127

す

数値キー	60
スクロール	63
スタートアップ修復	209
スタートボタン	16
スタートメニュー	16
スマートメディア	81
スマートメディアスロット	83
スリープ	112
スリープ状態	112
スリープにする	57
スロットカバー	133

せ

制御キー	60
製品保護上の注意	7
セーフモード	204
セキュリティー機能	221
セキュリティーソフトウェア	22, 106
インストール	185
セキュリティー対策	49
セキュリティーチップユーティリティ	23
インストール	221
設定	177
セキュリティーチップ(TPM)	221
セキュリティーロックスロット	28, 117
接続と取り外し	
USB機器	85
設定値を元に戻す	150

セットアップ	
Adobe Reader	184
Windows	42
Windows 7	44
セットアップ完了後の作業	47
セットと取り出し	
FD	76
光ディスクメディア	68
メモリーカード	83
前面	26

そ

増設	
HDD	136
拡張ボード	132
メモリー	126
ソフトウェアの強制終了	58

た

タスクバー	16
縦置きスタンド	32
縦置きにする場合	32
タブ	16
ダブルクリック	63

ち

チップセットドライバ	22
直接入力モード	61

つ

通知領域	16
通風孔	27

て

ディスクの管理	190
---------------	-----

ディスプレイ

DVI-Dコネクタ	27, 87
VGAコネクタ	27, 87
接続	35
ディスプレイの電源を切る	112
データの暗号化	221
デジタルディスプレイ	87
デスクトップ	16
電源コード	
接続	39
電源コネクタ	27
電源スイッチ	26
電源の入れ方	43, 57
電源の切り方	56
電源ランプ	26
表示	115
電源を切る	56
電池ホルダー	232
添付されているソフトウェア	22

と

ドラッグアンドドロップ	63
トラブルシューティングツール	195
取り付け・取り外し	
HDD	136
拡張ボード	132
本体カバー	123
メモリー	127
取り付け・取り外し後の作業	
HDD	141
拡張ボード	135
メモリー	130
「取り外し」アイコン	86

な

内蔵モノラルスピーカー	93
-------------	----

に

日本語入力システム	61
日本語入力モード	61
入力キー	60

ね

ネットワーク	98
接続	38
ネットワーク機能	98
使う	98
ネットワークドライバ	22

は

パーティション	227
ハードディスクドライブ(HDD)	64
廃棄(コンピューター)	234
ハイブリッドスリープ	112
パスワード	151
パスワードの設定	151
バックアップ	177, 217
バックアップCD	
インストール	220
作成	219
パラレルコネクタ	28, 116
ハングアップ	58

ひ

光ディスクドライブ	26
使う	67
光ディスクドライブアクセスランプ	26
光ディスクドライブイジェクトホール	26
光ディスクドライブイジェクトボタン	26
光ディスクメディア	
書き込み	74
製品保護上の注意	8
読み込み・再生	71, 72

ビデオドライバー	22
ビデオプロジェクター	87
ビデオメモリー	130
表示機能	87
標準ユーザー	51

ふ

ファイル削除	
リカバリーツール	182
フォルダーメニュー	50
復帰方法	57
省電力状態	115
プライマリパーティション	227
フロッピーディスクドライブ (FDD)	76

へ

ヘッドホン出力コネクタ	26, 93
-------------------	--------

ほ

ボタン	16
ボリューム	95, 97
本機でできること	25
本体カバー	
取り外し・取り付け	123
本体ドライバーのインストール	181

ま

マイク使用時の音量調節	97
マイク入力コネクタ	26, 93
マウス	
製品保護上の注意	9
接続	37
操作	63
使い方	42
マウスコネクタ	27
マウスポインター	42

マカフィー・PCセキュリティセンター	
90日間限定版	22, 106
インストール	185
マカフィー・サイトアドバイザプラス	104
マルチカードリーダー	80
アクセスランプ	30
マルチメディアカード	82

み

右クリック	63
-------------	----

め

メモリー	
仕様	126
増設	126
増設・交換後の作業	130
取り付け・取り外し	127
メモリーカード	
セットと取り出し	83
メモリースティック	81
メモリースティックスロット	83

も

文字キー	60
文字を入力するには	61

ゆ

ユーザーアカウント	51
作成	51
種類	51
ユーザーアカウント制御画面	52
ユーザー登録	
i-フィルター 30日版	188
ユーザーパスワード	151
削除	153

よ

横置きにする場合	33
読み込み・再生	
CDメディア	71
DVDメディア	72

ら

ライザーボード	133
ライセンス認証	45
ライティングソフト	74
ライトプロテクト	79
ライン出力コネクタ	27, 94
ライン入力コネクタ	27, 94

り

リカバリ	170
リカバリDVD	172

リカバリツール	22
インストール	181
バックアップCDの作成	219
ファイル削除	182
リカバリツールCD	22, 172
リチウム電池の交換	231
リムーバブルディスク	84
リモートブート	101
領域の作成	190
リンクバー	132, 137

ろ

ローマ字入力	61
録音	
音量調節	97
論理ドライブ	227

Memo

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼動システムなど極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用は意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でのご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人 電子情報技術産業協会のパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

有寿命部品について

当社のコンピューターには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。

上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。

なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。

JIS C 61000-3-2適合品

本製品は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

電源の入力波形は、正弦波のみをサポートしています。

パソコン回収について



当社では、不要となったパソコンの回収・再資源化を行っています。
PCリサイクルマーク付きの当社製パソコンおよびディスプレイは、ご家庭から廃棄する場合、無償で回収・再資源化いたします。
パソコン回収の詳細は下記ホームページをご覧ください。
<http://shop.epson.jp/pcrecycle/>

著作権保護法について

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。

また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

- Microsoft、Windows、Windows 7、Windows Live、Windows Media、Internet Explorer、Hotmail、Silverlight、MSN、Outlookは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Intel、インテル、Intelロゴ、Pentium、Celeron、Intel Core、Core Insideは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
- PS/2はInternational Business Machinesの登録商標です。
- McAfeeおよびマカフィーは、米国法人McAfee, Inc. またはその関連会社の米国またはその他の国における商標または登録商標です。
- Adobe、Adobe ロゴ、Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- Memory Stick、マジックゲート、Memory Stickのロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- Multi Media Card™は、ドイツInfineon Technologies AG社の商標です。
- SDロゴは商標です。
- SmartMedia™、及びそのロゴは、株式会社 東芝の商標です。

そのほかの社名、製品名は、一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。



shop.epson.jp